

# 市立横手病院年報

平成 23 年 度

市 立 横 手 病 院

# 平成23年度年報発刊にあたり

市立横手病院院長 丹 羽 誠

平成23年度は、1) 3.11震災直後の1年 2) 病院工事完了を受けての「病院祭」 3) DPC 2年目、7対1看護体制への対応 の年であった。

1) 平成23年3月11日の震災後、4月7日の大きな余震を経験した。いずれでも直接の被害はなかったが、地域停電・即断水での院内・院外対応を経験した。(秋田県病院協会会報46巻、第19回秋田県医療学術交流会、院内震災対応報告会、横手平鹿救急フォーラム等で記録)。また、5月に秋田県医師会救護班として、釜石市への支援を5日間行った(病院広報第26号)。直接被害をうけた方々の痛みを思いながら、横手の地でのわれわれの役割は何か、足りないこと、改善すべきことは何かを考え、検討し実行した数々のことがある。大地震はまた必ず来るものと覚悟し、これらを今後に生かしていく責任がある。

2) 平成21年から始まった第三期工事は平成23年5月に終了し、7月に竣工式を行った。工事完了を受け11月6日、「ふれあいに感謝、地域と共に122年」と題して病院祭を行い、住民1200人もの方々のご来場を頂いた(病院広報27/28号)。当院に親しんで頂き、現在の医療をご理解頂くよき機会になった。特に「模擬手術」には、「未来の医師、看護師」である高校生チームの白熱したすばらしい実技があった。全職員の協力で準備し、来場者と共に盛り上げたイベントとなった。病院から発信していくことの重要性を改めて思い、今後になにか継続していきたいものである。

3) DPC病院としての2年目、国からは入院期間を病状に添って短縮することが求められた。医師、看護師、MSW、そして医事課など職種を越えてよく協力し、23年度は県内で最高の実績を上げることができた。DPC入院日数は全国平均水準となり、秋田県内で最短である。課題はあるものの、上手に治療し、安心して退院して頂けていることが背景にあり、誇るべきことである。また、平成23年6月から看護体制を「10対1」から「7対1」に算定されるものとした。看護師を増員し、現代の高度医療に対応できる余裕を持った配置が評価されるものであり、病院の収益の安定には大きな貢献があった。しかし、看護師はまだ不足しており、十分ではない状態での運用となっている。さらなる増員等の課題がある。

私たち組織の理念は、すべてのスタッフが、地域住民の信頼に応え、安心できる良質な医療の提供し、心触れあう人間味豊かな対応を行うこと、にある。これを実現するため皆で努力してきた活動の概要を、年報として記録する。

# 目 次

巻頭言	1	内 科	33
目 次	2	老年科	33
沿 革	7	血液腎臓内科	34
基本理念・基本方針	13	脳神経内科	36
倫理綱領	14	消化器科	37
患者様の権利と責務	15	循環器科	39
病院の概要	19	呼吸器科・アレルギー科	41
開設者	19	心療内科	42
名 称	19	外科	43
所在地	19	整形外科	46
開設年月日	19	小児科	48
事業管理者	19	産婦人科	52
病床数	19	眼科	54
診療科目	19	泌尿器科	55
看護体系	19	放射線科	56
医療機関の指定等	19	麻酔科	58
病院施設の概要	20	リハビリテーション科	59
病院統計	23	救急センター	65
収支決算	25	薬剤科	66
診療科別入院患者数	25	診療放射線科	67
診療科別外来患者数	26	看護科	71
新患者数	27	2 A病棟	76
再診患者数	27	3 A病棟	77
地域別患者数の状況	28	3 B病棟	78
紹介患者数	29	3 C病棟	79
救急患者統計	30	4 C病棟	81
部門報告	33	外来	82
診療科	33	手術室・中央材料室・洗濯室	83

人工透析室	84	臨床研修管理委員会	139
訪問看護センター	86	治験委員会	141
ME室	88	医療情報管理委員会	142
臨床検査科	92	電子カルテ委員会	143
食養科	94	DPC委員会	144
健康管理センター	97	地域交流推進委員会	145
事務局	99	薬事委員会	147
総務課	99	衛生委員会	149
医事課	105	患者サービス向上委員会	150
医療安全管理室	106	広報委員会	151
医療情報管理室	111	診療記録開示審査委員会	152
地域医療連携室	112	年報編集委員会	153
<b>委員会活動</b>	117	個人情報保護委員会	154
リスクマネージャー委員会	117	看護科の委員会	155
医療事故対策委員会	118	教育委員会	155
医療安全管理委員会	119	看護研究委員会	157
院内感染予防対策委員会	121	計画記録委員会	158
倫理委員会	122	師長主任会議	159
栄養管理委員会	123	師長会	160
NST委員会	124	看護補助者会	161
褥瘡対策委員会	126	<b>学術研究業績</b>	165
緩和ケアチーム委員会	128	<b>同好会活動</b>	169
救急センター運営委員会	129	野球部	169
手術室運営委員会	130	バレーボール部	170
糖尿病委員会	131	職員等互助会	173
輸血療法委員会	132	編集後記	175
臨床検査適正化委員会	135	病院祭（病院広報より）	
図書委員会	137		



# 沿 革



## 沿革

- 明治14年 私立横手病院創立。
- 17年 公立平鹿病院と改称。
- 21年 3月 県が公立病院設置規則公布。
- 22年 7月31日 廃院と同時に横手町がこれを譲り受ける。
- 12月15日 公立横手病院として開院。総坪数78坪。初代院長中村良益氏就任。
- 24年11月 大町下丁に新築工事着手。
- 25年 1月30日 竣工開院。
- 33年 4月 1日 平鹿郡の委託をうけ看護婦養成所設置。
- 昭和27年 2月 7日 醜翻診療所開設。初代所長藤田健康氏就任（本院内科兼務）。
- 11月15日 保健婦、助産婦、看護婦法（昭和23年法律第203号）による附属准看護婦養成所設立（定員40名）。
- 28年 9月21日 栄診療所開設。初代所長和賀卓爾氏就任（専任）。
- 9月30日 横手市外21ヶ町村立伝染病隔離病舎組合設立竣工（249.75坪）。
- 34年 7月 3日 厚生年金保険積立金の還元融資を受け昭和33年度より3カ年計画による病院全面改築工事に着手。大町下丁36番地より根岸町5番31号旧北小学校跡へ移設。
- 35年 3月31日 醜翻診療所廃止。
- 7月31日 改築工事竣工（総面積3,116.26㎡、総工費8,500万円）。
- 9月 6日 竣工に伴い指令秋収医第2140号により施設の使用許可（一般病室19室113床）。
- 36年 2月 1日 地方公営企業法（昭和27年法律第292号）に基づき条例全部適用。
- 4月 1日 国民健康保険制度施行。
- 7月 7日 伝染病棟移転改築工事竣工。横手市外7ヶ町村立伝染病隔離病舎組合と改称。
- 7月 7日 結核病棟改築竣工（総工費300万円）。
- 38年10月 1日 健康保険法による基準寝具承認。3病棟160床。
- 39年 6月30日 救急指定病院の許可（優先使用される病床3床）。
- 40年 7月15日 集中豪雨による横手川氾濫。午後1時30分頃より同4時頃まで浸水、最高床上1メートルの被災のため3日間休診。復旧費150万円。
- 41年 1月 1日 地方公営企業法一部改正に伴い条例制定管理者を置く（院長）。
- 43年 3月25日 温泉浴治療棟新築工事及び送湯管布設工事着手。
- 7月30日 同新築工事竣工（面積322.99㎡、引湯管全長1,500m、総工費2,300万円）。
- 8月 1日 リハビリ棟竣工により指令医第1499号、指令環第690号で使用許可。
- 45年12月15日 准看護学院創立20周年記念式典。第20期までの卒業生358名。
- 48年 4月 1日 横手市外7ヶ町村立隔離病舎組合を横手平鹿広域市町村圏隔離病舎組合と改称。
- 5月14日 医第1012号をもって横手平鹿医療圏における地域センター病院に指定（地域医療センター）。

- 56年10月1日 基準看護一般病棟160床特二類承認。承認番号(看)第20号。
- 57年12月15日 看護職員に対する勸奨(希望)退職制度の適用。
- 59年7月31日 第1病棟(47床)、伝染病棟(10床)閉鎖。解体。
- 8月1日 病院開設許可事項変更許可(指令医-299)。  
一般病床160→194 伝染病床10→10 計170→204
- 8月30日 病棟改築工事起工式。
- 60年10月20日 新病棟竣工(着工59.8.24)。
- 62年3月31日 附属准看護学院閉校(昭和27年11月開校以来34期592名卒業)。
- 7月7日 CT導入(設置許可指令医-684)。
- 63年4月1日 健康管理センター発足。
- 平成元年1月25日 第1回コメディカル研究会開催。
- 9月16日 開設100周年記念式典。
- 12月1日 基準寝具承認指令保-1531 194床 承認番号(寝第7号)
- 平成2年7月24日 皆川浄司院長急逝。
- 9月1日 江本彰二院長就任。
- 10月1日 皆川浄司学術振興基金設立。
- 平成3年1月1日 基準看護(特2類看護)辞退。
- 1月9日 病院開設許可事項変更許可(指令医-1801)。  
一般病床194→250 伝染病床10→10 計204→260
- 2月1日 第2期診療棟等改築工事着工(250床)。
- 4月1日 基準看護(特2類看護)承認(看第61号)指令保2363
- 10月28日 大友公一産婦人科科長急逝。
- 平成4年4月1日 標ぼう科目に泌尿器科新設。
- 4月1日 名誉院長に品川信良先生発令。
- 4月4~5日 新しい診療棟移転。
- 4月6日 新しい診療棟に仮出入口をもうけて外来診療開始。
- 7月1日 泌尿器科外来診療開設。
- 7月3日 人工透析開設(10床)。
- 7月20日 新しい診療棟正面玄関オープン。
- 7月31日 第2期改築工事竣工(着工3.2.1、完成4.7.31)。
- 8月1日 看護4単位制に入る(250床 実施開始)。
- 8月29日 公立横手病院第二期改築工事竣工式。
- 10月1日 新カルテ(A4版)に変更。
- 11月7~8日 第1回病院祭。
- 12月1日 特3類看護(2病棟、3B病棟)117床承認される(承認番号(看)第25号)。  
重症者の収容基準承認される(承認番号(重収)第18号)。  
個室4床 201・218・367・420号室  
2人部屋6床 350・321・422号室

- 平成5年1月1日 夜間看護等加算承認（承認番号(夜看)第21号）。
- 4月1日 秋田大学医療技術短期大学部理学療法科実習病院の承認。
- 5月9日 経営問題で読売新聞ニュースになる。
- 8月1日 入院時医学管理料承認される。
- 9月24日 健康管理センター棟着工。
- 12月1日 特3類看護（4病棟）承認される。
- 平成6年3月10日 健康管理センター棟竣工（着工5.9.24）。
- 6月1日 完全週休2日制実施。
- 6月8日 秋田大学による地域包括保健・医療・福祉実習開始。
- 9月8日 経営コンサルティングの実施。
- 平成7年6月1日 新看護基準（2.5：1、10：1）承認。
- 6月30日 江本院長退任。
- 7月1日 新事業管理者・院長に長山先生就任、新副院長に丹羽先生就任。
- 8月5日 基本理念策定  
「安心できる良質な医療の提供」  
「心ふれあう人間味豊かな対応」  
基本方針策定  
「地域医療への貢献」  
「患者サービスの充実」  
「健全な病院経営」  
運営方針策定  
「急性期医療の充実」  
「生活習慣病の予防」  
「検診業務の拡大」
- 平成8年4月23日 (財)日本医療評価機構による病院機能評価運用調査受審。
- 6月3日 眼科外来診療開設（週1回月曜日午後）。
- 7月1日 院内感染防止対策加算承認。
- 7月5日 更年期外来開設。
- 12月5日 心療科外来診療開設（週1回）。
- 12月11日 MR I棟着工
- 平成9年3月19日 MR I棟竣工。
- 3月31日 名誉院長品川信良先生退任。
- 4月21日 食堂を開設。
- 4月28日 MR I装置稼働。
- 9月27日 横手病院温故会（OB会）設立。
- 平成10年4月1日 名誉院長正宗研先生就任。
- 4月13日 診療材料管理システム稼働。
- 平成11年4月1日 院外処方実施（7月から全面実施）。

- 4月1日 第2種感染症指定医療機関（4床）。
- 10月1日 オーダリングシステム運用開始。
- 10月30日 横手病院110周年記念式典。
- 平成12年2月1日 無菌製剤処理加算。
- 5月1日 重症者等療養環境特別加算 10床→15床  
検体検査管理加算取得（算定4月1日）。
- 平成13年4月1日 横手病院前バス路線開設。
- 平成14年4月1日 公立横手病院職員等互助会設立。
- 5月16日 全国自治体病院協議会総会 自治体立優良病院両会長表彰受賞。
- 6月10日 病院機能評価受診準備委員会委嘱。
- 7月1日 新財務会計システム稼動。
- 7月26日 新基本理念策定。  
地域の人々に信頼される病院を目指します。  
安心できる良質な医療の提供  
心ふれあう人間味豊かな対応
- 8月23日 新基本方針策定。  
患者さん中心の安全な医療の提供に努めます。  
地域医療・保健に貢献します。  
健全な病院経営に努めます。
- 平成15年2月13日 自動再来受付機稼動開始。
- 3月31日 正宗名誉院長退任。
- 4月1日 三浦傳名誉院長就任、加藤哲郎顧問就任
- 4月30日 マスタープラン策定部会答申提出
- 6月20日 「患者様の権利と責務」策定
- 8月22日 病床区分を一般病床として届出（250床）
- 9月12日 「公立横手病院の倫理綱領」策定
- 10月30日 臨床研修病院の指定を受ける
- 平成16年1月15日 S A R S 模擬訓練（保健所、消防署、当院）
- 1月16日 病院機能評価模擬サーベイ（練馬総合病院院長、総師長）
- 3月1日 公立横手病院広報第1号発行
- 3月25日～27日 病院機能評価受審
- 5月27日 自治体立優良病院総務大臣表彰
- 6月16日 管理職・主任者研修 講師：市長
- 7月1日 最初の臨床研修医研修開始（小林医師）
- 7月26日 自治体立優良病院総務大臣表彰祝賀会 ラポート
- 8月27日 病院教育委員会主催公開講座 かまくら館 講師：湊浩一郎先生
- 11月1日 外来二交代制試行
- 平成17年2月8日 第1回病院増改築検討委員会開催

- 2月10日 病院機能評価窓口相談
- 5月9日 新CT使用開始
- 5月30日 日本病院機能評価機構の認定を受ける
- 6月20日～7月8日 秋田大学医学部地域保健福祉医療包括実習
- 6月23日 長野県東御市議会が当院を視察
- 7月26日 兵庫県加西市議会が当院を視察
- 8月4日 福島県須賀川市議会が当院を視察
- 9月23日 閉市式 市民会館
- 10月1日 市町村合併により新横手市誕生、病院名を市立横手病院に変更
- 平成18年4月25日 市議会厚生労働委員会 病院視察
- 8月30日 福島県公立藤田病院 視察
- 平成19年3月1日 レントゲンフィルムレス化運用開始
- 5月15日 福島県桑折町議会 病院視察
- 6月18日～7月6日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 10月1日 電子カルテ稼動
- 平成20年6月16日～7月14日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 11月8日 日本消化器病学会 市民公開講座（かまくら館）
- 平成21年2月1日 増改築工事開始
- 3月6日 病院増築安全祈願祭
- 平成22年5月6日 新館オープンセレモニー
- 6月14日～7月2日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 7月5日～7月15日 秋大医学部3年次早期地域医療研修
- 12月2日 東北厚生局施設基準監査
- 12月5日 市民と集う看護フォーラム

## 平成23年度の主な出来事

- 平成23年4月1日 辞令交付式
- 4月1日～7日 新規採用職員研修
- 4月15日 病院歓送迎会 ラポート
- 5月15日 電気設備年次点検
- 6月27日～7月1日 秋大医学部生地域包括保健・医療・福祉実習
- 7月4日～7月14日 秋大医学部3年次地域医療研修
- 7月17日 臨床研修病院合同説明会（東京都）
- 7月26日 ふれあい看護体験
- 7月27日 防災訓練（上期）
- 7月29日 医療安全研修会
- 7月30日 増改築工事竣工式

- 8月7日 職員採用試験
- 8月15日 盆おどり
- 9月2日 企業会計決算特別委員会
- 9月10日 全県病院対抗バレーボール大会（秋田市）
- 9月20日～30日 秋大医学部5年次地域医療実習
- 9月24日 研修旅行（仙台）
- 10月13・15日 研修旅行（東京）
- 10月14日 コ・メディカル研究発表会
- 10月20・21日 研修旅行（男鹿）
- 10月26日 防災訓練（下期）
- 10月30日 全県病院対抗野球大会（五城目町）
- 11月6日 病院祭
- 11月8日 地域医療連携セミナー
- 11月13日 職員採用試験
- 11月13日 市民と集う看護フォーラム
- 11月27日 秋田県医療学術交流会学術大会（秋田市）
- 11月30日 横手保健所立入検査
- 12月15日 接遇研修会
- 12月16日 大忘年会 ラポート
- 12月23日 白衣のクリスマスコンサート
- 平成24年1月4日 年始式
- 1月27日 職員採用試験（看護師・薬剤師・診療放射線技師）
- 2月10日 臨床研修病院合同説明会（秋田大学）
- 3月20・25日 臨床研修病院合同説明会 仙台市
- 3月23日 病院送別会 ラポート
- 3月23日～30日 退職者辞令交付式

## 基本理念

地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

## 基本方針

1. 患者さん中心の安全な医療の提供につとめます。
2. 地域医療・保健に貢献します。
3. 健全な病院経営につとめます。

# 市立横手病院の倫理綱領

我々市立横手病院で働く者は、地域の医療機関や行政機関等との連携を図りながら、公平、公正な医療を提供し、地域住民の健康の維持・増進を図り、地域の発展に貢献することを使命とする。

その守るべき行動規範は次の通り定める。

## 1 医療の質の向上

我々は医療の質の向上につとめ、人格教養を高めることによって、全人的医療を目指す。

## 2 医療記録の適正管理

我々は医療記録を適正に管理し、その情報を原則として開示する。

## 3 患者中心の医療の確立

我々は患者様に対し、パートナーとしての認識を持ち、十分な説明と同意のもとに医療を提供し、患者様の権利を擁護し、プライバシーの保護に努める。

## 4 安全管理の徹底

我々は安心して医療を受けられる環境を整備し、職員の安全教育を推進する。

## 5 地域社会との連携の推進

我々は地域の人々とは勿論のこと、地域の医療機関や福祉保健施設との緊密な連携に努める。

## 6 健全経営の確保

我々は公共性を確保すると共に、合理的かつ効率的な病院経営につとめ、健全で自立した経営基盤を確立する。

## 患者様の権利と責務

1. 患者様には、平等かつ公平に医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、診断・治療・経過について説明を受ける権利があります。
1. 患者様には、治療法を選択し、同意の上で医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、プライバシーを尊重される権利があります。
1. 患者様には、疾病を克服するために提供される医療に協力し治療に支障がないよう配慮する責務があります。



## 病院の概要



## 病院の概要

開設者	横手市長 五十嵐 忠悦
名称	公立横手病院（平成17年9月30日まで） 市立横手病院（平成17年10月1日から）
所在地	秋田県横手市根岸町5番31号
開設年月日	明治22年12月15日
事業管理者	丹羽 誠
病床数	一般病床225床（第2A病棟39床、第3A病棟49床、第3B病棟44床、 第3C病棟47床、第4C病棟46床）、感染症病床4床、計229床
診療科目	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、アレルギー科、外科、整形外科、小児科、 産婦人科、泌尿器科、眼科、心療内科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、 耳鼻いんこう科（休診）
看護体系	患者2.5：看護1、患者7：看護補助1

### 医療機関の指定等

指 定	救急告示指定 地域医療センター病院 臨床研修病院指定施設 母性保護法指定設備医療機関
認 定	財団法人日本医療機能評価機構認定 運動療法施設基準承認施設（運動療法施設、作業療法施設） 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本アレルギー学会教育施設 日本外科学会外科専門医制度関連施設 日本整形外科学会専門医制度研修施設 日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設 日本栄養療法推進協議会認定NST稼動施設

## 病院施設の概要

敷地面積	8172.16m <sup>2</sup>
建築面積	4793.60m <sup>2</sup>

	構造	延面積(m <sup>2</sup> )	完成年月日
本館 (A棟)	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階建、塔屋2階	5,130.66	昭和60年8月24日
新館 (B棟)	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階、塔屋1階	6,389.99	平成4年7月31日
本館 (C棟)	鉄筋コンクリート造、地上4階、塔屋1階	4,524.95	平成22年4月15日
計		16,045.60	

# 病院統計



## 収支決算

### 貸借対照表

	平成 23 年度	単位:円
固定資産	5,226,448,192	
有形固定資産	5,225,420,612	
土地	360,666,974	
建物	3,715,309,578	
構築物	37,700,008	
器械及び備品	1,104,128,105	
車両	7,615,947	
建設仮勘定	0	
無形固定資産	1,027,580	
電話加入権	1,027,580	
流動資産	2,447,470,503	
現金預金	1,444,820,845	
未収金	967,060,281	
貯蔵品	35,589,377	
その他流動資産	0	
資産合計	7,673,918,695	
流動負債	187,560,712	
未払金	165,022,503	
預り金	22,538,209	
預り有価証券	0	
負債合計	187,560,712	
資本金	7,222,219,641	
自己資本金	3,263,830,153	
借入資本金	3,958,389,488	
企業債	3,958,389,488	
剰余金	57,285,000	
資本剰余金	57,285,000	
受贈財産評価額	0	
他会計負担金	57,285,000	
他会計補助金	0	
国県補助金	0	
利益剰余金	206,853,342	
減債積立金	8,480,000	
当年度未処分利益剰余金	198,373,342	
資本合計	7,486,357,983	
負債資本合計	7,673,918,695	

### 収益的収支決算（税抜き）

科目	平成 23 年度
病院事業収益	5,091,541,705
医業収益	4,760,349,157
入院収益	2,946,245,781
外来収益	1,546,298,608
その他医業	267,804,768
医業外収益	331,178,108
受取利息及び配当金	276,754
国県補助金	12,408,100
他会計補助金	5,848,850
他会計負担金	292,639,000
その他医業外収益	20,005,404
特別利益	14,440
病院事業費用	5,018,939,584
医業費用	4,851,538,976
給与費	2,730,543,096
材料費	1,123,453,452
経費	531,300,320
減価償却費	442,874,564
資産減耗費	6,432,442
研究研修費	16,761,702
重量税	173,400
医業外費用	67,587,830
支払利息及び企業債取扱諸費	67,587,830
雑損失	0
特別損失	99,812,778

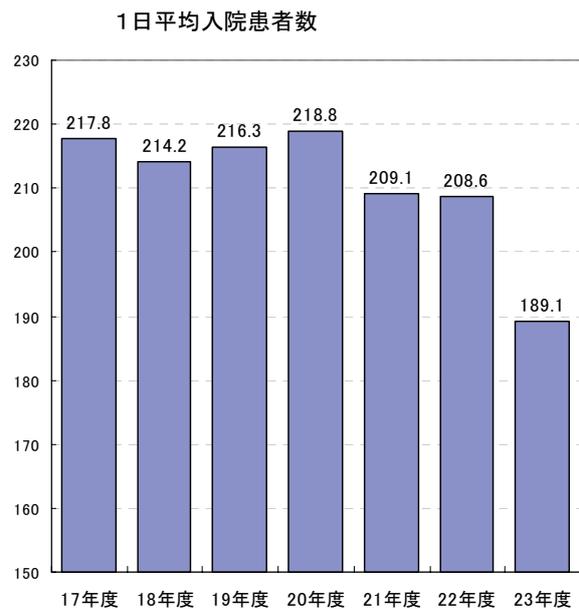
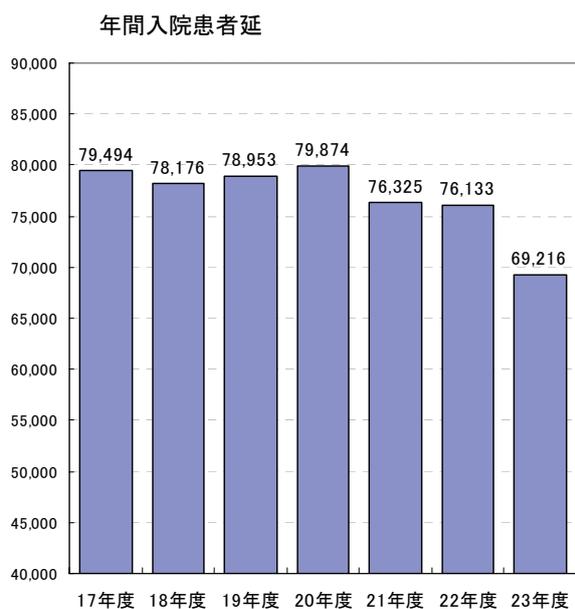
単位：円

### 資本的収支決算

資本的収入	512,648,000
他会計出資金	171,748,000
企業債	340,900,000
固定資産売却代金	0
資本的支出	926,223,647
建設改良費	484,524,918
企業債償還金	441,698,729
差引収支不足額	△ 413,575,647
補てん財源	413,575,647
過年度分損益勘定留保資金	413,575,647

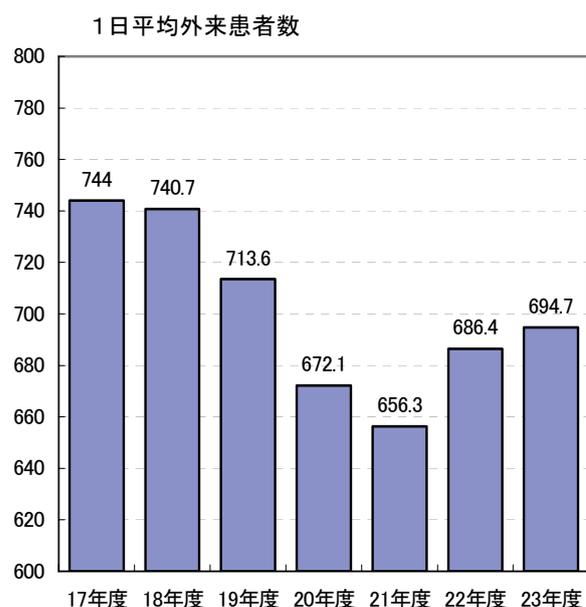
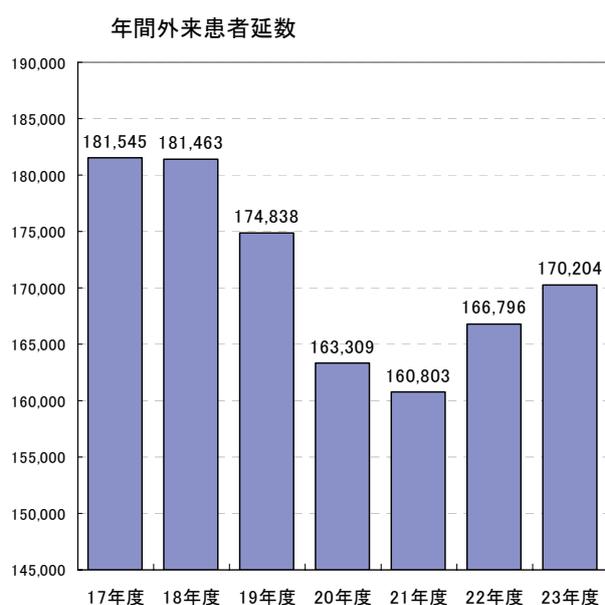
## 診療科別入院患者数

科	年間入院患者延数							1日平均入院患者数						
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
内科	7,668	7,929	8,256	3,174	2,345	2,331	2,520	21.0	21.7	22.6	8.7	6.4	6.4	6.9
呼吸器科	5,382	7,034	7,494	7,309	8,280	5,289	4,839	14.7	19.3	20.5	20.0	22.7	14.5	13.2
消化器内科	18,914	18,022	24,822	27,180	28,561	30,189	25,897	51.8	49.4	68.0	74.5	78.2	82.7	70.8
循環器内科	9,314	7,716	9,540	12,732	6,643	5,724	5,496	25.5	21.1	26.1	34.9	18.2	15.7	15.0
外科	11,851	14,397	13,653	13,981	12,718	12,220	10,849	32.5	39.4	37.4	38.3	34.8	33.5	29.6
整形外科	11,751	9,999	4,895	5,745	9,992	10,978	10,117	32.2	27.4	13.4	15.7	27.4	30.1	27.6
産婦人科	4,304	4,074	3,169	3,446	3,025	4,029	4,506	11.8	11.2	8.7	9.4	8.3	11.0	12.3
小児科	5,656	4,285	3,842	3,562	2,475	2,735	2,533	15.5	11.7	10.5	9.8	6.8	7.5	6.9
泌尿器科	4,654	4,720	3,282	2,745	2,236	2,535	2,350	12.8	12.9	9.0	7.5	6.1	6.9	6.4
麻酔科					50	103	109						0.3	0.3
計	79,494	78,176	78,953	79,874	76,325	76,133	69,216	217.8	214.2	216.3	218.8	209.1	208.6	189.1



## 診療科別外来患者数

科	年間外来患者延数							1日平均外来患者数						
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
内科	41,620	41,654	46,973	43,193	43,365	42,841	42,030	170.6	170.0	191.7	177.7	177.0	176.3	171.6
呼吸器科	3,519	5,265	5,078	5,388	4,740	4,557	4,801	14.4	21.5	20.7	22.2	19.3	18.8	19.6
消化器内科	18,625	16,571	17,060	17,725	18,719	20,588	21,284	76.3	67.6	69.6	72.9	76.4	84.7	86.9
循環器内科	13,335	13,636	14,425	13,288	11,300	11,372	11,199	54.7	55.7	58.9	54.7	46.1	46.8	45.7
外科	14,647	15,565	15,473	15,050	14,432	15,292	16,662	60.0	63.5	63.2	61.9	58.9	62.9	68.0
整形外科	28,478	26,881	20,321	17,968	19,717	22,205	24,977	116.7	109.7	82.9	73.9	80.5	91.4	101.9
産婦人科	7,348	7,959	7,032	6,814	6,432	7,346	8,175	30.1	32.5	28.7	28.0	26.3	30.2	33.4
小児科	38,562	38,025	33,790	30,118	26,896	26,017	23,792	158.0	155.2	137.9	123.9	109.8	107.1	97.1
泌尿器科	14,224	14,640	13,377	12,557	13,330	13,746	14,437	58.3	59.8	54.6	51.7	54.4	56.6	58.9
眼科	1,187	1,267	1,309	1,208	1,571	2,070	2,095	4.9	5.2	5.3	5.0	6.4	8.5	8.6
麻酔科					301	762	752							3.1
計	181,545	181,463	174,838	163,309	160,803	166,796	124,317	744.0	740.7	713.6	672.1	656.3	686.4	507.4



## 新患患者数（外来）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
内科	753	916	817	936	881	852
外科	248	206	156	152	155	180
整形外科	568	281	239	289	428	379
婦人科	139	118	102	88	124	108
小児科	759	563	343	375	327	344
泌尿器科	76	62	46	42	64	59
眼科	2	4	0	7	7	7
心療内科	2	3	1	3	1	3
アレルギー・呼吸器内科	117	75	68	15	6	6
消化器内科	164	255	215	185	143	112
循環器内科	97	85	43	6	16	8
放射線科	9	4	19	11	62	19
人工透析	7	3	1	0	0	5
麻酔科（ヘインクリニック）	0	0	0	8	6	5
合計	2,941	2,575	2,050	2,117	2,220	2,087

## 再診患者数（外来・延べ）

診療科	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
内科	26,403	29,806	27,177	27,669	28,032	25,922
外科	12,327	12,296	11,934	11,599	12,184	13,118
整形外科	20,390	15,733	14,313	15,691	17,627	20,239
婦人科	4,628	4,308	4,220	4,314	4,752	5,564
小児科	26,551	21,882	19,795	16,592	16,582	15,020
泌尿器科	6,390	5,655	4,773	5,120	5,473	6,054
眼科	1,005	1,028	1,009	1,236	1,615	1,723
心療内科	803	1,674	1,467	1,518	794	1,300
アレルギー・呼吸器内科	3,945	4,065	4,407	3,987	3,898	4,000
消化器内科	13,567	13,764	14,594	15,399	17,003	17,331
循環器内科	10,700	11,440	10,961	9,476	9,354	9,024
放射線科	74	73	72	100	112	82
訪問看護センター	1,430	1,877	2,154	1,436	1,035	824
麻酔科（ヘインクリニック）	5,167	5,932	6,312	239	642	637
合計	133,380	129,533	123,188	120,919	125,424	120,838

## 地域別患者数の状況

### 【入院】

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
横手市	37,153	36,628	36,693	35,090	33,944	34,190	32,871	29,710
平鹿町	8,343	8,363	8,696	8,338	8,707	9,029	8,000	6,828
雄物川町	5,233	5,212	4,701	3,737	3,837	4,140	3,820	3,422
大森町	1,182	1,111	989	709	866	1,161	673	1,067
大雄	2,825	2,708	2,240	2,278	2,340	1,939	2,283	2,179
十文字町	5,713	5,697	5,489	6,519	6,782	5,614	6,482	5,759
増田町	2,759	2,799	2,609	3,922	3,964	2,535	3,015	3,090
山内	4,420	4,321	4,903	4,376	3,745	3,803	3,191	2,801
美郷町	4,506	4,397	1,591	1,868	1,513	1,250	323	743
湯沢・雄勝	4,878	5,056	6,479	8,651	10,576	8,620	9,009	8,941
大仙・仙北	924	941	1,930	2,347	2,564	3,057	3,326	3,045
湯田町	468	448	529	693	463	477	935	666
その他	2,486	1,813	1,527	425	573	510	2,205	965
合計	80,890	79,494	78,376	78,953	79,874	76,325	76,133	69,216

### 【外来】

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
横手市	98,831	98,943	93,178	88,798	80,959	78,338	79,024	81,530
平鹿町	19,662	20,179	19,055	17,941	16,359	16,239	16,547	16,888
雄物川町	10,211	10,369	10,501	9,809	8,606	8,533	8,878	8,686
大森町	3,297	3,300	3,118	2,809	2,663	2,401	2,315	2,522
大雄	6,115	6,223	6,481	5,792	5,711	5,339	4,782	4,814
十文字町	9,890	10,340	12,012	11,682	11,611	11,951	12,529	13,022
増田町	5,204	5,362	6,775	6,515	6,233	6,045	6,592	6,495
山内	7,664	7,734	7,392	7,001	6,173	6,006	5,903	5,836
美郷町	5,514	5,161	4,182	3,926	3,128	2,957	1,275	2,487
湯沢・雄勝	8,017	8,255	11,609	13,473	14,463	14,884	16,370	17,662
大仙・仙北	2,044	2,013	4,124	4,738	5,176	5,479	7,885	6,519
湯田町	803	838	764	820	840	773	1,018	1,131
その他	3,029	2,828	2,272	1,534	1,387	1,858	3,678	2,612
合計	180,281	181,545	181,463	174,838	163,309	160,803	166,796	170,204

## 紹介患者数（科別）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
内 科	321	316	167	165	175	147
消化器科	493	664	746	770	916	893
循環器科	149	188	130	124	136	143
呼吸器科	123	106	80	95	72	78
外 科	157	124	132	125	140	173
整形外科	356	248	246	315	332	421
婦人科	207	169	156	181	199	215
小児科	487	375	310	291	272	270
泌尿器科	110	69	112	89	99	97
眼 科	9	4	6	17	45	56
心療内科	4	20	9	9	12	6
麻 酔 科				20	15	15
放射線科	707	590	712	760	712	624
計	3,123	2,873	2,806	2,961	3,125	3,138

## 救急患者統計

救急患者数	救急車	その他	帰宅		入院		転送		その他		軽症		中等症		重症		死亡	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
18年度	16,186	647	15,539	94.40%	853	5.30%	21	0.10%	31	0.20%	15,302	94.50%	594	3.70%	259	1.60%	31	0.20%
19年度	14,694	701	13,993	93.50%	896	6.10%	31	0.20%	35	0.20%	13,763	93.70%	584	4.00%	312	2.10%	35	0.20%
20年度	12,070	680	11,390	92.80%	808	6.70%	32	0.30%	29	0.20%	11,232	93.10%	490	4.10%	318	2.60%	29	0.20%
21年度	12,946	706	12,240	93.10%	821	6.30%	33	0.30%	35	0.30%	12,085	93.30%	486	3.80%	335	2.60%	35	0.30%
22年度	11,241	882	10,359	82.80%	892	7.90%	27	0.20%	35	0.30%	10,314	91.80%	556	4.90%	336	3.00%	35	0.30%
23年度	11,507	959	10,548	91.6%	873	7.60%	38	0.30%	50	0.50%	10,582	92.00%	577	5.00%	297	2.60%	50	0.40%

	内科	小児科	整形外科	外科	産婦人科	泌尿器科	眼科	計
18年度	5,061	8,204	1,495	1,043	230	153	0	16,186
19年度	5,193	7,286	995	913	160	146	1	14,694
20年度	4,366	5,766	803	893	104	136	2	12,070
21年度	4,769	6,480	810	595	173	114	5	12,946
22年度	4,336	4,733	1,038	808	173	143	10	11,241
23年度	4,576	4,761	994	800	214	156	6	11,507

### 横手市内のみ

	横手市	増田町	平鹿町	雄物川町	大森町	十文字町	山内	大雄	計
18年度	7,176	805	1,702	951	377	1,366	774	673	13,824
19年度	6,702	720	1,564	795	273	1,235	674	535	12,498
20年度	5,288	575	1,342	656	192	1,112	564	447	10,176
21年度	5,791	632	1,392	695	249	1,181	605	438	10,983
22年度	5,165	497	1,201	571	147	1,016	488	369	9,454
23年度	5,213	543	1,212	581	147	990	561	348	9,595

# 部門報告



# 部 門 報 告

## 診療科

### 内 科

### 老 年 科

平成23年度の糖尿病・内分泌分野の診療は、（月曜日）清水、（火曜日）細葉、（木曜日）佐藤が引き続き担当させて頂いた。長山先生をはじめ、消化器内科の先生にご協力して頂き、1日の平均再来数は40～60名程度になっている。診療疾患は、糖尿病、高血圧、脂質異常症が大部分で、次いで甲状腺疾患、下垂体、副腎等の内分泌疾患の順となっている。

本年度は、原発性アルドステロン症や原発性副甲状腺機能亢進症、先端巨大症、副腎不全など内分泌疾患のご紹介も例年より多く、負荷試験や静脈サンプリングなどさらに精査が必要な場合は秋田大学にて行っている。

院内の先生からは、主に周術期の血糖コントロールや電解質異常等でご紹介頂き、当科の各医師が連携して週2～3回の診察を行った。現在は、再来患者が多く予約も困難になってきている状況であるが、専門医の診察が必要な重症患者や新患患者にできるだけ多く対応していきたいと考えている。当院に常勤医師がいないため、今後も消化器内科を始め院内の先生方にご迷惑をおかけすることも多いと思うが、地域医療に貢献できるように努力していきたい。

<文責 細葉美穂子>

## 血液腎臓内科

毎週木曜日に血液内科、腎臓内科、リウマチ内科の新患および再来の専門外来業務を行っている。

平成23年度は約70人の新患があった。毎週1－2人の割合である。

内訳は悪性疾患が24人（リンパ腫9人、骨髄腫2人、白血病2人、骨髄異形成症候群4人、骨髄固形がん転移3人など）であり、超高齢で紹介が困難な場合を除き、治療の目的で大学病院か平鹿病院に紹介している。平成23年度は入院化学療法目的で平鹿病院に10人の紹介（リンパ腫8人、白血病2人）、大学病院に20代の1人を紹介している。骨髄転移の症例は3人で前立腺癌の転移であった。当院で行うことができる外来化学療法は多発性骨髄腫に対するベルケード療法であり、積極的に化学療法室を利用させていただいている。

次に多い紹介患者の病態は貧血か白血球減少、血小板減少などの検査異常であり、悪性疾患の症例を除くと平成23年度は16人が新患紹介となっている。

なかでもビタミンB12欠乏性の大球性貧血からさらに無効造血が悪化して汎血球減少を示す高齢者が5人で、しばしば神経障害も合併していた。胃切後早い人で5年、平均7年くらいから注意が必要となる。萎縮性胃炎に伴う自己免疫疾患としての悪性貧血も毎年発見されている。しかし、これらのビタミンB12欠乏性貧血はB12の投与で完治するため、大変感謝される。一方、CKDにともなう腎性貧血に対しては最近長期型のエリスロポエチンの投与が可能となり2週間から1か月に一回の通院と製剤投与にて輸血フリーとなっている。

腎臓の分野では尿たんぱく陽性またはネフローゼ症候群で紹介を受けた中で腎生検適応症例は大学病院に紹介している。平成23年度は4人紹介し、検査治療を受けてもらった。

化学療法の適応のある難治性疾患であっても超高齢者80歳－90歳以上の場合は、当院に入院していただき、船岡先生、藤盛先生、和泉先生方にQOLを重視した御加療をいただいた。この場をお借りして感謝申し上げます。

<文責 高橋直人>

## 脳神経内科

スタッフ：医師 塩屋 斉  
外来診察助手 佐藤陽子

診療時間：午前は8時45分から、午後は1時30分から

診療内容：月曜日（午後）・・・頭痛外来  
火曜日（午後）・・・脳ドック  
水曜日（午前・午後）・・・頭痛外来  
木曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来  
金曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来

平成23年度頭痛初診患者数：総計790人（男性217人、女性573人）

片頭痛： 562人（男性122人、女性440人）

緊張型頭痛：140人（男性 41人、女性 99人）

群発頭痛： 22人（男性 18人、女性 4人）

神経痛： 59人（男性 20人、女性 39人）

副鼻腔炎： 29人（男性 11人、女性 18人）

その他（くも膜下出血、脳出血、脳腫瘍、他）：25人

上記の頭痛初診患者さんの中で薬物乱用頭痛は49人で全体の6.2%を占めていた

平成23年度疾患別入院患者数：総計68人

脳梗塞： 50人

一過性脳虚血発作： 1人

脳出血： 7人

くも膜下出血： 2人

静脈洞血栓症： 1人

脳腫瘍： 1人

めまい発作： 1人

神経痛発作： 1人

てんかん発作： 3人

尿路感染症： 1人

「講演・学会発表」：

平成23年11月25日（金）

第39回日本頭痛学会総会

「子癇発作を来たし緊急帝王切開術を要した可逆性脳血管攣縮症候群と考えられた一例」

大宮ソニックシティ

「当院頭痛外来の書籍掲載」

健康雑誌「夢21」2011年4月号 「頭痛が薬に頼らず治り再発知らず、速攻痛み取り術」

健康雑誌「日経ヘルス別冊」2011年8月号 「女性の不調解消バイブル名医・病院ガイド」

健康雑誌「毎日ムック」2011年10月号 「怖い新型頭痛 脳過敏症候群」

「当院頭痛外来のテレビ紹介」

平成23年10月20日（木）

フジテレビ「とくダネ！」 「新常識ニッポンの医療：片頭痛と脳過敏症候群」

「当院頭痛外来の新聞掲載」

平成23年8月7日（日）読売新聞「病院の実力108：慢性頭痛」

<文責 塩屋 斉>

## 消化器科

### 消化器内科医師

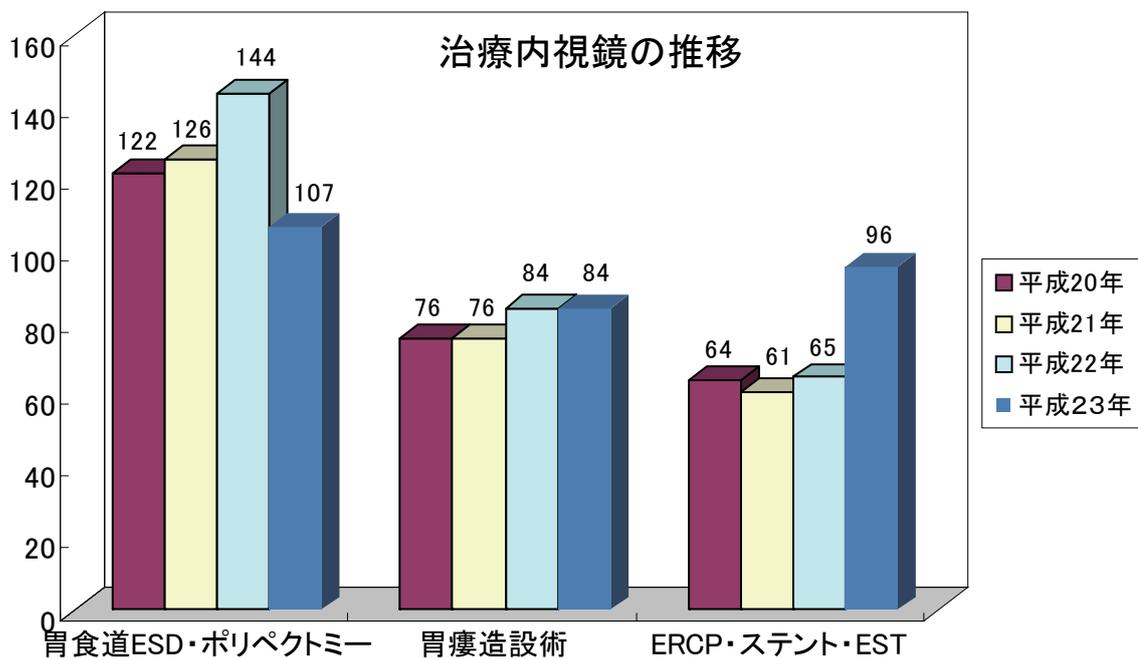
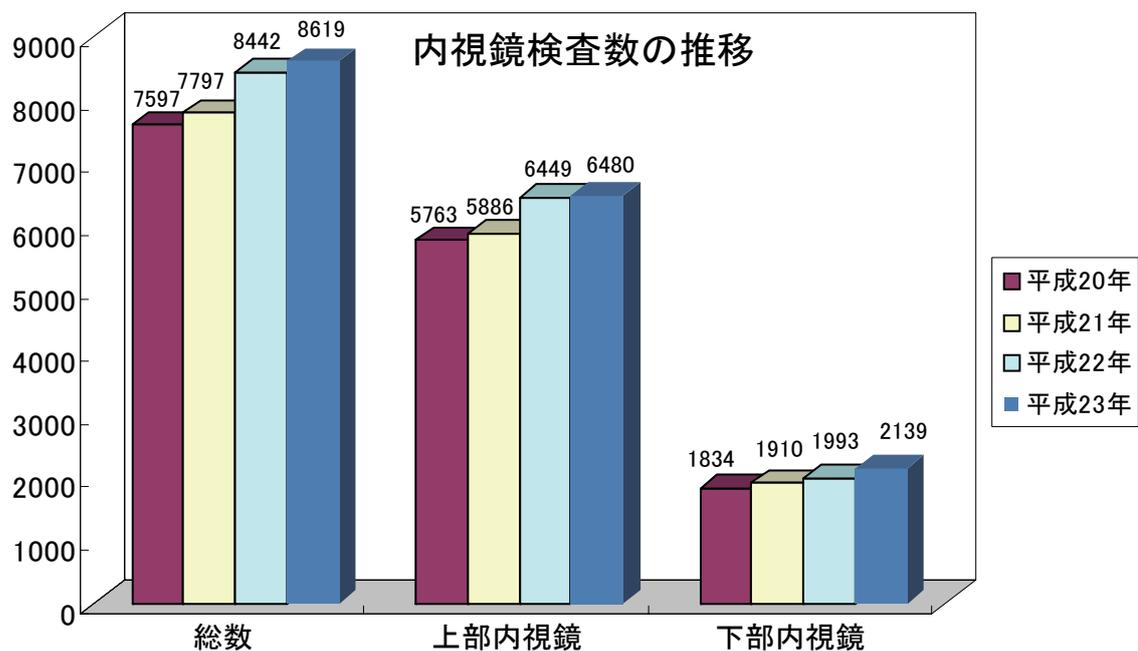
船岡 正人  
藤盛 修成  
奥山 厚  
小田嶋 傑 (2011年4月まで)  
武内 郷子  
渡部 昇 (後期研修医3年目)  
木下 幸寿 (後期研修医3年目)  
荒田 英 (後期研修医2年目)  
中島 裕子 (週2回腹部超音波検査担当)  
佐藤美知子 (週1回腹部超音波検査担当)

平成23年5月より小田嶋先生が開業され大きな打撃であったが、後期研修3年目の渡部先生、木下先生、2年目の荒田先生が成長し、消化器内科の業務をほぼ独立してこなすことができるようになったため、なんとか問題なく1年を終えることができた。渡部先生、木下先生は3年間で胃ESDや胆道系の内視鏡的治療など難易度の高い治療手技も習得することができた。平成24年4月からはさらなるステップアップを目指して秋田大学第一内科および北海道消化器科病院へ進む。今後も活躍し、成長して横手病院にもどってきて欲しいと思う。

消化管の分野では上部、下部内視鏡検査が本年度も昨年に比しわずかであるが増加を認めた。食道、胃、大腸のESDをはじめとした治療手技のため藤盛先生、奥山先生がフル回転で働いている。食道・胃ESD件数は減少したが、胆道系治療件数が増加した。その他の特殊な検査としてEUS-FNA8件、カプセル内視鏡6件、小腸内視鏡3件、EIS22件、EVL6件、EUS47件、上部消化管ステント8件、大腸ステント4件、肝癌のRFA10件などであった。消化器疾患のほぼ全てに対応可能であるが、それぞれの症例数がまだ少ない。マンパワー不足ではあるがさらに症例数を増やしたいところである。

今年度も主として後期研修医が、DDWや地方会などの学術集会で多数の演題を発表した。今後も継続した研究課題をもって日常診療にあたっていく必要があると考える。

<文責 船岡正人>



## 循環器科

### スタッフ

#### 常勤医師

##### 循環器科科長

根本 敏史 (平成15年5月1日から 現在在職中)

和泉千香子 (平成8年6月1日から 現在在職中)

高木 遥子 (平成23年4月1日から 現在在職中)

#### 検査技師

平塚多喜雄 (生理検査室)

川越 弦 (臨床工学技士)

柏谷 肇 (臨床工学技士)

鈴石 和平 (臨床工学技士)

大嶋 聡子 (生理検査室)

#### 外来診察助手 (循環器科担当)

金子 洋子

佐藤 陽子

### 検査 (平成23年4月1日から平成24年3月31日)

心臓カテーテル検査	32件
心臓超音波検査	1791件 (経食道心臓超音波検査含む)
頸動脈超音波検査	487件
ホルター心電図	281件
トレッドミル	10件
24時間心電血圧計	5件
ペースメーカー植え込み	12件 (新規 8、交換 4)
体外ペーシング	4件
下大静脈フィルター留置	0件
血圧脈波検査	463件
CCO用スワンガンツカテーテル留置	0件

循環器科の体制は、根本・和泉の2人体制に、初期研修終了後の高木が加わった。高木は当科スタッフとして心エコーの火曜午前中を担当する他、心臓カテーテル検査も積極的に参加し、穿刺からカテーテル挿入までだいぶ慣れてきている。入院患者は根本と二人体制での診療となるが、外来で忙しい根本の立派な右腕として頑張ってくれている。これまで同級生コンビとしてやってきた循環器科にとっては、平均年齢を大きく下げる若い力である。

また新たにMEに鈴石君が加入。心臓カテーテル検査において柏谷君とともに入ってくれている。マイノートを作り、一生懸命勉強してくれており、徐々に仕事にも慣れてきている様子。緊急カテや緊急ペーシングなどの際にこれまでは柏谷君に負担をかけていたが、今後は負担軽減が

期待できる。高木、鈴石の若いメンバーの加入を受けて、根本・和泉のベテラン (!?) コンビも気持ちを新たに頑張っていきたいと思う。

循環器分野では秋田市周辺に医療資源が集中しており、県北、県南の医療事情は非常に厳しい。大仙仙北地区、湯沢雄勝地区では緊急P C Iのできる施設がなくなり、そのほかの循環器疾患の診療も厳しい状況である。幸い、横手市は平鹿総合病院が緊急の虚血性心疾患に対応してくれている。当院でも平鹿総合病院と上手に連携をして、今後もがんばっていきたいと思う。

新たに始めた業務として、ペースメーカーの管理に関してケアリンクを導入した。従来は病院へ来院していただいて、クリニックを行い、結果を説明するまで外来で待っていただくという流れであったが、ケアリンクシステムを導入した。電話回線を利用して、ペースメーカーの情報を事前に、メーカーのサーバーへ送ってもらい、当院から専任スタッフがあらかじめ確認しておくため、患者さんにとって大幅な時間短縮となった。また、病院で行うよりマンパワーを必要としないため、これまで6か月毎のクリニックを4か月毎に行うことができるようになり、より細やかな管理が可能となった。MEの柏谷君を中心に、内科外来スタッフの協力の下、順調に稼働されている。

<文責 和泉千香子>

## 呼吸器科・アレルギー科

### <診療内容の概要>

現在、月・木は細木、水・金は齋藤が常勤として外来を行っている。火曜日は秋田大学からの応援医師が外来を担当している。また、金曜日は鈴木（朋美）医師が午前は成人のアレルギー外来を、午後は小児科において小児アレルギー外来を担当している。

### <特徴・特色>

気管支喘息などアレルギー疾患はストレスにより増悪する（心身相関する）という報告が多数あり、また呼吸器科においては、過呼吸症候群、原因不明の胸苦、肺がん患者など、心療内科的・緩和医療的アプローチが非常に重要となってきた。当科では平成20年度から、問診・症状によって心療内科的アプローチが必要と考えられた症例には積極的に心理テストを行い、心身症、神経症、うつ病等の鑑別を行い、心身両側面から診断・治療を行うよう心がけている。

<文責 齋藤紀先>

## 心療内科

心療内科は毎週火曜日、金曜日と診療を行っている。完全予約制で、スタッフは医師一名（榊田理恵）、看護師一名（赤平綾子）の体制で行っている。

今年度も例年に引き続き、火曜日・金曜日（金曜日のみ午後だけ）とも、榊田理恵が外来を担当している。外来のほか、内科・小児科等からの依頼を受けて入院・外来で診療している。子供の心療内科、ということで、やはり15歳以下の子どもの受診は多い。状態・疾患では、不登校が最も多く、他に発達障害（自閉症など）、となっている。「子どもの心療内科」と標榜しているが、診療は多岐に渡り、ターミナルケア、老年期のうつ、などに及んでいる。受診人数は約10～20人／日である。一人につき30分を目安としているが、初診の場合特に1時間は超えることが多い。また、看護師との役割分担においても、看護サイドの受容的かかわりにより、受診している患者さんたちの自己治癒力が引き出されているようである。隣接する精神科病院の興生病院の協力も得て臨床心理士によるカウンセリングの導入されており、子供の場合著効がみられている。このため今後も継続する方針である。また、横手興生との連携は、心理部門のみならず、脳波検査など検査部門においても良好な状況である。さらに火曜日、金曜日に臨床心理士によるカウンセリング、箱庭療法、プレイセラピーなどを定期的に行っている。

しかし、榊田の体調不良により平成24年2月、3月と外来休診をしてしまい、現在は他科および他院からの外来受診希望は中止している現状である（入院のみ他科からの受診は相談に応じている）。

<文責 榊田理恵>

## 外科

### 総括

消化器を中心に乳腺内分泌疾患、呼吸器疾患を担当した。手術症例数が年々増加し平成23年度は過去最多の手術数であった。

### スタッフ

常勤

- ・ 丹羽 誠 (S55秋田卒) 院長
- ・ 吉岡 浩 (S59自治卒)
- ・ 粕谷 孝光 (S63秋田卒)
- ・ 加藤 健 (H6秋田卒)
- ・ 本郷麻依子 (H20秋田卒) 外科専門研修2年目

### 専門医修練認定施設関係

- ・ 日本外科学会専門医制度関連施設
- ・ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
- ・ 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・ 日本緩和医療学会認定研修施設

### 人事動向

- ・ 丹羽副院長には乳腺の大部分の手術に携わっていただいた。平鹿病院の乳腺外来縮小に伴い乳腺外来数・乳腺手術数が増加した。また、多忙にもかかわらず外科診療については引き続き御指導いただいた。
- ・ 本郷医師は、3年間の外科専門研修2年目に入り、積極的に難易度の高い手術の経験も積んだ。
- ・ 4月1日付で若林医師が秋田市立病院に転出した。
- ・ 毎週(水)午後到大森病院の藤田先生に手術応援をして頂いていたが、4月からの転出に伴い手術応援はなくなった。
- ・ 臨床研修医の外科研修は、本年度はなかった。

### 診療関係

- ・ リンパ浮腫外来を月2回秋田大学医学部看護学科高貝先生が担当して下さった。ストマ外来は当院WOC高橋美夏子看護師が月2回担当した。リンパ浮腫外来は秋田市以外では唯一である。
- ・ 専門外来の乳腺外来は、週2回完全予約制も軌道に乗り、丹羽院長が担当した。前述したように確実に患者さんの増加もあり手術症例の増加につながったと思われる。センチネルリンパ節生検も標準術式となり、これは平鹿病院病理診断科の御協力があったことである。
- ・ 平成21年に待望していた麻酔科常勤医寺田先生(麻酔学会指導医)を得て、手術日程の余裕が大きく広がった。横手市梅の木クリニック松元茂先生には月間6～7日の午後からの麻酔

にご協力をお願いし、麻酔科一人体制を支えるため各診療科でも協力を行った。秋田大学生理学教室、柴田先生には毎週（木）の麻酔を担当いただいた。寺田先生・松元先生・柴田先生の御協力によって、手術症例が増えるなかでもスムーズに手術が行える体制をしいていただいた。

- ・ 肺悪性で縦隔郭清を前提とする症例の手術では、秋田大学呼吸器外科小川教授に今年も御指導を頂いた。
- ・ 消化器癌、乳がん化学療法選択枝増大に伴い、オーダーリングでの標準化、パスの整備を行った。また薬剤師の積極的関与が進み、診療の質の向上に貢献している。
- ・ D P C 診療体制にあわせたパスの整備、退院調整に努めた。
- ・ 小川感染管理認定看護師と協力し、昨年に引き続き S S I サーベイランスを日常業務とした。
- ・ 病棟での連携（医師同士、看護師、薬剤師、リハビリ、事務）を心がけ、週 1 回金曜日午後のカンファランスを丁寧に行うように務めた。

<文責 吉岡 浩>

#### 2011 年 手術件数

		件数	備考
胃十二指腸悪性疾患	胃全摘	22	
	幽門側胃切除	26	
	幽門保存胃切除		
	噴門側胃切除	3	
	その他	6	
胃十二指腸良性疾患		4	
小腸悪性疾患			
大腸悪性疾患	結腸切除	34	
	直腸切除	20	
	直腸切断	5	
	その他	13	
腸良性疾患		29	
肝悪性疾患	2区域切除以上	2	
	区域切除	1	
	部分切除	3	
	マイクロ波凝固		
	その他		
肝良性疾患			
胆嚢悪性疾患	肝切除	1	
	胆管切除		
	臍頭十二指腸切除		
	その他		
胆管悪性疾患	肝切除		
	胆管切除		
	臍頭十二指腸切除	5	

	その他		
胆道良性疾患		8	
胆石症		26	
膵悪性疾患	膵頭十二指腸切除	1	
	膵体尾部切除	2	
	膵全摘		
	その他	1	
膵良性疾患	膵炎手術		
	その他		
虫垂炎手術		44	
ヘルニア手術	鼠径ヘルニア	69	
	大腿ヘルニア	2	
	腹壁癒痕ヘルニア	2	
肛門良性疾患		37	
呼吸器疾患	肺	10	
	縦隔		
	横隔膜		
乳腺疾患		25	
甲状腺疾患		7	
その他		73	
計		481	

#### 総説

- 1) 丹羽 誠：地域で看取る－地域病院の立場から．死の臨床 34(1)：31－33，2011

#### 学会発表

##### 全国

第73回日本臨床外科学会総会，11月，東京

- 1) 加藤 健、ポスター会場② 胃3 座長

##### 地方会

第6回秋田県腹部救急研究会，7月2日，秋田

- 1) 本郷麻依子、加藤 健、粕谷孝光、吉岡 浩、丹羽 誠、泉 純一、中島裕子  
術前に診断できた外傷性胆嚢穿孔の1例

## 整形外科

### スタッフ

平成23年4月1日現在のスタッフ氏名

医師：江畑公仁男

富岡 立

佐々木 研

看護師：小野ゆう子

谷藤 文子

清水まゆ美

事務：藤原真喜子

### 概要、平成23年度特記事項、業務内容

#### 【外来】

H.23年4月より佐々木研医師が大学医局より派遣され、やっと常勤医3名体制で業務が行われることとなった。増員に伴い外来患者が増加することとなった。

外来患者数 2082人/月、104人/日、紹介率 21.3%であった。

#### 【入院】

入院患者総数 10773人/年、30人/日、平均在院日数は19.1日であった。常勤医の増加に伴い入院患者数が増加したが、DPCに伴う在院日数の調整により回転の速い病棟運営となった。また手術件数も457件と増加した。

### 手術件数

総数	457
----	-----

脊椎	143
----	-----

腰椎 ヘルニア切除術 38

開窓術 47

PLIF 24

胸椎 5

頸椎 拡大術 19

その他 10

上肢帯	44
-----	----

骨接合術 31

肘部管開放術 5

その他 8

手	112
---	-----

骨接合術	43
ばね指	34
手根管開放術	22
その他	13

股関節	71
-----	----

T H A	7
人工骨頭置換術	9
骨接合術	49
その他	6

膝関節	24
-----	----

T K A	14
その他	10

下腿、足部	58
-------	----

骨接合術	31
アキレス腱縫合	14
その他	58

H. 23. 4月より秋田大学より整形外科医師が新たに1名派遣され、常勤医3名での診療となった。佐々木医師はそれまでの2年間は当院での初期研修を行っており、仕事の内容も熟知していたため非常に頼もしい戦力となった。医師増員により外来患者数が増え、状況を聞きつけた近隣の医療機関からの紹介患者も増加した。手術件数も前年より40%増となり、医師増加によりかえって業務が忙しくなったのは皮肉である。

こういう状況の中、H. 24. 1月に富岡医師が体調を崩し入院。急遽、大学の医局から医師を派遣してもらい業務をこなすこととなった。この期間、他のスタッフにこれ以上の負担がかからないように、入院患者と手術患者を意識的に制限することとなった。

当院は麻酔科の医師も充実し、全身麻酔の手術が毎日できる恵まれた環境にある。しかし、整形外科医師が他の医療機関に比べ非常に少ない。外傷の症例についてはできるだけ早期に手術をと考えてやってきたが、毎日のように予定外手術としてこなすには負担が大きかったと反省している。

今後、外来患者数・手術患者数など時間内で行える適正な人数はどの程度のものなのか、スタッフが余裕をもって仕事をするにはどうするべきなのか、改めて検討していく必要があると考えている。

<文責 江畑公仁男>

## 小児科

stuff 医師：常勤 小松 明

非常勤 小山田 遵（第1、3月曜日午前中）

看護師：石田亜希子、伊藤良子（～H23.6月）、三浦知子（H23.6月～H24.1月）、  
渋谷美紀（H24.1月～）

事務：高橋香里、梅川素子

### 外来

診療時間：午前8時30分～、午後14時～ 内容：表-I～IVを参照。

表-I：外来診療内容

	午 前	午 後
月	一般診療	検査、予防接種（冬季インフルエンザワクチン）
火		乳児健診
水		予防接種
木		1、3週 乳児健診
金		慢性外来

表-II：各外来患者数

	一般外来	乳児健診				予防接種	慢性外来	合計
		1ヶ月	7ヶ月	10ヶ月	その他			
H23/4月	2223	37	4	14	0	280	122	2680
5月	1954	25	3	13	1	235	143	2374
6月	1369	24	9	18	0	368	110	1898
7月	1047	27	18	11	1	340	153	1597
8月	1445	34	8	5	0	367	110	1969
9月	1319	28	10	19	1	277	139	1793
10月	2093	26	13	14	0	326	116	2588
11月	2672	32	9	20	0	448	145	3326
12月	1952	20	3	15	0	579	118	2687
H24/1月	1458	31	9	16	0	357	134	2005
2月	1609	30	4	13	0	310	110	2076
3月	1801	29	8	11	0	267	123	2239
合計	17502	343	98	169	3	4154	1523	23792

表-III：予防接種内訳

DPT	548	経口ポリオ	1
MR	299	日本脳炎	787
おたふく	97	B型肝炎	9
水痘	62	インフルエンザ	831
BCG	155	Hib	632
DT	3	肺炎球菌	719
		合計	4154

- \* 一日平均患者数 約 65.2人（土、日、祝日も含む）。前年比 -6.1人。
- \* 外来患者総数 23792人。前年比 -2236人。
- \* 一般外来患者総数 17502人。前年比 -3163人。
- \* 乳児健診受診総数 610人。前年比 +5人。
- \* 予防接種総数 4154回。前年比 +303人。
- \* 慢性外来患者総数 1523人。前年比 +11人。

表-IV 医療機関別紹介件数

他医療機関から紹介		当院から紹介	
朝日ヶ丘レディースクリニック	171	高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	125
高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	47	条里プラタナス耳鼻科	41
条里プラタナス耳鼻科	15	平鹿総合病院	32
しおたこどもクリニック	13	(小児科)	19
おかだ小児科医院	9	(耳鼻咽喉科)	9
醍醐クリニック	4	(歯科)	1
山田眼科医院	2	(形成外科)	1
市立大森病院	2	(泌尿器科)	1
		(脳神経外科)	1
		阿部耳鼻咽喉科医院	22
		佐野耳鼻咽喉科医院	12
		秋田大学附属病院 (小児科)	10
		すずき皮膚科クリニック	8
		雄勝中央病院 (耳鼻咽喉科)	4
		守口耳鼻咽喉科医院	4
		おかだ小児科医院	3
他 医療機関	9	他 医療機関	16
合計	270	合計	277

昨年度に比し、他院からの紹介は19件減、当院からの紹介は16件増。

## 病棟（入院）

3 A病棟（整形外科との混合病棟、定床15床）。新生児入院は2 F 新生児室にて管理。

表－V：疾患別入院数

			患者数
感染症	気管支炎・肺炎等 1)	189	432
	上気道炎 2)	47	
	喉頭炎	14	
	腸炎 3)	93	
	歯肉・口内炎 4)	30	
	中耳炎	16	
	髄膜炎・脳炎 5)	1	
	インフルエンザ 6)	21	
	その他 7)	21	
気管支喘息		49	
精神・神経系	熱性けいれん	0	10
	無熱性けいれん	4	
	その他 8)	6	
周産期	高ビリルビン血症 など 9)	5	
川崎病		6	
代謝・内分泌系 10)		10	
その他 11)		20	
合計		532	

総入院数は 532 人、前年比 -22 人。

- 1) RSV 感染症 58 例、マイコプラズマ肺炎 6 例を含む。  
上咽頭培養で起因菌が検出されたものは、インフルエンザ桿菌 42 例、肺炎球菌 31 例、モラキセラ・カタラーリス 3 例。
- 2) 溶連菌感染症 5 例、アデノウイルス扁桃炎 6 例、咽後膿瘍 2 例を含む。
- 3) ロタウイルス感染症 20 例、病原性大腸菌 2 例、カンピロバクター感染症 1 例を含む。
- 4) 手足口病 6 例、ヘルパンギーナ 11 例、ヘルペスウイルス感染症 12 例を含む。
- 5) 起因菌は不明。
- 6) インフルエンザ A 15 例、B 6 例。
- 7) 突発性発疹症 3 例、水痘 3 例、尿路感染症 7 例、ウイルス性肝炎 2 例、CMV 肝炎 2 例、頸部リンパ節炎 2 例を含む。
- 8) 急性硬膜下血腫 1 例、West 症候群 1 例、うつ病 1 例、神経性食思不振症 2 例、片頭痛 1 例。
- 9) 低出生体重児 1 例、仮死 1 例、高ビリルビン血症 2 例、TTN 1 例。
- 10) GH 分泌負荷試験 4 例、周期性 ACTH・ADH 放出症候群 6 例（同一症例）。
- 11) 特発性血小板減少性紫斑病 1 例、乳児難治性下痢症 2 例、腸重積 3 例、急性虫垂炎例、発作性上室性頻拍症 1 例、薬剤性過敏症症候群 1 例、胆道閉鎖症 1 例、蕁麻疹 1 例他。

表－VI：年齢別入院患者数

	男児	女児	合計
0－1才	71	51	122
1－2才	81	70	151
2－3才	32	30	62
3－4才	25	15	40
4－5才	17	13	30
5－6才	20	13	33
6－8才	23	12	35
8－10才	11	8	19
10－12才	10	9	19
12－14才	5	4	9
14才～	1	11	12
合計	294	234	532

### 院外活動

明照保育園（園医）

県南愛児園（園医）

横手市 4ヶ月、1才6ヶ月、3才児健診

ももの家講話

### 最後に

外来患者数多少の波はあるが、比較的平穏な1年だった、といえる。外来患者総数は減り続けており、入院数も減り続けそうであるが、低目で安定している。とはいっても拘束時間に変わりはなく、生活リズムも6時30分出勤、7時仕事開始は変わらない。マイペース、マイペース。

<文責 小松 明>

## 産婦人科

2011年度の産婦人科は昨年度と同様、医師は畑沢 佐々木の2名でしたが、臨床研修医として産婦人科志望の齊藤大成先生が昨年度に引き続き、かなりの期間手伝ってくれ、大変助かりました。齊藤先生は研修中に結婚もされ、家庭も充実したところで研修を終了し、秋田大学産婦人科に入局して同じ産婦人科医として頑張ってくれております。スタッフも大きな変動はなかったのですが、産休をとる助産師が数名いたため少ない人数で大変だったと思います。

分娩数は昨年度かなり落ち込んだのですが、何と年間60件近くも増加しました。何より佐々木先生の功績が大きいと思います。残念ながら2012年3月をもって仙北組合病院に異動になってしまいました。2年間お疲れ様でした。機会があれば、是非また一緒に仕事をしたいと思っております。

手術件数については、各科とも例年になく増加しましたが、当科でも全身麻酔（帝王切開を除く）の手術が、おそらく初めて100件を超えています。またその3割以上を内視鏡手術が占めています。卵巣などの茎捻転の手術が連続してあったのも特徴的でしたが、ほとんどは開腹せず、腹腔鏡で施行されています。また高齢化の影響か、子宮体癌の手術も数多くありました。今後も当科の特長を活かしながら、手術件数を伸ばしていきたいと思っております。

一方で分娩件数は出生数減少の中、現状では増える要素はあまりないと考えられます。分娩件数の減少から当科は専門医の研修施設登録も取り下げました。一定以上の分娩数がないと、医師の増員ができないのはもちろん、逆に集約化の対象になるといわれているので何とか維持できるように知恵を絞っていききたいと思っております。

<文責 畑沢淳一>

平成23年度手術件数

手術件数 172件

全身麻酔	101件
腰椎麻酔	17件
硬膜外麻酔	11件
局所麻酔（NLAを含む）	37件
無麻酔	6件

腹式子宮全摘	14件（うち筋腫11件 腺筋症3件）
膣式子宮全摘	5件
腹腔鏡＋膣式子宮全摘術	2件
子宮筋腫核出術	5件（うち開腹手術4件 腹腔鏡手術1件）
筋腫分娩手術	7件
子宮・膀胱脱手術	14件（うち根治手術12件 膣壁形成術1件 膣閉鎖1件）
子宮頸部円錐切除術	12件
広汎子宮全摘術（子宮頸癌）	1件
子宮体癌手術	10件（うち準広汎子宮全摘術8件 単純子宮全摘術2件）
子宮体癌再発手術	1件
良性・境界悪性卵巣手術	29件（うち腹腔鏡手術24件 開腹手術5件）
卵巣癌手術	6件（うち拡大・根治術3件）
腹腔鏡検査	2件
子宮鏡検査	13件
子宮鏡下手術	6件（うち子宮内膜ポリープ切除4件 粘膜下筋腫切除2件）
腹腔鏡下外妊手術	2件
流産手術	8件
胞状奇胎手術	1件
人工妊娠中絶術	11件
帝王切開術	16件
その他	7件

分娩数 174件

自然分娩	120件
圧出分娩	22件
吸引分娩	14件
鉗子分娩	2件
帝王切開	16件

## 眼 科

眼科外来は、月曜日、木曜日、金曜日の週3日体制で診療を行っています。

診療には、眼底カメラや視野検査機器などを活用することで、病状に対する客観的評価および定期経過観察時の経時的変化を捉えることが可能となっております。

また、人間ドックによる眼底検査結果の評価を行い、眼疾患および全身疾患との関連を有する眼底病変の早期発見に役立っています。

現在、秋田県の病院眼科医療体制は殆どの施設で常勤医不在という非常に厳しい状況のまま変化はありません。

## 泌尿器科

### <スタッフ>

医師： 伊藤 卓雄（平成22年4月から）  
外来看護師： 藤坂マリ子  
外来事務： 三浦 君子  
入院： 主に3B病棟

### <平成23年度特記事項>

診療体制としては前年度からの大きな変化はなかった。  
引き続き伊藤の医師一人体制で泌尿器科診療・透析診療を担当した。  
医療機器の新規導入・更新はなかった。

### <日常業務>

外来診療は月曜から金曜までの毎日午前。  
検査・手術等は不定期で午後に施行。  
透析は月曜から土曜まで午前・午後・夜間（月水金のみ）の3部制、祝祭日関係なく稼働。

### <概要>

外来： 例年通りに、排尿障害、尿路結石、尿路悪性腫瘍、末期腎不全、等々の尿路一般疾患を広く診療した。  
入院： 手術例や前立腺生検例が主であったが、例年に比べ化学療法目的の患者が多かった。透析新規導入者数は例年程度だった。  
手術： 経尿道的手術（TUR）、透析シャント手術を主に施行した。また透視室使用でのシャントトラブルに対する経皮的シャント拡張術・血栓除去術も積極的に施行した。前立腺全摘や鏡視下腎摘等も秋田大学泌尿器科の羽渕教授はじめ教室スタッフに応援いただき施行した。尿管結石をはじめとする尿管鏡手術適応例は他院に紹介した。

### <総括>

昨年度と代わり映えのしない上記を見て改めて思うが、日々の診療で手一杯になってしまい新しい試みに望めない状態を反省しなければならない。

この数年は医師一人体制＋看護師一人体制の診療が慢性化しており、昨今は緊急時対処が不十分・不可能な場面が漸増している印象である。特に看護師に関しては二人目が不在、が実情であり、現スタッフに不測の事態が発生すれば泌尿器科が診療不能に陥ることは明白である。対策が急務と思われる。

<文責 伊藤卓雄>

## 放射線科

スタッフ

常勤医師： 泉 純一

非常勤医師：平野弘子

応援医師： 秋田大学放射線科より随時

特記事項

MRI機種は平成23年2月14日よりGE社製1.5T機種（HDxt 1.5T ver.16）を、CT機種は平成17年5月よりBrilliance CT40（Philips社）を、また血管造影システムは平成20年10月よりBransist Safire（SHIMADZU社）を継続使用している。

業務内容

平成23年度に放射線科で行われた画像読影件数は、CT 6765件、MRI 800件、単純写真7210件であった。院内診療科からの依頼による単純写真読影件数は868件で、このうち胸部単純写真が830件であった。造影CT検査のうちCT angiography（CTA）が163症例に行われ、さらにCTAのうち冠動脈CTが93件であった。またCT colonographyは40人に施行されている。

病診連携室を介しての他施設依頼の撮影・読影件数は、CT 274件、MRI 341件で、昨年度よりそれぞれ76件、21件減少していた。また単純写真49件であった。他施設依頼CT、MRIは、各々読影件数全体の4.1%、18.9%を占めていた（表1）。

CT/MRI には画像診断管理加算2が、単純写真には画像診断管理加算1が算定されている。

血管造影検査は33件で、ほとんどがIVR 目的であった。内訳は、肝腫瘍に対するTACE が24件、重症膵炎に対する動注用カテーテル留置が3件、胃静脈瘤に対するBRTO が1件、腎血管筋脂肪腫および術後仮性動脈瘤に対する止血目的とする塞栓術がそれぞれ1件、上腸間膜動脈塞栓に対する血栓溶解術が1件であった。

検診業務としては、脳ドックが161件、胸部単純写真読影が6342件、CTによる内臓脂肪量測定が42件、肺がん検診が31件であった（表1）。

表2に過去5年間の検査・読影件数の推移を示す。

表1:平成23年度 検査・読影件数

検査		件数	%
CT	総計	6765	100.0
	病診	274	4.1
	CT angiography	163	2.4
	CT coronary angiography	93	1.4
	CT colonography	40	0.6
	健診内臓脂肪	42	0.6
	健診肺 CT	31	0.5
MRI	総計	1800	100.0
	病診	341	18.9
	健診脳ドック	161	8.9
単 純 写 真	総計	7210	100.0
	健診	6342	88.0
	病診	49	0.7
血 管 造 影	総計	33	100.0
	TACE	24	72.7
	動注用カテーテル留置	3	9.1
	その他の塞栓	2	6.1
	撮影のみ	2	6.1
	BRTO	1	3.0
	血栓溶解術	1	3.0

表2:放射線科で施行された年度別読影件数

年度	CT	MRI	単純写真	血管造影
平成 19 年度	6026	1544	3245	17
平成 20 年度	6592	1538	5851	23
平成 21 年度	6469	1546	6401	28
平成 22 年度	6994	1815	6904	34
平成 23 年度	6765	1800	7210	33

<文責 泉 純一>

# 麻 醉 科

スタッフ

常 勤：寺田宏達（平成21年5月～）

非常勤：松元 茂（梅の木ペインクリニック）

柴田繁啓（秋田大学細胞生理学講座講師）

業務内容

1. 手術での麻酔または検査での麻酔

全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、伝達麻酔、局所麻酔  
件数等の実績に関しては、手術室の項を参照のこと。

2. 外来（ペインクリニック）

平成21年6月から開設。月・水・金曜日午前中

治療対象

○帯状疱疹の治療（特に急性期痛、帯状疱疹後神経痛の強い症例）

○顔の神経痛（三叉神経痛、非定形顔面痛）に対して、薬物治療・神経ブロック治療（高周波熱凝固法）

○腰痛、背部痛、肩、腕、足の痛み（椎間板ヘルニア、脊椎症、椎間関節症、腰部脊柱管狭窄症、  
圧迫骨折、頰肩腕症候群、肩関節周囲炎、肋間神経痛、四肢の末梢循環障害、坐骨神経痛、会  
陰部痛、尾骨神経痛、幻肢痛、カウザルギー、反射性交感神経性委縮症などのうち手術の対象  
にならないもの）

○けがや手術後の創部痛、種々の神経損傷後の神経因性疼痛など。

○まぶたや顔の筋肉がぴくぴくと痙攣したり（眼瞼痙攣、顔面痙攣）、顔が急に变な方向を向い  
てしまう状態（痙性斜頸）に対するボツリヌス毒素治療

実 績

新規患者数約53名、延べ患者数約795名。

疾患別内訳：腰部脊柱管狭窄症やヘルニアによる腰下肢痛・頸部上肢痛が412例、帯状疱疹痛が  
162例、顔面の激しい痛みを生じる三叉神経痛は95例、術後創部の痛みなど68例、  
顔面痙攣11例あった。

治療内容内訳：腰下肢痛や体幹の帯状疱疹に対して行う硬膜外ブロックが137例、星状神経節ブ  
ロックが22例、三叉神経ブロックが37例うちガッセル神経節ブロック5例、神経根  
ブロック16例、その他の末梢神経ブロック72例、おもに皮疹乾燥後の軽症から中等  
症の帯状疱疹痛に行うイオントフォレーシス9例、頸部から背部腰部の局所的な痛  
みに行うトリガーポイントブロック治療64例、内服などの薬剤による治療448例で  
あった。

<文責 寺田宏達>

# リハビリテーション科

## I. リハビリテーション科・組織

江畑公仁男	(副院長兼整形外科科長兼リハビリテーション科科長)
小田嶋尚人	(技師長) 理学療法士
高橋 貞広	(主任) 理学療法士
高橋 洋	(主任) 作業療法士
高橋 茂実	(主任) 理学療法士
鈴木 務	(副主任) 理学療法士
熊谷 剛	(副主任) 作業療法士
古関 佳人	(副主任) 言語聴覚士
花脇 加奈	(副主任) 理学療法士
加賀 直之	作業療法士
石川 順基	理学療法士
渋谷 美紀	助手

## II. 定例スケジュール

毎週月曜日	:	リハビリテーション科ミーティング
第1月曜日	:	3C病棟カンファレンス
第1水曜日	:	4C病棟カンファレンス
第2火曜日	:	3A病棟カンファレンス
第2木曜日	:	2A病棟カンファレンス
第2金曜日	:	3B病棟カンファレンス

## III. 業務

### 1. 院外活動

- ①横手市デイサービスセンター 康寿館  
5月23日(月)～27日(金)
- ②ヘルパー講習講師 横手市社会福祉協議会 小田嶋尚人  
9月2日、9月14日
- ③前健康講座  
6月8日 「脳卒中のリハビリテーション」 高橋 貞広  
8月3日 「糖尿病の理学療法」 高橋 茂実  
11月24日 「誤嚥ってなあに」 高橋 洋  
12月6日 「脳卒中のリハビリテーション」 高橋 貞広  
2月28日 「糖尿病の理学療法」 小田嶋尚人
- ④花館グリーンウィングススポーツクラブ講演会 小田嶋尚人  
7月10日、7月24日
- ⑤美郷町立金沢小学校・美郷中学校校内指導 熊谷 剛  
12月19日、2月9日

## 2. 研修活動

平成23年

5月14日	秋田県理学療法士会研修会	秋田市	石川順基
6月4日	秋田県理学療法士会第1回生涯学習講演会	秋田市	石川順基
	秋田県言語聴覚士協会総会	秋田市	古関佳人
6月5日	秋田県作業療法士学会	秋田市	高橋 洋、熊谷 剛、 加賀直之
6月11日	秋田県理学療法士会北部ブロック研修会	大館市	石川順基
6月19日	日本離床研究会第1回全国研修会	東京都	熊谷 剛、花脇加奈
6月24日～26日	第45回日本作業療法学会	大宮市	熊谷 剛、加賀直之
6月26日	秋田県理学療法士会健康・スポーツ支援班研修会 横手病院 小田嶋尚人、高橋貞広、鈴木	務、花脇加奈、石川順基	
7月2日	秋田県言語聴覚士会定例会	秋田市	古関佳人
7月2日	平成23年度秋田県徒手療法研究会セミナー	大仙市	石川順基
7月2日～3日	平成23年度現職者共通研修会	秋田市	加賀直之
7月11日	秋田県理学療法士会公開講座	能代市	石川順基
7月23日～24日	平成23年度全国訪問リハビリテーション研究会		
		秋田市	小田嶋尚人、花脇加奈
8月6日	平成23年度第2回生涯学習講演会	秋田市	花脇加奈、石川順基
9月3日	秋田県理学療法士会南部ブロック講演会	横手市	高橋貞広、花脇加奈、 石川順基
9月4日～5日	平成23年老年期現職者講習	東京都	熊谷 剛
9月18日～19日	第48回作業療法全国研修会	甲府市	熊谷 剛、加賀直之
9月18日～19日	平成23年度理学療法士講習会	秋田市	小田嶋尚人、高橋茂実
10月1日	Redcord研修会	一関市	高橋 洋、加賀直之 石川順基
10月5日	秋田県理学療法士会中央ブロック生涯学習講演会		
		秋田市	花脇加奈、石川順基
10月22日	秋田県理学療法士会第3回生涯学習講演会	秋田市	石川順基
10月29日	秋田県作業療法士会特別講演会	秋田大	高橋 洋
11月5日	第29回東北理学療法学会	盛岡市	高橋茂実、花脇加奈、 石川順基
	秋田県作業療法士会老年期部門研修会	秋田市	加賀直之
11月12日～13日	平成23年度秋田県作業療法士会身障部門研修会		
		秋田大	加賀直之
11月19日	Redcord肩関節の機能評価と運動療法	取手市	熊谷 剛、加賀直之
11月19日～20日	第6回秋田呼吸リハ懇話会アドバンスコース研修会		
		秋田大	花脇加奈
12月3日	秋田県理学療法士会南部ブロック研修会	雄勝中央病院	小田嶋尚人、 高橋貞広、高橋茂実、加賀直之
12月10日	秋田県言語聴覚士協会公開講座	リハセン	古関佳人

12月17日～18日	日本離床セミナー研修会	東京都	鈴木 務
平成24年			
2月12日	第9回呼吸理学療法セミナー	東京都	花脇加奈
2月25日	秋田県理学療法士会北部ブロック研修会	大館市	花脇加奈、石川順基
3月3日	秋田県理学療法士会学会	秋田大	小田嶋尚人、高橋茂実、 花脇加奈、石川順基

### 3. 臨床実習受け入れ

#### 理学療法学科

秋田大学	2名	高橋 茂実	担当
青森県立保健大学	1名	鈴木 務	担当
山形医療技術専門学校	1名	小田嶋尚人	担当
東北メディカル学院	1名	小田嶋尚人	担当

#### 作業療法学科

国際医療福祉大学	1名	熊谷 剛	担当
秋田大学	1名	高橋 洋	担当

## IV. 総括

今年度は、理学療法士：石川順基と作業療法士：加賀直之が新たにリハビリテーション科スタッフに加わり理学療法士6人・作業療法士3名・言語聴覚士1名の10名体制になり診療報酬上で脳血管等リハビリテーション料Ⅰを算定できる基準になった。

実施患者数・単位数とも昨年度より伸びている。特に実施単位数の伸びは理学療法で昨年比112%、作業療法では128%、言語聴覚療法では178%になっている。(図1)特に脳血管疾患リハにおいて施設基準Ⅰになったことと合わせて収益に貢献できている。単年度の入院患者数は、例年の傾向とは若干異なり理学療法・作業療法・言語聴覚療法とも6月～8月にかけて一つのピークのみで3月のピークは見られなかった。(図2～4)

臨床実習は理学療法士養成校・作業療法士養成校から例年通りの受け入れと地元学生の受け入れを行った。臨床実習指導について最終的な調整は小田嶋が担当し実際の学生指導は担当を振り分けて対応した。スタッフの研修活動は、例年に加えて各職能団体の新人教育プログラムに合わせた研修会の参加が多かった。また県内外の研修会・学会にも参加した。

治療機器ではレッドコード用のトリートメントテーブル、施設基準に合わせてADLシミュレーションキット、作業療法士1名増員に合わせてサンディングボードを購入した。

患者の推移については以下の資料を参照していただきたい。

最後に、震災後の復興支援で「日本医師会災害医療チーム」の一員として当院から5月12日～16日の5日間にわたり釜石市での医療チームに参加した。リハビリテーション科では医療チームの一員兼運転手として、5月13日(金)熊谷剛・14日(土)鈴木務・15日(日)小田嶋尚人が同行した。釜石市での我々の活動は釜石市民交流センター・松原地区コミュニティーセンター・エバーホールに避難されている住民の生活不活発病予防のための運動指導、腰痛膝痛などの健康相談、体育館の玄関マット・椅子生活の方の椅子の安定などの生活環境調整を行った。その時の釜石市は電気・水道などのライフラインがまだ復活せずがれきもいたる所に残っている状況だった。被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに早い復興をお祈り申し上げます。

図1 年度別実績の推移

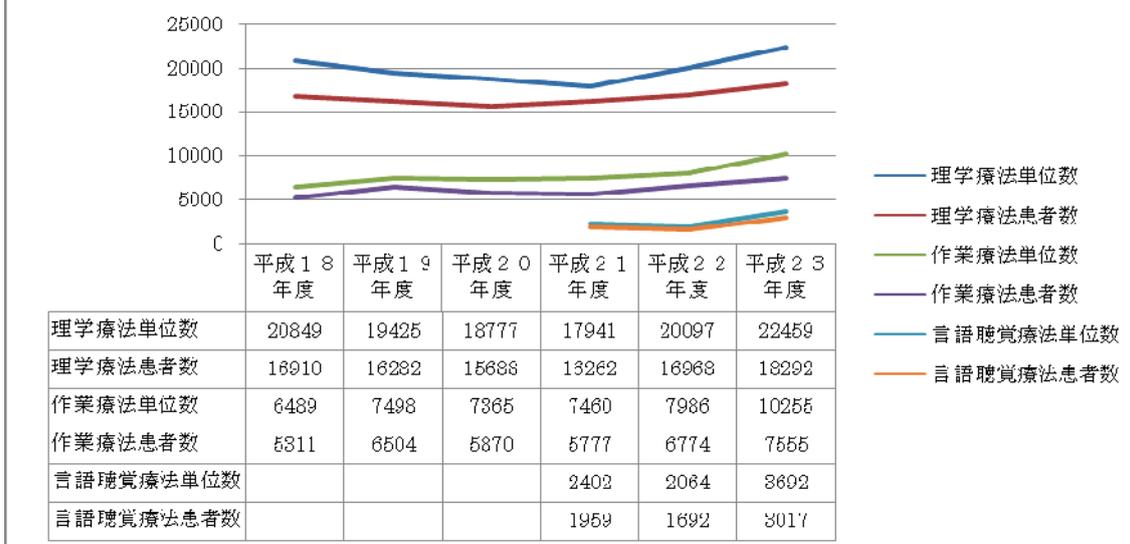


図2 理学療法患者数・単位数

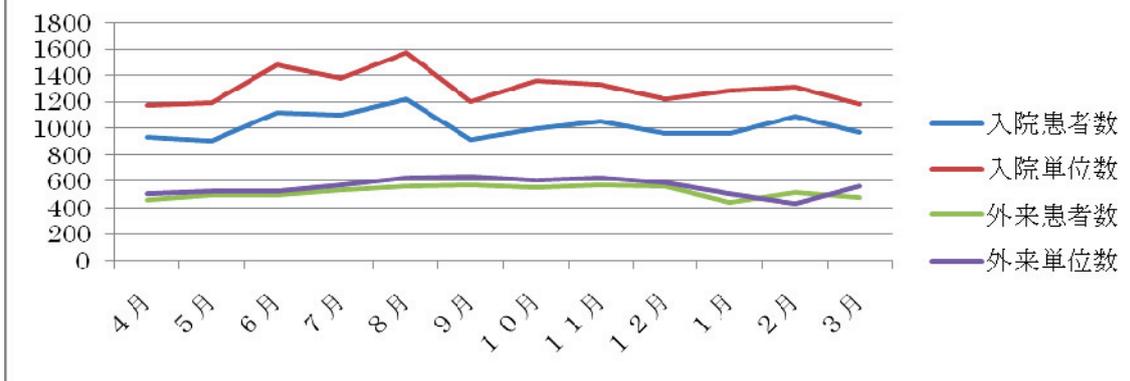


図3 作業療法患者数・単位数

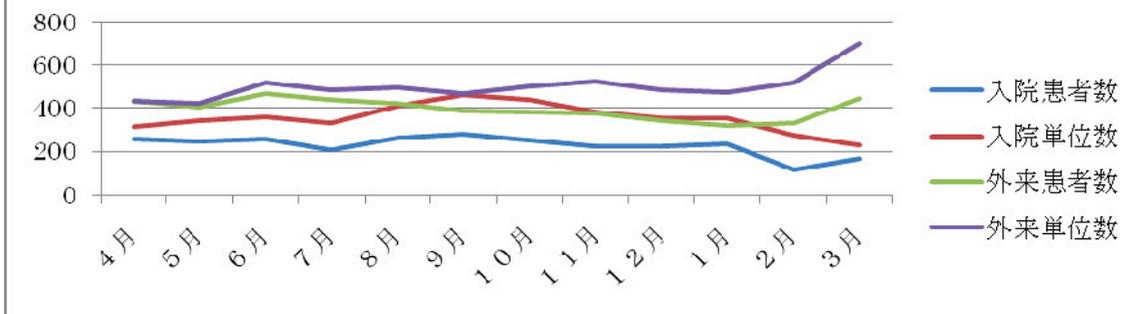


図4 言語聴覚療法患者数・単位数

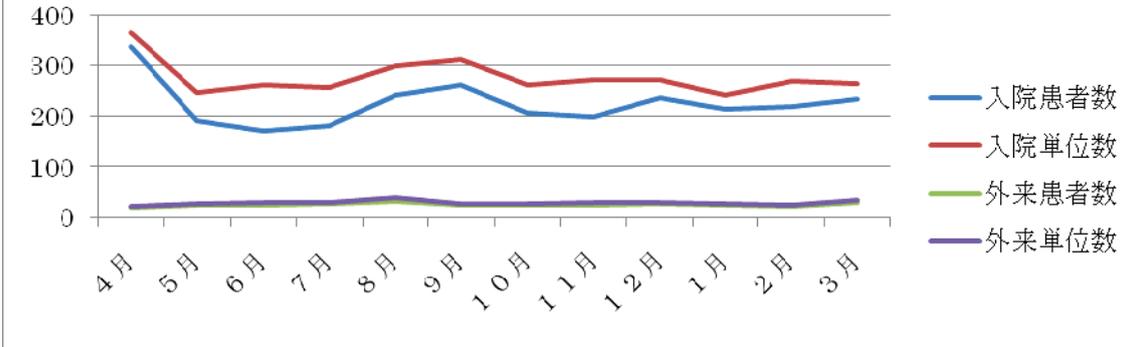


図5 診療科別割合

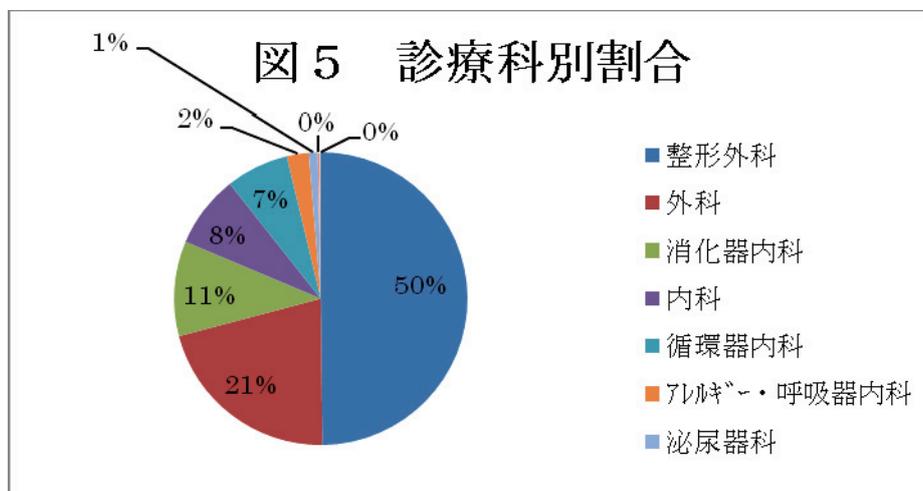
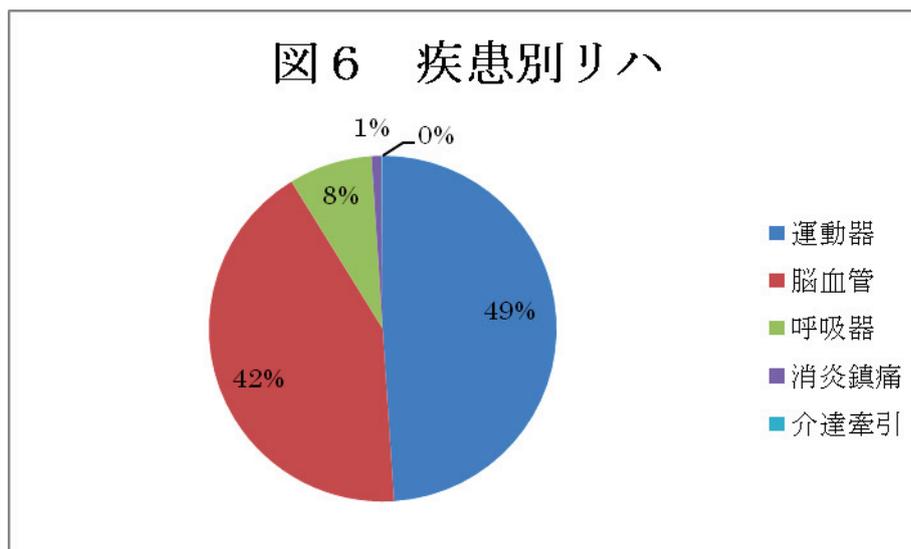
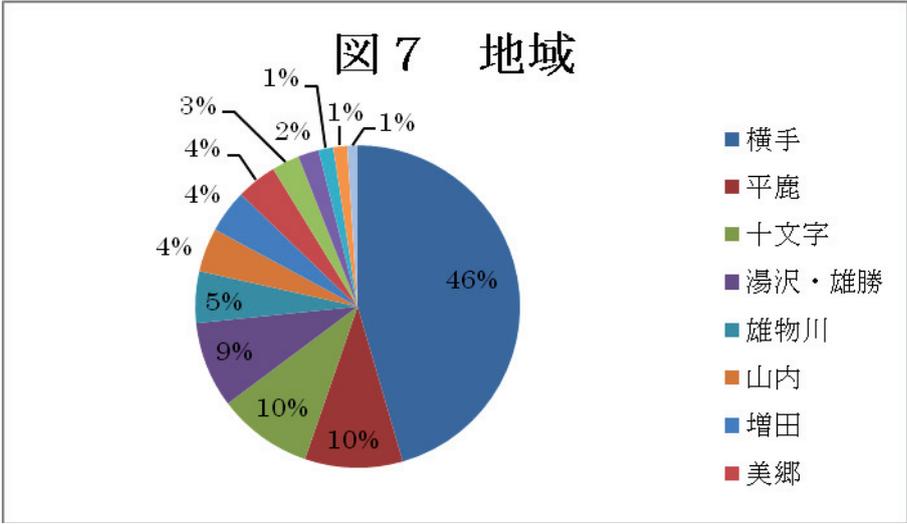


図6 疾患別リハ





<文責 小田嶋尚人>

# 救急センター

## <救急センターの理念>

当院は救急告示医療機関である。

病院の基本理念：地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

に鑑みて、全職員(非常勤職員も含めて)の協力の下に、24時間体制で良質な救急医療を実践する。

## <スタッフ>

救急センター責任者 江畑公仁男

専任看護師 和賀美由紀

## <救急患者取扱状況> H23年4月1日～H24年3月31日分

1. 取扱患者数 11,507人

### 2. 来院時間と来院方法

患者数

区分	標ぼう時間内	標ぼう時間外	深夜(再掲)	計
救急車	304人	655人	148人	959人
その他	0人	10,548人	878人	10,548人
計	304人	11,203人	1,026人	11,507人

### 3. 患者取扱診療科

診療科目	患者数	診療科目	患者数	診療科目	患者数
内科	4,576人	脳外科	0人	精神科	0人
小児科	4,761人	循環器科	0人	その他	156人
整形外科	994人	産婦人科	214人		
外科	800人	眼科	6人	計	11,507人

### 4. 患者の症状など

区分	疾病程度(患者数(人))				受付後の扱い(患者数(人))			
	軽症	中等症	重傷	死亡	帰宅	入院	転送	その他
交通事故	105	8	1	0	105	9	2	0
急病	9,660	536	245	50	9,625	780	34	50
その他	818	33	51	0	816	84	2	0
計	10,583	577	297	50	10,546	873	38	50

## <H23年度総括>

地域連携による救急時間内の紹介、検査、手術依頼も増加している。救急運営委員会で症例検討を重ね、また院内スタッフのBLS教育を行い、より迅速で質の高い効果的な救急医療をチームで連携し行うことができるように、更に検討を重ね今後も院内全体の質の向上をめざしたい。

<文責 和賀美由紀>

## 薬 剤 科

科 長 石田 良樹  
 主 任 佐々木洋子 渡邊 圭子 小宅 英樹  
 薬 剤 師 谷川 裕子 武石 知希  
 薬剤助手 大山 丹子 北小路由紀 柿崎 幸 高橋 紀子  
           近江真梨子 高橋みきこ 藤井 香織 (H23. 5～)

### 平成23年度目標

- 1) 業務パフォーマンスの向上  
     人的資質の向上と権限委譲による業務の効率化、高付加価値化をめざす。
- 2) 医療の質的向上への貢献  
     医療安全、患者満足度向上等、医療の質的向上のために薬剤管理指導件数、カバー率を目標管理する。
- 3) 病院経営への貢献  
     国策である Generic普及に則り、病院の資源効率および患者負担軽減のため、Generic採用比率を向上させる。

平成23年3月11日に東北地方を襲った未曾有の大震災は当院の診療業務においても少なからぬ影響を及ぼす事になった。当院においては人的及び建物被害など直接的な影響は限定的であったものの、高速道路を始めとする交通網の寸断、さらには製薬会社の工場への被害等により医薬品、医療材料の入手が困難な状況となった。特に医薬品については透析液を始め数十品目もの製剤が供給不足に陥り、そのため約一カ月に及ぶ処方日数制限や処方薬剤の変更等を強いられることとなった。医薬品供給制限の解消には半年以上を要した。

医薬品供給が厳しい年度ではあったが、DPC採用病院のあるべき姿として積極的な後発品への切り替え作業を行い、125品目（平成22年度末）から142品目（平成23年度末）へと大幅に採用を拡大、後発品比率を10.4%まで向上させた。

院外発表等 2012. 7

石田良樹 「当院におけるGeneric薬品採用のスキーム」 第二回横手病院薬剤師業務研究会

### 平成 23 年度実績

院外処方せん件数	95229 件	無菌製剤処理件数	4885 件
院内処方せん件数	17132 件	入院持参薬鑑別件数	3012 件
院外処方せん発行率	84. 8%	外来薬品費	427464 千円
入院処方せん件数	31057 件	入院薬品費	309446 千円
外来注射件数	23688 件	総医薬品費	736910 千円
入院注射件数	151717 件	薬品費/医業収益	16. 6%
外来化学療法件数	700 件	外来薬品費/患者数	2511 円
入院化学療法件数	885 件	入院薬品費/患者数	4471 円
薬剤管理指導件数	2987 件	後発品比率	10. 4%

<文責 石田良樹>

## 診療放射線科

### スタッフ

診療放射線技師	技師長	藤原 理吉	
	総括室長	岡根 和義	平成24年3月31日で退職
	室長	郡山 邦夫	
	室長	法花堂 学	
	主任	細谷 謙	
	副主任	齊藤 千尋	
	副主任	佐藤 裕基	
	副主任	村上 千恵	
	看護師	佐々木史子	
	看護補助者	高橋美代子	平成24年1月31日まで
		織田美和子	平成24年2月1日から
	受付	三浦 真理	

### 平成23年度目標と評価

目標： 医療被ばく低減施設の認定と新MRI装置を通じて、その周知を図り利用を促進する。

取り組み、行動内容：

5月29日 秋田県放射線技師会 学術大会、9月16～18日 日本放射線技師会 全国学術大会で医療被ばく低減に関して発表を行った。出前講座「放射線の健康への影響」は8月17日、10月3日、1月27日に行った。

技師全員が夜間休日時間外に脳梗塞疑いの緊急MR検査に対応できるよう取り組んだ。また、脊髄損傷疑いの緊急MR検査にも対応した。

結果： 医療被ばく低減施設認定では診療放射線技師や地域の方に周知をおこなったが、院内に対する周知ができていなかった。次年度への課題とする。

脳梗塞疑いでのMRI（MRA）検査は早期の診断に寄与した。MRI全体では脊椎領域の検査数の減少があった。高磁場の装置によって乳房や腹部の検査は増加した。

### 関連資格取得状況

放射線管理士	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、細谷 謙
放射線機器管理士	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学
医用画像情報管理士	藤原 理吉
肺がんCT検診認定技師	法花堂 学、細谷 謙
検診マンモグラフィ精度管理・撮影技術認定	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、細谷 謙、齊藤 千尋
臨床実習指導教員	郡山 邦夫、法花堂 学

院内・院外の発表

5月28日	第71回社団法人 秋田県放射線技師会総会 特別講演 日本放射線技師会放射線サーベイヤー隊チームアイアンの活動	藤原 理吉
5月29日	平成23年度学術大会 医療被ばく低減施設認定について	村上 千恵
6月23日	社団法人 日本放射線技師会 実践医療被ばく線量評価セミナー ImPACTの基本使用方法	藤原 理吉
9月16日～18日	第27回診療放射線技師総合学術大会 第18回アジア学術交流会	
9月16日	放射線科における緊急時対応の取り組み	齊藤 千尋
9月17日	医療被ばく低減施設認定を受審して	村上 千恵
〃	市民生活におけるNORMの検討	藤原 理吉
9月18日	医療被ばく安全管理委員会シンポジウム マイクロシーベルト（環境放射線）とミリグレイ（医療被ばく）の狭間 医療被ばく低減施設認定を受審して	藤原 理吉
10月15日	第1回東北放射線医療技術学術大会 CT内臓脂肪測定におけるノイズ加算画像を用いたシミュレーション	法花堂 学
	高濃度粉末バリウム製剤の比較	佐藤 裕基
10月19日	全国自治体病院学会 第50回記念大会 放射線科における緊急対応の取り組み	齊藤 千尋
11月5日	(社)秋田県放射線技師会 レントゲン祭 レントゲン博士と放射線・放射能について	藤原 理吉
1月14日	平成23年度東北地区生物化学分析部門研修会 X線・CT画像の見方	藤原 理吉
2月11日	(社)秋田県放射線技師会 平成23年度マネジメント研修会 CTの被ばく線量について	法花堂 学
3月11日	秋田県放射線技師会県南支部総会・学術大会 CT検査における被ばく管理 当院におけるCTコロノグラフィーの現状	法花堂 学 佐藤 裕基
平成23年度 放射線科カンファランスと担当者（演題）		
4月14日	乳癌による転移	村上 千恵
5月12日	Inhance 3D Deltaflowについて	郡山 邦夫
6月9日	MRI説明パンフレットの紹介	細谷 謙
7月7日	ストレスについて	岡根 和義
8月11日	出前講座「もっとわかる放射能・放射線」 8月17日の中村地区での内容を発表	藤原 理吉
9月8日	第27回放射線技師総合学術大会『放射線科における緊急時対応の取り組み』	齊藤 千尋

10月21日	C T内臓脂肪測定におけるノイズ加算画像を用いたシミュレーション	法花堂 学
11月10日	C T低管電圧撮影における基礎的検討	佐藤 裕基
12月 8日	入射表面線量ソフトPCXMCとSDECの比較	村上 千恵
1月12日	スライス厚測定について	郡山 邦夫
2月 9日	腰椎側面の撮影条件検証	細谷 謙
	オンラインストレージの活用、来年度の企画	細谷 謙
3月12日	60年を鑑みて放射線技師を目指して	岡根 和義

### 19年度を100とした時の推移

一般撮影	年度(平成)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
一般撮影	総撮影件数	100	100	88	109	111
	出張撮影件数	100	104	100	98	103
	乳房撮影件数	100	117	122	121	141
健診	胸部撮影人数	100	105	110	115	121
	胃透視検査人数	100	95	96	88	82
造影・透視検査	消化管	100	114	131	141	136
	肝・胆・膵	100	118	76	86	57
	泌尿器・産科領域	100	169	122	100	81
	整形領域	100	91	117	132	132
	心カテ・血管造影	100	150	231	215	200
C T人数		100	109	107	115	111
MR I人数		100	83	82	101	95

### 件数・人数の推移

	年度(平成)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
一般撮影	総撮影件数	外来	22,746	22,558	22,932	27,431	28,609
		入院	11,579	11,938	9,663	10,117	9,580
		合計	34,325	34,496	30,234	37,548	38,189
	総曝射回数	外来	35,203	34,939	38,733	42,960	45,966
		入院	14,435	15,083	11,852	12,594	12,083
		合計	49,638	50,022	50,585	55,554	58,049
	出張撮影件数		5,856	6,104	5,834	5,757	6,024
乳房撮影件数		1,844	2,155	2,253	2,227	2,603	
フィルム枚数		485	2,527	185	167	213	
健診	胸部撮影人数		5,232	5,515	5,753	6,005	6,351
	胃透視検査人数		969	923	926	857	796

造影・透視検査	消化管		439	501	575	619	599
	肝・胆・膵		168	199	128	145	95
	泌尿器・産科領域		167	282	204	167	135
	整形領域		228	208	266	300	302
	心カテ・血管造影		26	39	60	56	52
C T	人数	外来	4,457	4,828	5,154	5,552	5,410
		入院	1,578	1,750	1,286	1,395	1,304
		合計	6,035	6,578	6,440	6,947	6,714
	フィルム枚数		1,361	1,231	1,337	1,229	1,342
M R I	人数	外来	1,351	1,275	1,439	1,676	1,593
		入院	536	293	153	234	200
		合計	1,887	1,568	1,545	1,910	1,793
	フィルム枚数		1,270	1,260	1,296	1,026	941

<文責 藤原理吉>

## 看護科

東日本大震災発生から3週間程経過し毎日被災地の状況が報道されており、「病院機能喪失」「すべてが予想外」など驚く光景ばかりを目にし、自分達が健康で働ける日常がある事の幸せに感謝していた毎日でした。更に4月7日23時32分宮城県沖地震発生し、停電断水となってしまった。時間外での出来事であったが病院到着した際には、職員ひとりひとりがそれぞれ役割を果たして動いてくれていた。3月11日の地震が教訓となっていた事は言うまでもない。

次に、平成23年5月より外来化学療法室が稼働。専任看護師を配置し、外来で化学療法治療している患者さんは静かで落ち着いた場所で治療を受けられる環境となりました。また前年度より7対1看護配置について取り組んでおり、ワーキンググループを立ち上げ検討。外来病棟一元化、外来業務を把握するため勤務状況調査を実施。その結果、医師事務作業補助者を増員し、内科予約外患者の間診内容入力や検査説明など行うようになり、外来の看護師の業務軽減となった。平成23年6月、10対1看護配置から7対1看護配置へ移行。産休育児休業者は年々多くなっているため、看護師不足は深刻な問題である。病棟は看護補助者を増員したことで看護師の業務軽減に繋がった。看護師をはじめとする医療スタッフの確保も難題ですが、7対1看護配置とした事は病院経営にかなり大きく貢献している。

平成23年11月6日、「ふれあいに感謝・地域とともに122年」と題して病院祭を開催。職員は準備などで大変でしたが、1,200人ものご来場を頂きました。「病院が新しくなり職員も随分変わったけど、職員の方が優しいので家族全員横手病院に通院しています。今後も頑張ってください・・・」など、沢山のご意見ご感想を頂き、地域に根ざしている病院という事を改めて実感した一日でした。

平成23年度は増改築工事が終わり、7対1看護体制に移行し、病院が新たに動き出した年でした。

### 看護科理念・方針

- 理念 1、人間愛に基づいた患者様中心の看護を提供します。  
2、地域の人々と信頼関係を築ける看護を提供します。
- 方針 1、専門性を高め、質の高い看護の提供とやりがいの感じられる看護を目指します。  
2、病院の健全経営に積極的に参加します。

### 1、平成23年度看護科目標と結果評価

#### 1) 安全で質の高い看護を提供します

マニュアルの遵守に努めることを目標に、各部署で医療安全・感染管理・看護業務など各種マニュアルを活用運用し、統一して実践しているか評価をした。

#### 2) 業務改善を行い働きやすい職場環境をつくります

職種別に業務改善をすすめていくことを目標に、前年度より業務改善委員会が発足され、主に外来各科での問題点を抽出し業務改善に取り組んだ。平成23年4月医師事務作業補助者採用により、検査説明・内科新患者問診・予約入院患者受付および入院時書類説明など開始となり、また看護補助者と業務員増員となり看護師業務の負担軽減とな

った。看護師16名採用となったにもかかわらず中途退職者がおり残念でした。また下半期、産休育児休業者が今までにない程多く人員不足で大変でした。

### 3) 接遇の向上に努めます

接遇に関しては、職員に対するお褒めの言葉を沢山いただきましたが、半面、苦情クレームもありました。外来、病棟で実施している患者満足度アンケート結果を元に今後も職員の意識向上に努めていきたいと思えます。

## ○看護要員関連

### 平成23年度産休・育児休業・長期病欠・退職状況

	23年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	24年 1月	2月	3月	延	平均
産休	3	2	2	3	3	4	4	3	4	4	5	5	42	3.5
育児休業	3	5	6	5	6	6	8	9	10	10	8	9	85	7.0
合計	6	7	8	8	9	10	12	12	14	14	13	14	127	10.6
長期病欠	1	2	4	3	2	3	3	2	3	6	3	2	34	2.8
採用	14 (3)	1				(1)	(1)			1			16 (5)	
退職		1 (1)	(1)		1	2					1	3 (1)	8 (3)	

( ) 嘱託

平成23年4月 看護師正職員 平均年齢 36.0歳  
 看護師勤続年数 平均 11.6年  
 産休育休取得者 13人(初産6人 経産7人)  
 育児休暇日数 平均 373日(最長608日)  
 平均職員 154.5人  
 離職率 5.2%

### 平成23年度看護科職員総合数(平成24年3月末 226名)

保健師 3名  
 助産師 10名  
 看護師 159名(嘱託・パート20名含)  
 准看護師 8名(嘱託7名含)  
 看護補助者 46名(嘱託45名含)

## ○インターシップ受け入れ

- ・6/29 横手市立鳳中学校1年生 3名
- ・8/1 秋田県立横手高校1年生 6名
- ・8/2 横手市立南中学校2年生 3名

## ○看護学生実習受け入れ

- ・秋田県立衛生看護学院看護科3年(在宅看護論実習)期間 平成23年5/10~11/10 6名

・秋田県立衛生看護学院助産科 (助産学実習) 期間 平成23年6/8～6/24 10名

○ふれあい看護体験

・7/26 横手市内の中学2年生 16名

○研修会参加状況

院外研修

研 修 会 名	日 時	場 所	参加者数
平成23年度感染制御講習会 (1クール)	5/28・29	東京	1名
(2クール)	11/19・20	東京	1名
(3クール)	H24 2/25・26	東京	1名
第3回秋田滅菌および感染対策研究会	5/21	秋田市	2名
呼吸リハビリテーション徹底ガイドーフィジカル アセスメントから呼吸理学療法まで	5/24	秋田市	1名
11看護必要度評価者 院内指導研修	5/29	秋田市	2名
家族の心に寄り添うエンゼルケア	5/31	秋田市	4名
平成23年度秋田県病院協会第1回研修会	6/7	秋田市	1名
平成23年度秋田県看護協会通常総会	6/17	秋田市	5名
認知症高齢者の基本ケアとスキル	6/24	秋田市	1名
誰でもわかる・できる・ケアにつながるフィジカルアセスメント	6/29	秋田市	1名
平成23年度秋田県糖尿病療養指導士(CDE-AKITA)認定研修会	7/24～(4回)	秋田市	1名
平成23年度透析療法従事者職員研修	7/16・17	埼玉	1名
看護協会 ウォーミングアップ研修会	7/23	秋田市	3名
A S Pアカデミーセミナーin仙台	7/30	仙台	1名
救命処置の基礎と実際	8/10	秋田市	3名
第22回東北ストーマリハビリテーション講習会	8/18～20	仙台	1名
看護研究プロセス ～看護研究計画書作成から論文作成・発表まで～	8/30・31	秋田市	3名
感染制御ネットワークベストプラクティス部会第1回ワーキンググループ	8/7	秋田市	2名
感染制御ネットワークベストプラクティス部会第2回ワーキンググループ	10/29	秋田市	2名
感染制御ネットワークベストプラクティス部会第3回ワーキンググループ	H24・2/18	秋田市	2名
スタッフを育てるリーダーシップ～コミュニケーションスキルを学ぶ～	8/20	秋田市	1名
第5回SSユーザー看護部会・第7回SSユーザー会	8/20	大阪	2名
口腔ケアの基本	8/24	秋田市	2名
口腔ケアの基本	8/25	秋田市	1名
退院支援における看護師の役割と実際	9/1	秋田市	3名
平成23年度プリセプターフォローアップ研修	9/5	横手市	3名
訪問看護の推進と地域連携	9/30	大曲市	5名
グリーンケア ～家族の悲しみを癒やす看護～	10/8	秋田市	2名
平成23年度秋田県医療安全管理者養成研修	10/17・18	横手市	1名
	11/10・11	横手市	1名
	12/3・4・5	横手市	1名
がん化学療法の基礎知識の理解と患者へのセルフケア支援	10/12	秋田市	3名
災害医療と看護 ー基礎編ー	10/14・15	秋田市	1名
フィーリングバース ～心と身体で産むことを感じるお産～	10/19	秋田市	1名
アクシデント・インシデント事例分析手法を学ぶ	10/22	秋田市	1名
平成23年度看護師職場体験研修	10/28	秋田市	1名
平成23年度秋田県新人研修責任者研修 公開研修	10/26	横手市	2名

平成23年度秋田県新人研修責任者研修	10/27・28	横手市	1名
第29回岩手地区消化器内視鏡技師研究会	10/30	盛岡市	3名
第28回秋田県消化器内視鏡技師研究会	11/6	秋田市	3名
疼痛コントロールのための観察と看護のポイント	11/1	秋田市	2名
平成23年度秋田県新人教育担当研修	11/15	横手市	1名
平成23年度秋田県病院協会看護管理研究部会・第2回研修会	11/15	秋田市	2名
11看護必要度評価者 院内指導者研修	12/4	秋田市	2名
平成23年度秋田県プリセプター養成研修	H24・1/19・20	横手市	2名
秋田県病院協会 看護管理者研修会	H24・1/20・21	秋田市	1名
秋田県病院協会主催による看護師養成施設と病院との懇談会	H24・1/31	秋田市	1名
普通第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習	H24・2/9・10	仙台市	1名
第33回透析技術認定士認定講習会	H24・3/6～3/9	東京	1名
日本医療機構評価機構 認定病院患者安全推進協議会	H24・3/24	東京	1名
平成24年度 社会保険診療報酬改訂説明会	H24・3/24	秋田市	2名

### 学会参加

研 修 会 名	日 時	場 所	参加者数
全国自治体病院学会 第50回記念	8/20・21	東京	3名
第38回秋田県看護学会	11/11	秋田市	2名
第27回静脈経腸栄養学会	H24・2/23・24	神戸	1名

### 院外発表

研 修 会 名	日 時	場 所	発表者
平成23年度全国自治体病院学会 第49回記念 「当院看護師への行動制限に関する実態調査」 3 B病棟	10/20	東京	高橋亮子
平成23年度医療学術交流会 「腹水穿刺時にWebカメラを用いた取り組み」 3 C病棟	11/27	秋田市	高橋亜由美
平成23年度横手地区支部看護研究発表会 「看護師及び他職種の円滑な面談への取り組み」 3 A病棟	12/14	横手市	柴田里美

### 院外活動

内 容	日 時	場 所	参加者数
看護協会主催 わくわく子育てフェスティバル	10/3	横手市	1名
看護協議会主催 いきいきサロン（血圧測定・健康相談）	年3回	横手市	3名
救護班			
秋田県災害医療救護チーム派遣	5/12	釜石市	1名
秋田県災害医療救護チーム派遣	5/13	釜石市	1名
秋田県災害医療救護チーム派遣	5/14	釜石市	1名
秋田県災害医療救護チーム派遣	5/15	釜石市	1名
秋田県災害医療救護チーム派遣	5/16	釜石市	1名
横手市地域市民登山	7/10	八幡平	1名
送り盆まつり	8/16	横手市	2名
ぼんでん祭り	H24・2/16	横手市	2名

### 講師派遣

内 容	日時	場 所	氏 名
秋田県学校保健会横手地区部会横手市養護教諭研究会 ホームヘルパー養成研修(2級課程)講習会 } 在宅看護の基礎知識 } 健康教育の技法(小集団保健指導)	8/5	平鹿生涯学習センター 十文字福祉センター	木村真貴子
	9/26		高橋礼子
	10/7	県立衛生看護学院	池田弘恵

### 取得

内 容	氏 名
秋田県糖尿病療養指導士(CDE-AKITA) 医療安全管理者養成研修終了	佐藤智美 高橋礼子

<文責 木村カズ子>

## 2 A病棟

### 【病棟数】

39床 （重症加算病床 3床・LDR室 2床）

### 【担当科】

産婦人科・内科・消化器内科・循環器内科・アレルギー、呼吸器内科

### 【看護方式】

固定チームナーシング

### 【H23年度 病棟の概要】

産婦人科と主に消化器内科との混合で当院、唯一の女性病棟である。

産科は、長年の希望だったLDR室が設置、運用され、快適なシャワー・トイレ付、御家族の付添可、昼食・夕食はレストラン食の提供などで好評、夫の立ち合い分娩も増加している。担当助産師は、母乳保育を中心とした指導に力を入れ、取り組んでいる。

婦人科は、化学療法治療やターミナル期緩和ケアの対象が増加傾向にあり、薬剤の取り扱いなど他部署との連携を密にした看護、管理をしている。

内科に関しては、患者様の高齢化が進み、施設との関わり、介護サービスの検討、在宅介護の家族指導などMSW/・ケアマネージャー・施設相談員との連携は更に重要になってきている。社会情勢的に病院の入院生活に頼る傾向も見受けられるが、退院調整で早期より対応策を講じているため、特殊なケースを除いては長期化する入院は少なくなっている。褥瘡回診、NST回診、ICT回診から情報提供・交換をして、指導を有効に取り入れた看護に努めている。

年間分娩数 190名（中期分娩を含む）

年間手術数 172件（前年度より20件増）

### 【平成23年度 病棟目標】

チームカンファレンスを充実させ記録に残し、情報を共有する。

入院期間中に1回以上のカンファレンスを行い、内容をカルテ記載で保存し情報が共有されて個人の看護目標に反映される。

### 【平成23年度 病棟の反省】

数値での評価まで出来なかったが、多くの場面でカンファレンスを持つ機会が増え、チームに拘らず情報共有することに役立った。しかし、記録として残す方法が開始前のルール通りできず、ワークシートへのメモ書きで終わることもあり伝達手段としては努力不足を反省している。全体として看護目標や個々のケアに情報が反映させることにつながった。

今後も検討しながら継続していく方向である。

<文責 木下文字>

## 3 A病棟

### 【病床数】

49床 （重症加算室3床 亜急性期病床10床含）

### 【担当科】

呼吸器科 循環器科 脳神経内科 内科

### 【看護方式】

固定チームナーシング

### 【H23年度概要】

要介助者が年々増加する中、胃瘻からの栄養管理を行う患者は、平均すると日々3～5名程度と以外に少なくなってきた。代わりにトロミ食や嚥下食を始め、食事の全介助を必要とする患者が多くなり、夜勤勤務者の大きな負担になっていた。その対策として、5月から夕食介助業務として補助者に残業を依頼、更に9月から朝食の介助も依頼することとなり、1年間、補助者には多大な難儀をかけた。

また、7月から俄かに始まった7：1の看護体制で、8月・9月には、訪問看護センターや健診センターから清拭や点滴の手伝い等があり、ケアの部分でも充実された。

10月には311号室2床の亜急性期病床の増床があり、全介助者は通常35～37名程度までに至っている。しかし、毎日の厳しい業務にも関わらず、スタッフの専門職としての職業意識の高さに本当に助けられ、看護ステーションの中ではいつも笑いの絶えない雰囲気でも過ごせたと思う。

また11月の病院祭でも、地域の人のために皆一丸となって協力しあい、無事に終わらせることができた。

人員不足の折りH24. 2月から3チームから2チーム編成としたが、3月からの固定チームナーシングに向け業務割がしやすく、思いの外効果的なスタートとなった。

### 【H23年度 病棟目標】

フォーレカテーテル挿入患者数を、年間平均35%以下とする。

新人職員を迎え、事故のないよう1年間共にがんばろう。

### 【目標の反省】

1. 週1回(火)にフォーレカンファレンスと称し、看護スタッフ同志や主治医を含め必要性についてカンファレンスを行なった。また、看護記録には「カンファレンス」として必ず記録した。  
毎月、感染管理にも使用比について調査協力してもらった結果、年間使用比は0.32（32%）であり、目標は達成された。
2. チーム目標にあげ、具体策をあげ細やかなフォローを実施した。  
結果、ひやりはっと報告書は多く出されたが、事故発生は「0」であった。

<文責 藤井洋子>

## 3 B病棟

### 【病床数】

44床 （重症加算病床 3床）

### 【担当科】

消化器外科 泌尿器科 消化器内科 一般内科の混合病棟

### 【看護方式】

固定チームナーシング

### 【病棟の概要】

外科の全身麻酔による手術件数が増加し、他院より紹介による重症患者の緊急手術も増加している。泌尿器科も手術件数は増加し、透析が長期化し管理困難な患者が増加傾向にあります。手術患者の年齢も高く、合併症や、認知症、介護度の高い患者が増えており、手術前後の管理困難な状況が多々あります。

化学療法のため入院する患者も多数おり、薬剤の取り扱いには細心の注意をはらいつつ、病棟担当の薬剤との連携を密にし、副作用の出現の減少に努めています。ターミナルの患者も多く、緩和ケアチームとともに、主治医をふくめてカンファレンスを行い、苦痛の緩和に努めています。

呼吸器装着・CHDFの管理による高度医療の管理、最近増加傾向にある人工肛門造設患者の管理は、専門性が求められる看護で、外科病棟の特殊な看護技術が求められています。家族関係に問題のある患者も増えており、主治医・MSW・役所の担当との連携をとり、退院に向けて努力しています。

平成23年度外科手術件数 497件 泌尿器科手術件数 74件  
（前年度より23件増） （20件増）

### 【H23年度 病棟目標】

創傷ケアの向上に努め、質の高い看護を提供します。

### 【目標の反省】

創傷トラブルの発生件数は、0%でした。

ストーマ装着患者・家族への指導に関しては、達成率50%であった。新人看護師の研修会参加率は100%であり、基礎知識の習得はできた。これからも認定看護師の指導のもと技術の習得に努めたい。

<文責 高橋千鶴子>

## 3 C病棟

### 【病床数】

47床 重症加算室2床 含む

### 【診療科】

消化器内科を中心に 呼吸器内科 脳神経内科 循環器内科 他

### 【看護方式】

固定チームナーシング

### 【H23年度 病棟概要】

スタッフ数 19名（師長 主任）

夜勤 準夜勤務者 3名（土日祝日 2名）

深夜勤務者 2名

H23年度は3C病棟として2年目を迎える年でした。4月から新人看護師2名が配属され、新人教育をしながら急性期看護に取り組みました。

深夜勤務者2名の看護体制に於いても、病棟全体で医療安全に心掛け大きな事故もなく病棟運営することが出来ました。

患者さんの様相としてはクリティカルパス・化学療法・検査入院で手術に繋げる急性期看護の一方、高齢者一人暮らしの為、退院調整に苦慮する場面も多くありました。

今後も地域住民の高齢化を考えると、益々、治療の一方で療養環境を整える退院支援に重点を置く必要性があり、コメディカルとの協力を得ながらチーム医療を目指して行きたいと思います。

### 【病棟目標】

1. 業務改善を勧め専門性のある看護を提供する
  - ①改善検討会
  - ②消化器疾患・検査の研修会
  - ③時間外業務の短縮
2. 新人教育
  - ①コミュニケーションを取り易い環境作り
  - ②病棟全体で新人・プリセプターの支援

### 【目標の反省】

1. 看護師補助者間で検討会を重ね病棟例会で周知を図り種々の業務改善を行った。人員不足や2人夜勤の問題を抱えながら、早番遅番の業務シフトの工夫や業務の効率を図り看護の質の維持が保たれた。また看護補助による清潔ケアを推進出来た。

研修会の開催も消化器医師の協力により数回開催出来た。下半期は「デンバーシャント治療」について学び、治療中の看護に役立てられた。

時間外業務短縮については業務改善に取り組んだものの、消化器病棟特有の検査処置が午後に集中する為、日勤の時間外就労は減じることが困難であった。

2. プリセプター・プリセプティを病棟全体で支援し、連絡ノートの活用により指導・育成に努めた。結果、11月より1名は準夜、1名は深夜に入り、医療安全に配慮しながら見守り・育成した。社会人として医療人として育成することの困難さを病棟全体で共有し一丸となって取り組むことができた。

<文責 高本和子>

## 4 C 病棟

### 【病床数】

46 床 （重症加算病床 2 床、 亜急性病床 4 床含む）

### 【担当科】

整形外科 小児科

### 【看護方式】

固定チームナーシング

### 【病棟の概要】

平成23年3月11日の東北大地震の余波が色濃く残った1年だった。増改築後、1年とたたないうちに雨漏りや床が傾斜したりと思いがけない事態がおこった。節約を重点的に行いながら質をおとさないケアを心がけた。

整形外科は医師が3名となり手術件数も増えた。高齢な患者の転倒による大腿骨頸部骨骨折や踵骨骨折が多かった。患者の背景も独居暮らしや老人世帯が多いため、退院調整を進める上では、よりいっそうコメディカルとの連携が重要なポイントとなった。

小児科は相変わらず季節的なRSV感染症や喘息、肺炎が多かった。RSウイルスの罹患により中耳炎の治療入院が増えたのもここ数年のことである。入院期間も3～6日とやや長くなってきている。核家族が増えている昨今家族指導にも力をいれていきたい。

### 【病棟目標】

～安全で統一されたケアを提供しよう～

- フットワークの軽いマニュアル作り
- カンファレンスに基づいた業務改善

### 【目標の反省】

- ・ 1年たったいまでも2人夜勤は不安が多く精神的にもストレスになっているようだが、声掛けを多くしお互いに助け合いながら行っている。小児科入院が多い場合や手術件数により遅番体制をとり、夜勤のバックアップにつとめている。小児科入院患者の増減次第で担当が代わってしまう変則的な夜勤のため、マニュアル作りは苦勞した。思ってもいない状況になり、フットワークの軽いマニュアルというより、後手後手だった印象が強い。ただ、後半は前例を踏まえて比較的早い対応が出来たと思う。あとは必要な人員確保ができればと祈るところである。
- ・ 定期的にカンファレンスをもち、補助者やコメディカルとの連携に努めながら業務改善を行っている。今後もカンファレンス内容の充実をはかりより働きやすい職場にしていきたい。

<文責 木村真貴子>

## 外来部門

### 【外来診療科】

内科 消化器内科 循環器内科 アレルギー呼吸器科 外科 整形外科  
婦人科 小児科 泌尿器科 眼科 心療内科 麻酔科 放射線科

### 【特殊外来】

頭痛外来 ペインクリニック 更年期外来 予防接種外来

### 【23年度の概要】

病院の増改築が終了し、新病院での外来診療が開始された。消化器センターの新設に伴い外来看護体制の見直しが必要となった年であった。

医師の業務軽減を目的とし、医師事務作業補助者の医師の業務代行が、6月から開始された。内科予約外患者の問診内容の入力・検査説明が医師事務作業補助者に移行されたため、看護業務の軽減も図られた。

また、外来化学療法室の開設準備・禁煙外来の開設準備も行われた。

### 【外来目標】

- 1、各外来業務の標準化を目指す。  
各外来のマニュアルを見直し、外来業務の標準化を図る。
- 2、外来業務改善の見直し。  
医師事務補助員採用に伴う、看護業務の見直しを行う。
- 3、接遇の向上に努める。  
クレームに対して情報共有し、統一した対応を行う。

### 【目標の反省】

- 1、医師事務作業補助員採用により、検査説明・内科新患患者問診・予約入院患者受付・予約入院患者の入院時書類説明・整形外来予約外患者の医師指示の代行入力開始された。これらの業務開始により、看護師の業務負担の軽減が図られた。
  - ・各科で行われていた検査説を医師事務作業補助者が行うに当たり、説明用紙の内容・確認事項・検査説明を行うための手順（順路案内票の取り扱い等）を外来全体で見直し統一し標準化することができた。
  - ・看護業務の軽減が図られたことにより、業務の見直しとして、人員減少に対応・内視鏡・放射線科で行われる検査・処置への外来スタッフのかかわり、病棟業務のフォローが行えるようになった。  
外来スタッフ内での放射線科の検査・処置（C T造影検査の介助やC V挿入介助等）の勉強会等を行った。
- 2、クレームに対しては、朝会や例会等で情報共有を行い、患者対応に対して検討を行ってきた。患者の個人情報や、対応等（外来採血室での使用済み針の受取・検査説明時の環境確認・各科受付での対応等）について検討した。

<文責 佐々木佳子>

## 手術室・中央材料室・洗濯室

### <手術室構成>

4室稼働（A／B／C／D）

A：主に人工物挿入（バイオクリールーム）

B：一般手術

C：一般手術

D：主に局麻・腰麻の手術（外来手術）

### <H23年度手術件数（昨年度実績比較）>

外科	497件（+23件）
整形外科	402件（+42件）
産婦人科	172件（+18件）
泌尿器科	74件（+20件）
内科	2件（-2件）
合計	1147件（+101件）
全身麻酔件数・・・	704件（+50件）
緊急手術件数・・・	127件（+3件）

### <H23年度部署目標>

「安全な手術室看護の提供」

1. 術前・術後訪問の徹底
2. 術中の体位チェックの周知徹底
3. スタッフ間のコミュニケーションの充実

### <評価・まとめ>

術前訪問の際、患者さんが不在（休日入院並びに当日入院etcにて）という事があり、又手術により訪問時間が取れなくなった事も何度となくあり、100%達成には至らなかった。若干ではあるが、術後訪問の際の患者さんからのメッセージに耳を傾け、改善に向け話し合ったことは以前より進歩した事と言えよう。

幸いにも、病院設立以来の手術件数でありながら、医療事故も無く無事終えた事に感謝しつつ、これからも「安心・安全で良質な医療の提供」に努めたいと考える。

<文責 佐藤昌悦>

## 人工透析室

### <構成スタッフ>

看護主任 高橋 佳子  
看護副主任 小田嶋明子 小田嶋ゆう子 中村勇美子  
看護師 佐々木美紀子 伊藤 優子 佐々木智美

### <ベッド数>

15床

### <患者数>

平均患者数 46名

月間平均患者件数 600件

	述べ件数	新規	依頼	臨時	転入	転院	死亡
H23年度	7,051	6	25	21	1	3	1

### <特徴>

透析療法は、移植しなければ生涯継続する必要があり、患者自身の自己管理が不可欠である。そのためには、患者自身が透析を取り入れた生活スタイルを確立できるように、身体的・精神的・社会的でのアセスメントを行い、援助を行っていくのが透析看護の目標である。

現在、人口の高齢化に伴って、慢性維持透析患者ならびに新規導入患者も高齢化が進み、また、糖尿病が4割以上占めるなど重症合併症が増加してきている。そのため、現場では、以前より種々の難題を抱える患者に対応していかなければならず、援助していくのが大変になってきている。このような精神的、肉体的負担の多い患者さんに対処していくには、透析医療にかかわる医療スタッフの連携が必須である。

### <勤務体制>

日勤4～5名・準夜2名

月・水・金 3クール（午前の部・午後の部・夜間の部）

火・木・土 2クール

### <特記事項>

3月11日 東日本大震災のため、4月1日（金）まで夜間透析中止。4月4日（月）より夜間透析再開。

4月7日（木） 23：32 震度5強の余震あり、停電したため、4月8日の夜間透析中止。4月9日を含め2日間は、全患者に3時間HDで日中に施行。  
小浜クリニックより依頼透析あり、AM2名PM2名計4名引き受ける。

6月24日（金） 正午より断水あり、復旧の目途立たず夜間透析中止し、全患者3時間HDで日中に施行。

9月12日（月） 完全3部制開始

## <目標>

安心・安全な透析を提供できる。

- 1、災害時のマニュアルを作成
- 2、トリプルチェックの徹底
- 3、針刺し事故「0ゼロ」

## <目標の反省>

### 1、災害時のマニュアルを作成

- 1) 緊急時他施設依頼のための連絡票（透析条件）を文書管理より保存・印刷可能にした。全患者について、入力作成・印刷し、緊急時の依頼に備えた。
- 2) いつでも患者に連絡が取れるよう、患者緊急連絡一覧表を作成した。
- 3) 災害用の透析医療物品の備蓄及び緊急避難に備えた物品を揃え、非常用持出袋を用意した。
- 4) 災害時に対応できるよう、2回勉強会を開催した。
- 5) 災害時のマニュアルの見直しを行い、完成した。

以上、透析室においてできる災害時の体制は、整えることができた。

### 2、トリプルチェックの徹底については、毎年目標に挙げている。

トリプルチェックは確実に行えているが、普段慣れているところを見逃してしまうことがあるため、同じミスを繰り返すことのないよう対策を講じている。今年度も大きな事故なく稼働できたが、今後も引き続き確実に行えるよう努力していきたい。

### 3、針刺し事故「0ゼロ」

H22年度より目標に挙げているが、昨年に引き続き目標達成できている。

## <1年間のまとめ>

今年度は3/11の東日本大震災に続き、4/7の余震、6/24の断水と透析医療においては停電・断水と非常に難題を抱えた年であった。幸いにも患者さんの協力によりこれを乗り越えることはできたが、更に大きな災害に見舞われた際の停電や断水、流通遮断による物資不足への対応に強い不安が残った。

これらの経験を踏まえて、今年度は災害時を考慮した目標を中心に設定した。透析室において出来る限りの対策は講じて備蓄等の準備も行うことができた。今後は、スタッフ全員で検討を重ねた災害マニュアルの遵守に努めていけるようにしていきたい。

H23年度は増築棟に移動して1年が経過し軌道に乗ったこともあり、「延べ患者数7,051名」「新規導入6名」「緊急・依頼延べ154名」と患者数及び件数共に増加した。

今後も、透析待機患者が控えており、依頼患者も増えていることから患者数は増加することが予想される。更に、高齢化や重症合併症の患者が増えてきているため、看護の質や知識、技術の向上にも努めていかなければならない。引き続き事故のないように、安心・安全で質の高い透析看護を提供するため努力していきたい。

<文責 高橋佳子>

## 訪問看護センター

<平成23年4月1日現在のスタッフ>

看護師 主任 小田嶋恵美子  
看護師 副主任 佐々木康子  
看護師 佐藤 友紀  
事務 三浦由紀子

<移動>

4月 事務 三浦 君子 (訪問看護センターから外来へ)  
4月 事務 三浦由紀子 (採用)  
9月 看護師 小林 貴子 (訪問看護センターから3C病棟へ)

<機能・概要>

訪問看護の看護師は、要介護者等の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活動作の維持、回復を図ると共に、生活の質の確保を重視した在宅療養が維持できるよう支援している。実施にあたっては、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

現在、訪問看護の対象者は、終末期看護、中心静脈栄養、胃ろう、腸ろう、尿道カテーテル挿入、気管カニューレ挿入、人工呼吸器装着、在宅酸素等、医療依存度の高い方の利用が増えている。それに伴い在宅での看取りも増えつつある。

<特記事項>

秋田県立衛生看護学院、衛生看護科の在宅実習が今年で4年目を迎え、今年も実習生6名を受け入れ在宅看護の実習指導にあたった。

今年で6年目となる介護保険サービス事業所の情報公表に関して、1月に訪問調査が行われたが、大きな問題点はなくスムーズに受ける事ができた。

<平成23年度訪問看護件数>

・訪問看護総件数	1434件
・訪問診察総件数	408件
・臨時訪問件数	199件
・訪問看護利用総人数	470名
・新規対象者数	26名
・死亡者数	33名 (自宅14名、病院19名)

H23年度 訪問地区別利用者数

訪問地区	利用者数
横手	65
平鹿	3
大雄	2
山内	0
雄物川	1
増田	0
十文字	0
湯沢市	1
合計	72

H23年度 介護認定内訳

要支援	0
要介護1	0
要介護2	2
要介護3	7
要介護4	18
要介護5	39
医療保険	6

H23年度 年齢・性別利用者数

年齢	利用者数	男	女
1～29	1	0	1
30～49	4	2	2
50～54	0	0	0
55～59	1	1	0
60～64	0	0	0
65～69	3	1	2
70～74	4	4	0
75～79	5	3	2
80～84	13	8	5
85～89	17	6	11
90～94	16	6	10
95～99	7	0	7
100	1	0	1
合計	72	31	41

H23年度 疾患別利用者数

疾患別	人数
脳血管疾患（脳梗塞・脳出血）	15
心疾患（心不全等）	2
悪性疾患	12
特定疾患・難病（パーキンソン病等）	2
精神疾患（老人性痴呆等）	3
筋骨格疾患（骨折・関節症・骨粗鬆症等）	2
脳性麻痺	2
脊椎損傷	0
脳症（低酸素・インフルエンザ）	0
先天性疾患	0
呼吸不全	1
その他	33
合計	72

H23年度 利用者の医療処置状況

医療処置	人数
膀胱留置カテーテル	21
胃瘻	28
褥瘡	8
中心静脈栄養カテーテル	16
在宅酸素	3
気管カニューレ	3
ネーゼル	2
人工肛門	3
人工呼吸器	1
PTBD	0
腸瘻	1
処置なし	11
膀胱瘻	1
食道瘻	1
ペースメーカー	1

<文責 小田嶋恵美子>

# M E 室

## 【体制】

《 室 長 》 吉岡 浩

《 スタッフ 》 川越 弦      柏谷 肇      鈴木和平

## 【業務内容】

医療機器中央管理および院内機器管理（病棟・外来・手術室・透析室・新生児室など）

各種血液浄化および胸・腹水処理 回収式自己血輸血 ラジオ波焼却装置操作

心臓カテーテル検査 ペースメーカー管理 体外式ペースメーカー

在宅医療における医療機器管理

医療安全管理室医療機器安全部会、教育・啓蒙 各委員会への参加等

## 【各施行件数】

	症例数	備考
持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）	6	総施行回数 25回
エンドトキシン吸着（PMX-DHP）	4	総施行回数 7回
白血球除去療法（LCAP）	0	
腹水処理（CART）	13	総施行回数 105回
人工呼吸器	21	総稼働日数 120日
マスク型人工呼吸器（NIP）	2	
心臓カテーテル検査	32	
体外ペーシング	4	
ペースメーカー植込み	10	新規 6件 交換 4件
ペースメーカー外来	122	ケアリンクによるフォロー 54件
フィルター留置術	0	
回収式自己血輸血	29	整形 27件 婦人科 2件
ラジオ波焼却装置操作	5	

※ 腹水処理が昨年以上に大幅に増えた。なお今年度からラジオ波焼却装置の操作が業務に加わった。

## 【主な機器の異動】

### ① 『新規導入・更新機器』

新規・更新	メーカー	モデル	設置部署	備考
輸液ポンプ	テルモ	TE-161	ME	10 台
除細動器	日本光電	TEC-5531	手術室	1 台
ベッドサイドモニター	日本光電	BSM-6501	手術室	1 台
マルチガスユニット	日本光電	AG-920R	手術室	1 台
末梢神経刺激装置	I M I	ミステム MS-IVA	手術室	1 台
手術用顕微鏡	カールツァイス	S88	手術室	1 台
手術台	ミズホ	MOT5602-SRMB	手術室	1 台
手術台	MQUET	アルファスター1132	手術室	1 台
サージレックス エンシールシステム	J & J	RF-60	手術室	1 台

カメラコントロールユニット	Ikegami	MKC-300HD	手術室	1台
LCDディスプレイ	Ikegami	MLW-2622C	手術室	1台
HDビデオレコーダ	SONY	HVO-1000MD	手術室	1台
閉鎖式保育器	アトム	inq-i	新生児室	1台

※ 病棟管理の小型機器等は除く

## ②『廃棄機器』

廃棄	メーカー	モデル	設置部署	備考
深部静脈血栓 予防装置	村中	フロートロン	手術室	3台
手術台	村中	MON-21	手術室	1台
手術台	村中	PM-202ES	手術室	1台
閉鎖式保育器	アトム	V-850	新生児室	1台

※ 病棟管理の小型機器等は除く

## 【中央管理室設置機器】

機種	メーカー	モデル	備考
輸液ポンプ	テルモ	TE-161	26台
シリンジポンプ	テルモ	TE-331	11台
疼痛緩和用 シリンジポンプ	テルモ	TE-361	3台
ベッドサイドモニター	日本光電	BSM-6701	
	日本光電	BSM-3201	
	日本光電	BSM-3202	
人工呼吸器	IMI	VELA CP	
	IMI	VELA ST	
	IMI	AVEA	

## 【院内報の発行】

- 6/27 総務省からの連絡（植え込み型機器に対する電波の影響等）  
離床センサー設置の報告、ポンプの取扱いについて諸注意
- 7/1 節電対策について、人工呼吸器AVEA使用上の注意喚起  
ニードルレスバルブについて
- 9/22 バッテリー搭載機器について（各機器のバッテリー稼働時間）
- 10/28 テルモ電子血圧計エレマーノについて
- 2/20 閉鎖式吸引システムの導入について  
加温加湿器、気管内挿管チューブの固定、諸連絡

## 【学術発表・他】

- 5/21 県南CEセミナー「当院の医療機器管理について」（川越）
- 6/17～19 日本透析医学会「熱湯クエン酸消毒に於けるAo値の測定」（川越）

## 【学会・研修会への参加】

- 5/21 県南CEセミナー（川越・鈴石）

- 6 / 17～19 日本透析医学会（川越）
- 9 / 23～24 メーカー主催「ペースメーカー研修会」（鈴木）
- 9 / 4 県技士会主催「秋田県透析セミナー」（川越）
- 10 / 2 医療機器安全基礎講習会（柏谷）
- 10 / 23 秋田県臨床工学研究会（鈴木）
- 10 / 29 県南CEセミナー（川越・柏谷・鈴木）
- 11 / 10・15 新規導入「閉鎖式保育器」について（川越）
- 11 / 12～13 県技士会主催「秋田・山形Yボードセッション」（鈴木）
- 11 / 18 メーカー主催「内視鏡外科システム講習会」（川越）
- 11 / 20 メーカー主催「ペースメーカー勉強会」（柏谷）
- 12 / 10 県技士会主催「透析液清浄化基礎セミナー」（鈴木）
- 2 / 11～12 メーカー主催「人工透析装置保守管理研修」（鈴木）
- 3 / 4 県技士会主催「人工呼吸器安全管理セミナー」（柏谷）

#### 【院内研修の実施】

- 4 / 4 新採用者オリエンテーション
- 4 / 26 既卒者対象ポンプ研修
- 5 / 12 新人対象ポンプ研修
- 5 / 16 除細動器研修
- 5 / 27 新人対象ポンプ研修
- 7 / 19 ベテラン対象ポンプ研修
- 8 / 24 新規導入「除細動器」について
- 8 / 25 血液浄化装置研修（透析機器）
- 8 / 25 除細動器研修会
- 10 / 12 院内研修「人工呼吸器①」
- 12 / 11 顕微鏡録画システムの取扱いについて
- 12 / 14 内視鏡外科システム講習会の伝達講習会
- 12 / 15 透析室「勉強会」浸透圧について
- 12 / 20 院内研修「人工呼吸器②」

#### 【業務改善・質改善等】

##### ① 医療安全に関する組織再編

これまでの医療機器安全管理室が医療安全管理室に属することになり、医療機器安全管理部会となった。しかし実際にはME室で管理、運営を行っている状況である。なお透析機器安全管理委員会は医療機器安全管理部会の傘下となる。

##### ② RFA（ラジオ波焼却装置）

今年度よりRFA治療においての機器操作が臨床業務に加わった。

##### ③ OPE室モニターの更新

手術室内のモニターが更新できたことにより、A～C室間における遠隔モニタリングが可能となった。

##### ④ 閉鎖式吸引の導入と気管内挿管チューブ固定具の採用

ICNとの連携にて人工呼吸器下での閉鎖式吸引チューブの導入が行われた。また、WOCとの連携にて気管内挿管チューブの固定が見直された。これにより吸引・肺痰・口腔ケア・皮膚保護の向上が期待される。

#### 【総括】

3.11東日本大震災に続く4.7の大きな余震により、またもや停電、断水となってしまった。幸いなことに早期に復旧はしたが、その次は大雨の影響による断水である。また、夏場の計画停電は実施されなかったものの、改正省エネ法に従い節電対応が実施された。今後の災害や電力不足、流通の遮断に備えた対応は、行政も含めた各組織が連携し、患者の移送も考慮した具体策を検討していかなければならないと感じる。

津波による多くの犠牲者や福島第一原子力発電所の事故は人災であり、想定外では済まされない。震災で犠牲となってしまった多くの方、故郷を離れなければならない方々の生活が一日でも早く元に戻ることを切に願うものである。そして医療機器に携わる者として、安全対策、管理については今以上に心して取り組まなければならないと感じた一年であった。

<文責 川越 弦>

## 臨床検査科

スタッフ	佐藤恵美子	(技師長)
	平塚多喜雄	(室長)
	小丹まゆみ	(室長)
	佐々木絹子	(室長)
	工藤真希子	(主任)
	長瀬 智子	(主任)
	佐々木美奈子	(主任)
	和賀 幸子	(主任)
	大嶋 聡子	(副主任)
	加賀谷美智子	(検査技師)
	田中 清美	(検査技師) (平成23年5月31日まで)
	村上さとみ	(検査技師)
	松井富美子	(業務員)

目標 正確かつ迅速な結果報告で安心できる良質な医療へ寄与する

### 検体検査

3月11日 14:46 忘れられない時を経験した。

検体部門は機能不全となり、非常用電源を頼りに血液ガス分析器のみの稼働で診療をして貰った。普段は意識することもない分析器の消費電力と洗浄用水の使用量を改めて知った。

電気と水の供給が絶えた時、検査科は全く無力な部署であった。止まったエレベータの代わりに人力での給食配膳や、入院患者さんの荷物搬送、救急外来受診者の車いす解除等、各自が出来る手伝いにも限りがあることも知った。

またこの年は、嘱託職員の突然の退職があり、各自が協力体制の在り方を試行し、時間外待機を含む雇用条件を皆で考える年であった。

### 生理検査

改築工事が完了し、担当者が皆同じ場所にいる事で、オーダーを同時に理解し業務分担が出来るため効率が上がり業務環境は改善された。

### 病理検査

年度中(12月)から来院して来る病理医の先生が一人増え回数が週2回から3回となった。

担当者の負担は増すもののこれは、診断結果の報告時間の短縮=患者サービスに繋がることと理解し業務に当たった。

## 年間検査実績(件)

### 検体検査

尿一般	26,618	生化学	559,359	赤沈	3,312
尿定性	17,200	血糖	25,138	血ガス	2,137
尿沈渣	10,032	HbA1c	14,258	免疫関連	1,954
便潜血反応	4,364	血液一般	72,853	輸血関連	3,489
インフルエンザ	3,290	凝固線溶	9,580	乳幼児	2,451
一般細菌	2,229	感染症	15,874	外注	22,582
結核菌関連	1,710	腫瘍マーカー	11,696	外注率(%)	2.8

### 生理検査

心電図	11,317	簡易聴力検査	6,694	腹部エコー(検診)	1,496
ホルター心電図	281	スパイログラフィー(VC・FVC)	2,082	甲状腺エコー	24
マスターダブル	306	眼底カメラ	1,652	頸動脈エコー	271
マスタートリプル	2	脳波	82	心エコー(UCG)	1,788
トレッドミル	10	MCV	134	指尖容積脈波	1
24時間心電血圧計	5	新生児聴力検査	168	血圧脈波	220

### 病理細胞診

生検	1,154	術材	1,134	細胞診	841	婦人科細胞診	4,249
----	-------	----	-------	-----	-----	--------	-------

<文責 佐藤恵美子>

## 自動血液ガス測定装置 ABL800、ABL80 を導入して

平成23年に検査科に大型の自動血液ガス測定装置ABL800が、救急外来に小型のABL80が設置された。従来、院内には血液ガス測定器はABL700の1台しか無かった。

年間2000件以上の検体をこの1台で測定しており、そのためこの機器の負担は大きく、365日、24時間常に測定可能状態に保守管理するのは大変であった。が、震災時、他の検査ができない状態でも、この血液ガス分析装置は、ガスの値だけではなく、電解質、血糖、Hobと他の情報を得ることができ貴重な存在であった。

今回その後継機のABL800を導入した事により、自動攪拌、自動吸引という検査施行者が血液にふれることが無く、検査できる。また、救急外来に小型のABL80を設置した事により、より早く、正確に臨床側に報告ができるようになった。

院内に同等の結果を得られる分析器が2台あるので、検体が重複しても対応できるようになり、効率も良くなった。

<文責 佐々木美奈子>

## 食 養 科

創立122年病院祭・第134回秋田県種苗交換会・湯沢雄勝郡内料理コンテスト等々、平成23年度は、院内外において大きなイベントが数多く開催されましたが、私も何らかのかたちで関わりを持つことが出来ました。

お陰さまでいろんな人との出会いがあり、また、井の中の蛙同然だった自分を深く省みる絶好の場となりました。

例えばイベントのひとつに【にこにこ栄養相談】がありました。そこで、一人の女性と出会いましたが、彼女が話してくれた言葉が今も忘れられません。それは、

「糖尿病は私の個性の一つなんです。悩んでいる暇なんかありませんよ。」と。

病気を苦にしたり悲しんだりするのではなく、病気を受け入れ（個性と捉え）ポジティブに病気と闘う姿勢に心打たれました。

ところで、今年度当院では《第64回秋田県病院給食協議会》の当番病院として順番が回ってきておりました。全県の病院関係者（医師・管理栄養士・栄養士・調理師・事務職員など）が集う大切な会であり、この会の成否がイコール病院の名誉にも係わってくると思うと大きなプレッシャーでした。第63回目を担当したのが、由利本荘医師会病院でした。6月3日～4日の両日行われましたが、これが終了した時からは、私にとってのスタートでした。百名を超える参加者を収容できる宿泊施設のゲットから始まり、講演のテーマ、それに合わせた講師の選出、懇親会の企画およびアトラクションの依頼等、多くの難題に苦悩の日々が続きました。それでも何とか、食養科スタッフはもとより、院長、局長、総務課スタッフの多大なる協力の下、平成24年6月1日～2日開催予定まで漕ぎつけることが出来ました。

今年度を振り返ると、自分の力以上のものに取り組まなければならない体験をした年だったように思います。まさにそれは、自分の可能性への挑戦であり、それは同時に自分のキャパシティを大きくする手段であったのではないかと、しみじみと思い返しています。

**「常に一步、前進することを心がけよ。停止は退歩を意味する。」**

この言葉を胸に、今後も前進して参りたいと思います。

### 食養科スタッフ

技師長	原田 優子
主任	川越 真美
主席調理技能士	天羽 勝義
主任	小松 信宏
嘱託事務員	幕沢 美紀・藤原 由香
嘱託調理員	松井世津子・石川 勝美・高橋 広美・赤川 千恵・富永美保子 百合川智賀子・佐藤 殉子・高橋 麗・二坂由紀子・平井 貴子 高橋加奈子・細川 陽子・長瀬 卓（平成24年1月採用）
パート食器洗浄員	田中 澄子・小山 訪子・藤原 明香

計22名

## 活動状況

### \*院内活動実績

平成23年4月7日  
新人看護師対象研修会 原田 優子

平成23年4月19日  
「経管流動食・胃瘻について」勉強会 原田 優子

平成23年8月10日  
震災報告会 (発表者) 原田 優子

### \*院外活動実績

平成23年8月1日  
湯沢保健所主催 湯沢雄勝食改善推進委員対象 (湯沢市岩崎公民館にて)  
講演 演題 「栄養バランスの良い献立をたてよう  
～塩分控えめ・野菜たっぷり献立を考えよう～」  
原田 優子

平成23年9月1日  
湯沢雄勝郡内「料理コンクール」審査員として出席  
(湯沢生涯学習センター) 原田 優子

平成23年10月29日  
第134回秋田県種苗交換会農工商フェア (横手市)  
生活習慣病予防・メタボを予防しよう  
「ここにこ栄養相談」 原田 優子

### \*出前健康講座実績

平成23年4月13日  
朝日ヶ丘児童センターにて 原田 優子

平成23年7月11日  
悪戸構造改善センターにて 川越 真美

平成23年9月27日  
下根田構造改善センターにて 原田 優子

平成23年11月28日  
根田川集落センターにて 原田 優子

平成23年12月7日  
金沢公民館にて 原田 優子

平成24年1月17日  
寺内会館にて 川越 真美

### \*その他

平成24年2月6日  
テレビ東京の取材を受ける。(2月26日放送)

平成23年度食数及び給食材料費

区分	食 数				1人1日当たり単価			
	常食	軟食	特別食	合計	常食	軟食	特別食	平均単価
4月	4340	2830	3594	10764	806	612	671	710
5月	4972	3163	3567	11702	694	673	601	660
6月	4928	3112	3956	11996	687	703	566	651
7月	5055	3360	3866	12281	669	600	568	618
8月	5069	3283	3844	12196	646	632	601	628
9月	4921	3684	3491	12096	717	569	634	648
10月	4696	3698	4171	12565	719	645	539	638
11月	4801	2879	4226	11906	629	598	554	595
12月	5421	3333	3868	12622	704	683	689	694
1月	4937	3632	4112	12681	715	629	544	635
2月	4092	3282	4135	11509	858	690	565	705
3月	3896	2783	4278	10957	750	738	568	676
合計	57128	39039	47108	143275	8594	7772	7100	7858
平均	4761	3253	3926	11940	716	648	592	655

平成23年度 栄養指導（外来、入院、集団）状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来	肥満症					2	2				1	1	
	糖尿病	2	2	2	3	3	4	4	5	2	1	1	1
	脂質異常症								2	1			1
	慢性腎不全		1										
	入院												
手術後食	糖尿病	6	8	4	4	5	1	2	5	8	6	2	2
	心疾患		1										
	慢性腎不全	2		2	1	1			1				
	肥満	1											
	クローン病							1					
				1							1		
	集団												
糖尿病	糖尿病	3	4	7	6	7	4	8	7	9	9	8	3
	合計人数	19	17	19	15	19	13	16	24	24	18	18	8

<文責 原田優子>

## 健康管理センター

### スタッフ

所長	船岡 正人	(兼務)
所長補佐	佐藤 正弘	(兼務)
保健師	鈴木久美子	
保健師	松浦 喜美	
保健師	伊藤真理子	
看護師	加藤 亜樹	
副主査	柴田 昌洋	
事務員	菊地 智子	
事務員	藤倉 美穂	
事務員	奥山沙耶香	
事務補助	久米真樹子	(平成23年5月から7月まで)
事務補助	高橋笑津子	(平成23年5月から7月まで)
事務補助	大坂 英里	(平成23年5月から7月まで)
事務補助	笹山 早苗	(平成24年2月から)

### 概 要

主な健診項目での対前年度比では、延べ受診者数で11,379名となり、昨年度と比較して4.79%の増となりました。なお実質の受診者数は、7,930名です。請求額は153,480千円で6,853千円、4.67%増となり、健康管理センター開設以来はじめて1億5千万円を突破しました。この実績は、院内関係部署各位のご理解ご協力により達成されたものであり、心より感謝申し上げます。

平成23年4月に新健診宿泊室が完成し、これまでの2室体制から4室体制へと変わった事により宿泊ドック希望者をより多く受入出来るようになりました。また協会けんぽ生活習慣病予防健診や各事業所・健康保険組合の健康診断申込者が増加し続けております。また二次検診予約窓口への対応や受診者への継続フォローの充実といった本来の業務の他、外来部門での健康診断や予防接種の担当、院内職員健康管理として衛生委員会の指示のもと感染データ管理や各種予防接種対応などといった部署外の業務も当センター保健師が担っており、業務の範囲や量は年々拡大・増加し続けております。

引き続き当院の基本理念「地域の人々に信頼される病院を目指します。」に基づく「地域医療・保健に貢献します。」の基本方針実現に努めるとともに、二次検診を通して保険診療部門へ貢献する事で、健全な病院経営に資するよう頑張っております。

### 平成23年度目標

1. 二次検診受診率の向上
2. 医療事故ゼロを目指す
3. 宿泊ドック受入者の増

### 主な項目の過去5年間の受診者数と請求額

健診種別	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
政管一般健診・付加	2,013	1,842	2,465	2,671	2,980
日帰り人間ドック	910	957	939	1,018	1,000
宿泊人間ドック	172	184	185	182	259
脳ドック	119	134	128	158	161
市役所関係職員健診	2,298	2,477	1,900	1,933	1,946
事業所健診	797	718	759	675	803
子宮がん検診	1,579	1,950	1,889	2,080	2,009
乳がん検診	1,243	1,500	1,634	1,669	1,730
B型肝炎検査	443	431	462	473	491
小計(件数)	9,574	10,193	10,361	10,859	11,379
増減率(%)	5.08	6.47	1.65	4.81	4.79
二次検診(自動車健保)	34	56	—	—	—
合計(件数)	9,613	10,255	10,361	10,859	11,379
請求額(千円)	124,037	130,993	135,925	146,627	153,480
増減率(%)	6.09	5.61	3.77	7.87	4.67

### 参考資料

特定健康診査	受診者	132名	請求額	908,472円
特定健康指導	受診者	6名	請求額	48,720円
内臓脂肪CT	受診者	41名	請求額	123,000円
肺CT	受診者	32名	請求額	384,000円
腫瘍マーカー	受診者	612名	請求額	1,705,170円
ピロリ抗体	受診者	69名	請求額	69,000円
乳腺エコー	受診者	29名	請求額	58,000円
HPV検査	受診者	124名	請求額	363,000円

### 平成23年度(2011年度)健康管理センター報告書

健診種別	受診者数	請求金額	検査料金	消費税
協会けんぽ一般健診	2,844	47,211,386	44,963,225	2,248,161
付加健診	136	3,118,700	2,970,191	148,509
子宮ガン検診	175	614,460	585,200	29,260
子宮ガン(オプション)	544	1,669,055	1,589,577	79,478
乳ガン(オプション)	480	2,041,500	1,944,286	97,214
肝炎ウイルス検査	5	9,920	9,448	472
日帰り人間ドック	1,000	32,383,440	30,841,372	1,542,068
宿泊人間ドック	259	16,083,821	15,317,925	765,896
脳ドック	161	5,252,016	5,001,920	250,096
市役所関係職員健診	1,946	17,141,824	16,325,547	816,277
事業所健診	803	13,772,673	13,116,832	655,841
婦人科検診	1,290	4,820,999	4,591,428	229,571
乳ガン視触診・マンモグラフィ	1,250	5,241,958	4,992,341	249,617
B型肝炎検査・接種	491	460,458	438,532	21,926
CT・腫瘍マーカーほかオプション	907	2,701,170	2,572,543	128,627
特定健康診査・特定保健指導	138	957,192	911,612	45,580
合計	12,429	153,480,572	146,171,974	7,308,598

<文責 柴田昌洋>

# 事務局

## 総務課

### 企画係

スタッフ 佐藤俊幸、柿崎正行、阿部千鶴子

### 業務内容

- ・ 病院事業の基本計画の策定及び推進に関すること。
- ・ 病院の事務事業の改善及び目標管理に関すること。
- ・ 病院機能評価の取得に関すること。
- ・ 病院事業の経営改善の調査に関すること。
- ・ 病院広告及び広報に関すること。
- ・ 病院ホームページに関すること。
- ・ 皆様の声（投書箱）集計。
- ・ 外来・入院患者さんアンケート調査及び集計。

### 平成23年度「皆様の声」集計結果

#### 【入手方法】

投稿など	電話	電子メール	職員へ口頭で	その他	合計
70	-	12	-	5	87

#### 【内容】

	苦情	要望	感謝	その他
診療科	5	1	12	5
看護科	8	1	16	11
事務局	9	4	10	13
リハビリテーション科	3	-	-	-
食養科	1	1	8	-
健康管理センター	-	-	-	-
その他	1	-	2	5
合計	27	7	48	34

※ 入手数と内容の数値が一致しないのは、1通で複数部署にわたる場合を各1件としているため

<文責 高橋 功>

## 総務係

### 総務係

スタッフ 藤木正文、菊池 優、亀谷良文、後藤美佐子、佐藤ひろみ、長澤克彦、三浦和也、津川明子、藤田千紘、高橋道夫

業務内容 人事・給与支払等管理業務  
旅費・経費等各種支払業務、会計処理、予算・決算処理、起債管理業務  
文書收受・発送・保管業務  
電話交換業務  
公用車・患者搬送車の運転、維持管理業務  
選挙事務（院内入院患者の不在者投票）  
互助会会計事務

### 医局秘書担当

スタッフ 谷口明美

業務内容 医局関連庶務業務全般  
医師スケジュールの管理業務【学会・出張関係各手配、年休管理など】  
医局図書室、医師当直室、産泊室の管理業務  
医局費、旅行積立金収支報告処理業務  
医師給与に関する書類の作成業務  
医局行事のセッティング業務

### 事務当直

スタッフ 佐々木悟、茂木伸悦、小田島定男、照井利明

業務内容 夜間の救急患者の受付、電話取次ぎ、早朝の診察券受付等業務

### 夜間警備

スタッフ 照井祐一、石川稔夫、堀江 努、鈴木重樹、佐藤 賢

業務内容 夜間の来院者等の確認、院内巡回による戸締り・火気確認等業務

<文責 藤木正文>

## 管財係

### スタッフ

係長（薬品担当） 阿部光子

物品担当 菅原祐司、照井真澄（5/16～8/30 産休）、伊藤有希子  
佐藤悠樹（6/1～8/30）

施設担当 伊藤建一、高橋正男、渡辺ひとみ

ボイラー室 森谷 茂、柿崎更生、杉田健一、堀江敦司、山中慎太郎、千葉禎彦、佐藤幸夫

駐車場 珍田 健、黒沢秀利、佐々木政雄、谷口英明、高橋 諒（～8/31）  
向井直樹、藤倉忠彦（～6/30）、佐藤悠樹（～5/31、8/31～9/30）

## \*係長（薬品担当）

### 業務内容

- ・ 管財係統括
- ・ 医療機器の購入に関すること
- ・ 医薬品・試薬・血液購入の経理、価格交渉、在庫管理
- ・ 酸素使用状況調査
- ・ 職員被服の見積・発注
- ・ 未払金入力処理、貯蔵品入力処理
- ・ 医薬品・診療材料関係使用状況調査
- ・ 棚卸資産調査、統計に関すること
- ・ 院内掲示に関すること
- ・ 行政財産使用許可業務
- ・ その他管財係に関すること
- ・ 病院増改築に関すること

## \*施設担当

### 業務内容

- ・ 施設の営繕、保全に関すること
- ・ 建物、設備の保全に関すること
- ・ 防災に関すること酸素使用状況調査
- ・ 廃棄物に関すること
- ・ 医師住宅の施設管理に関すること
- ・ 危険物の管理保全に関すること
- ・ 駐車場に関すること
- ・ 用地の取得、処分に関すること
- ・ 工事請負契約、委託契約、賃借契約に関すること
- ・ 警備に関すること
- ・ 除排雪に関すること
- ・ 医療用ガスの保全に関すること
- ・ 院内の環境整備に関すること
- ・ エネルギー管理に関すること
- ・ 未払金入力処理
- ・ 開設許可事項変更届出事務に関すること
- ・ 消防・危険物等届出事務に関すること
- ・ 行政財産使用許可業務
- ・ その他施設に関する業務
- ・ 病院増改築に関すること

## \*用度担当

### 業務内容

- ・ 医療材料・消耗品の価格交渉、発注、払出業務

- ・ 石油製品の価格交渉、契約
- ・ 市有物件災害共済会事務
- ・ 未払金入力処理
- ・ 特定治療材料の調査に関すること
- ・ 医療材料等の使用状況調査・在庫管理に関すること
- ・ 委託契約、賃貸契約に関すること
- ・ 備品購入、備品修理に関すること
- ・ 備品台帳の管理

## \*ボイラー室

### 業務内容

- ・ ボイラー室の保守管理
  - ・ 空調機械保守管理
  - ・ 冷暖用ファンコイル保守管理
  - ・ 蛍光灯交換及び管理
  - ・ 冷房・暖房運転
  - ・ 自家発電機の管理
  - ・ 重油取り扱い及び管理
  - ・ 医療ガス情報監視、点検及び酸素ボンベ交換
- 宿直時のトラブル及びナースステーションからの要請件数
- |       |     |
|-------|-----|
| 警報関係  | 13件 |
| 施設関係  | 33件 |
| 蛍光灯関係 | 46件 |
| ナース関係 | 47件 |
- 委託契約業務
- |    |     |
|----|-----|
| 件数 | 42件 |
|----|-----|
- 賃貸契約業務
- |    |     |
|----|-----|
| 件数 | 36件 |
|----|-----|
- 医薬品見積状況
- |    |            |        |
|----|------------|--------|
| 試薬 | H23. 4. 1  | 508品目  |
| 薬品 | H23. 11. 1 | 1435品目 |
- 医療機器契約業務
- |      |                   |
|------|-------------------|
| 契約件数 | 超音波手術器 他50件       |
| 契約総額 | ¥103, 225, 094. - |

平成23年度医療機器購入一覧(経常分)

	品名	科・課名
1	内視鏡汎用トロリー	消化器センター
2	ポータブルマルチスコープ	消化器センター
3	簡易画像記録装置	消化器センター
4	EVIS LUCERA 十二指腸ビデオスコープ JF-260V	消化器センター
5	内視鏡洗浄履歴管理システム	消化器センター
6	超音波手術器	手術室
7	手術顕微鏡 OPMI Vario	手術室
8	アトム保育器 インキュ	2A病棟
9	アンプ気道管理トレーニングモデル本体	麻酔科
10	リニアプローブ (超音波診断装置 Vivid 用)	手術室
11	麻薬保管用金庫	薬剤科
12	血液ガス分析装置	臨床検査科
13	ビリルビン濃度測定装置	臨床検査科
14	ガス炊飯器	食養科
15	配膳車	食養科
16	昇降式サンディングボードセット	リハビリテーション科
17	ADLシミュレーションシステム、一式	リハビリテーション科
18	トリートメントテーブル	リハビリテーション科
19	除細動器	手術室
20	輸液ポンプ	ME室
21	ベッドサイドモニター	手術室
22	手術台	手術室
23	自動血圧計 (健太郎) ・架台セット	外来
24	浴槽	3A病棟
25	メディカルウォール処置台	3B病棟
26	解析機能付き多機能心電計	健康管理センター
27	離床センサー	医療安全管理室
28	電子カルテシステム端末制御システム	医療情報管理室
29	電子カルテシステム関連機器 (ネットワーク機器保守用品)	医療情報管理室
30	電子カルテ端末更新	医療情報管理室
31	電話予約受付システム導入	医事課
32	薬用保冷庫	3 A病棟
33	救急カート	外来
34	化学療法用ベッド (グリーン)	化学療法室
35	バーコードラベルプリンター	外来採血室
36	DPC分析システムEVE	医事課
37	光触媒環境浄化装置	薬剤科
38	FFP解凍装置	臨床検査科
39	側臥位用支持器セット	手術室
40	薬用冷蔵ショーケース	臨床検査科

41	器材戸棚	手術室B・C
42	ガステーブル	食養科
43	内視鏡外科用光学視管	手術室
44	ストレッチャー	手術室
45	画像処理装置	診療放射線科
46	検像用画像観察装置	診療放射線科
47	バイオプシー・システム	泌尿器科外来
48	公用車	総務課

### 薬品購入実績

	22年度	23年度
内服	185,856,023	146,696,787
注射	463,839,683	427,071,265
外用	35,437,761	29,497,748
血液	26,112,493	25,009,039
試薬	68,166,141	64,771,651
合計	779,412,101	693,046,490

(消費税含まない)

### 医療消耗品（特材、一般）購入金額一覧

	H22			H23		
	医療消耗	特材	一般	医療消耗	特材	一般
4月	28,471,203	13,442,334	15,028,869	21,809,046	7,650,406	14,158,640
5月	21,628,812	9,922,155	11,706,657	25,035,490	10,780,814	14,254,676
6月	31,294,279	13,541,329	17,752,950	26,696,385	12,331,506	14,364,879
7月	28,223,487	11,323,300	16,900,187	24,148,420	9,601,387	14,547,033
8月	27,457,169	11,788,402	15,668,767	31,429,813	15,214,964	16,214,849
9月	26,230,687	12,784,921	13,445,766	28,456,728	14,818,716	13,638,012
上期	163,305,637	72,802,441	90,503,196	157,575,882	70,397,793	87,178,089
10月	28,808,470	12,983,649	15,824,821	28,683,162	13,305,130	15,378,032
11月	30,110,116	13,359,176	16,750,940	32,345,848	15,985,250	16,360,598
12月	27,036,922	8,644,217	18,392,705	36,420,327	18,383,856	18,036,471
1月	29,272,401	15,136,018	14,136,383	25,579,546	11,627,853	13,951,693
2月	25,324,228	11,325,925	13,998,303	25,788,462	10,298,527	15,489,935
3月	29,470,555	13,538,341	15,932,214	23,229,014	8,642,622	14,586,392
下期	170,022,692	74,987,326	95,035,366	172,046,359	78,243,238	93,803,121
合計	333,328,329	147,789,767	185,538,562	329,622,241	148,641,031	180,981,210

<文責 阿部光子>

## 医事課

平成23年度診療報酬請求では、一般入院基本料7：1を6月に取得したため、入院単価が前年度と比較して13.5%増となり、入院収益は前年度と比較して3.2%の伸び率となった。一方、外来単価は0.7%減となったものの外来収益は前年度と比較して1.4%の伸び率となった。

増収の理由となった施設基準の届出としては、前述の7：1入院基本料の取得、脳血管リハI・脳血管リハI（廃用）の取得、さらに、医師事務作業補助者体制加算4から2への変更。輸血管理料の再届出。外来化学療法加算、単純MRI撮影1.5テスラ以上の機器の届出があげられる。これらの届出により外来単価の増、入院はDPC機能評価係数がアップし単価の増につながったものと思われる。

また、DPCに関しては診断群分類ごとの平均在院日数について検討を行い、各科担当医師と在院日数短縮に向けて協議をし、次年度の効率性指数アップを図った。

さらに24年度は診療報酬改定の年でもあり、新規の施設基準獲得やDPC機能評価係数アップを目標に、医師・診療情報管理士・医事課職員が連携しあい収益確保に努めてまいりたい。

### 平成23年4月1日現在のスタッフ

浮嶋 優子	高橋 功	石山 博幸	照井 圭子	百合川深里
石塚 紫	伊藤 雅子	田澤 妙子	谷川香奈子	伊藤 雅子
佐々木有紀子	瀬田川春香	佐々木和貴子	照井希世子	高橋真知子
高橋由紀子	青池 満雄	村田 芳江	伊藤喜美子	藤原 明子

### 医事課の業務内容

- ※ 窓口業務
- ※ 医療費請求業務
- ※ 医療相談業務

### 医事課組織

- ・医事係 <入院事務担当 外来事務担当>
- ・会計係
- ・医療相談室

<文責 浮嶋優子>

# 医療安全管理室

## 概要

医療安全管理室は、医療事故防止活動を通して「医療の質を保証すること・質の向上を目指すこと」を目的とし組織横断的に安全管理体制を構築する事を目的としている。

平成20年4月より、医療安全管理室に専従の医療安全管理担当者を配置しており、今年度から医療安全管理の担当者が交替しての活動となった。

医療安全管理者は、病院全体の医療安全に関する業務に従事し、医療安全に関する企画・立案および評価、委員会の円滑な運営の支援、また、職員への医療安全に関する教育研修、情報収集と分析、再発防止策や、発生予防等に務める。

## 構成員

医療安全管理室は、医療安全管理室長のもとに次にあげる者をもって構成する。

- |                          |       |
|--------------------------|-------|
| 1) 医療安全管理室長              | 吉岡 浩  |
| 2) 医療安全管理室副室長（専従医療安全管理者） | 木村恵美子 |
| 3) 医薬品安全管理者（兼任）          | 石田 良樹 |
| 4) 感染対策管理担当者（専従）         | 小川 伸  |
| 5) 褥瘡対策管理担当者（専従）         | 佐藤美夏子 |
| 6) 医療機器安全管理者（兼任）         | 川越 弦  |
| 7) 医療安全管理室事務（兼任）         | 阿部千鶴子 |

## 業務

- 1、院内報告制度の整備ヒヤリハット報告書の検討集計・分析
- 2、医療安全の委員会に関する活動  
医療安全管理委員会・リスクマネージャー委員会・感染対策委員会・救急運営委員会・輸血療法委員会・化学療法委員会etc.
- 3、医療安全の為の部署間の調整・対策等の提案 ヒヤリハット通信の作成・回覧
- 4、医療安全の為の指針やマニュアルの作成
  - 1) 医療安全に関する指針・規程の見直し
  - 2) 医療安全マニュアルの作成
- 5、医療安全に関する研修・教育

### 平成23年度医療安全研修会

月	内容	担当	対象	日付
4月	新採用者研修 医療安全対策(総論・各論) 基礎看護技術の研修(採血・注射・吸引について)	医療安全管理室 看護科	新採用職員 看護科新人看護師	4月5日(火) 4月20日(水) 4月22日(金)
6月	褥瘡予防のケア(体圧分散・ずれ予防) 創傷ケア・褥瘡ケア(実技)	医療安全管理室 皮膚創傷ケア	看護科新人看護師 対象：プリセプティールとプリセプター	6月3日

6月	喀痰検査について	感染管理担当者 及び検査科 佐々木絹子	看護科	6月22日 6月24日
7月	輸液・シリンジポンプ研修会	ME川越 弦	医師・副主任以上の看護師	7月19日
	医療安全研修 「医療安全と感染対策」 講師:秋田大学病院准教授 伊藤 亘	医療安全管理室	全職員	7月29日
8月	除細動器の勉強会	医療機器安全管理担当	医師及び研修医・新人看護師 看護科の興味のある方・再確認したい方	8月25日
9月	洗浄・消毒・滅菌	感染管理担当	看護科	9月5・6・7日
	糖尿病患者における当院のインシデント状況	医療安全管理者	医療職	9月28日
10月	医薬品に関するヒューマンエラーについて	医薬品安全管理担当	看護科師長・主任	10月3日
	人工呼吸器の勉強会①	医療機器安全管理担当	研修医・看護科・新人看護師	10月12日
	転倒・転落対策セミナー	医療安全管理者	研修医・看護科・リハビリ	10月26日
11月	教育委員会教育研修「医療安全KYT」	看護科教育委員会（講師：木村恵美子）	看護科10年目以上の在職者	11月17日
12月	褥瘡に関する研修会 人工呼吸器の勉強会②	褥瘡委員会 医療機器安全管理者	全職員 新職員・他興味のある方	12月8日
1月	AED 抗がん剤について	医療機器担当 医薬品安全管理	医療職以外 医師・研修医・看護師・薬剤師	「抗がん剤について」は講師インフルエンザのため延期
2月	血液製剤の取り扱い	血液センター	医師・看護師・検査技師	講師インフルエンザ感染のため延期
3月	災害・防災訓練講習会	医療安全管理室	全職員	3月9日 4月16日

6、医療安全に関する院外からの情報収集と対策 医療安全情報の掲載

7、医療安全に関する院内評価業務

投薬確認の監査  
薬品保管に関する監査

救急カートの整備状況監査

### 【主な内容】

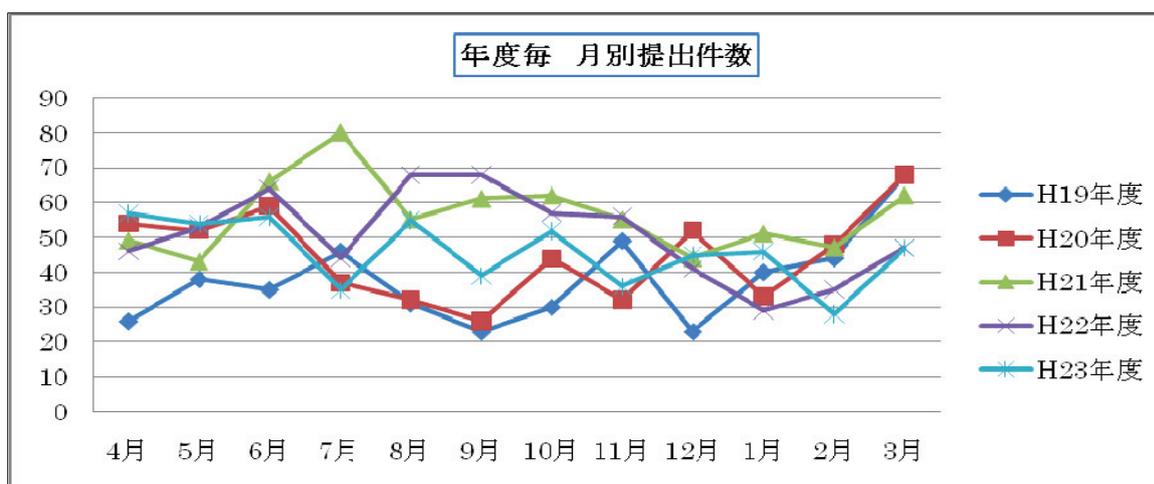
- 1) 病院増改築に伴い、5月より医療安全管理室が設けられ医療安全管理者・感染対策認定看護師(院内感染管理担当)・皮膚・創傷排泄ケア認定看護師(褥瘡ケア管理担当)が同室となり、常時情報交換ができるようになった。

- 2) 医療安全に関する対策・検討の決定承認機関として医療安全管理委員会を設置した。  
また、小委員会（ワーキンググループ）による検討対策案を討議することによりリスクマネージャー委員会などへの報告が解りやすく伝えることができた。
- 3) 凍結血漿の融解に関して  
昨年度のインシデント事例検証の結果、自動融解器購入され検査科から払い出しすることで10月より手順作成し使用開始された。
- 4) 禁忌情報の注意喚起表示を、院外処方箋に掲載し（11月より）、調剤薬局の薬剤師にも情報交換ができるようになった。
- 5) そのほか、インシデント報告の対策検討することでマニュアル改定を行い業務改善された。

### 平成23年度ヒヤリハット集計

年度毎提出件数 月別

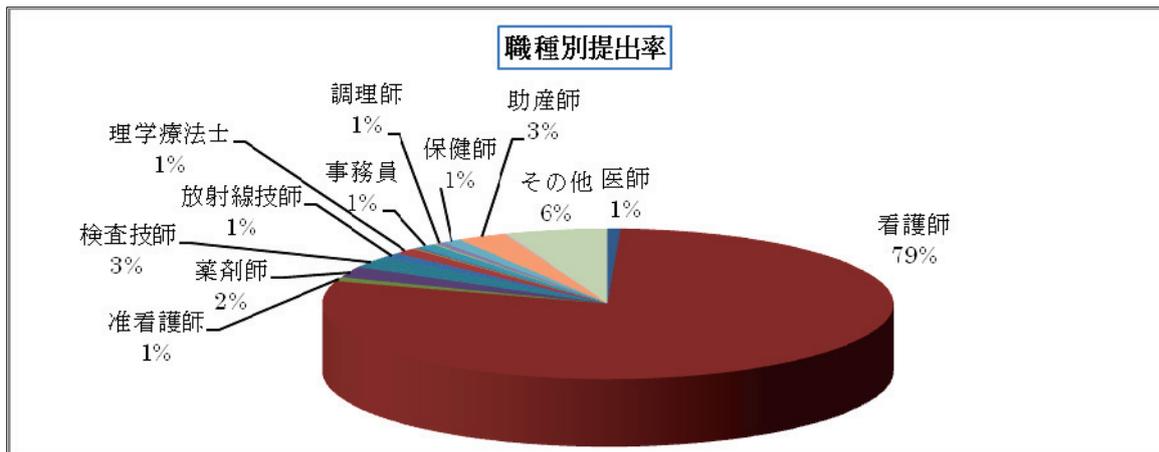
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H19年度	26	38	35	46	31	23	30	49	23	40	44	68	453
H20年度	54	52	59	37	32	26	44	32	52	33	48	68	537
H21年度	49	43	66	80	55	61	62	55	44	51	47	62	675
H22年度	46	53	64	44	68	68	57	56	41	29	35	47	608
H23年度	57	54	56	35	55	39	52	36	45	46	28	47	550



職種別提出件数 月別

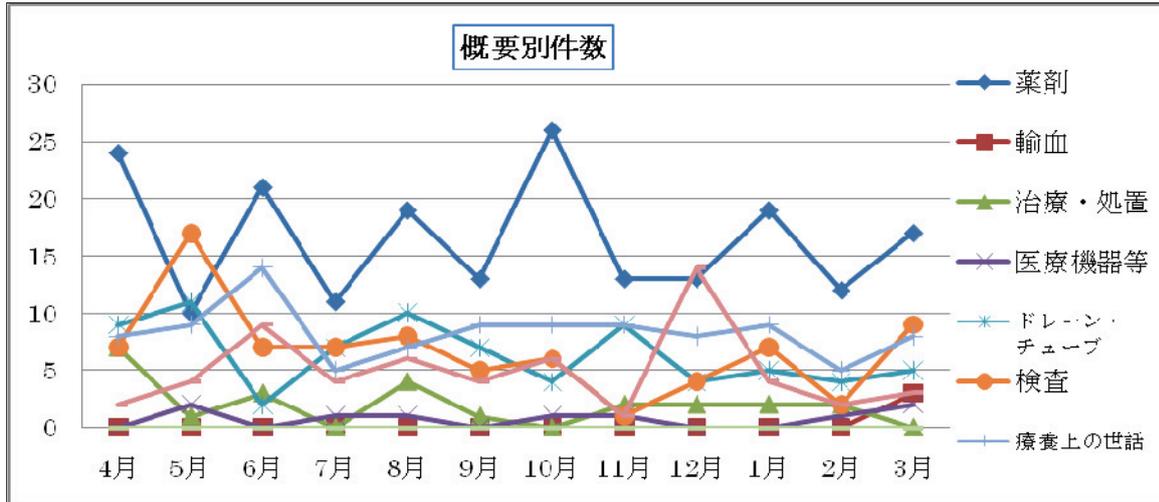
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医師	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	4
看護師	42	40	42	28	41	30	40	29	37	39	26	41	435
准看護師	1	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	5
薬剤師	2	0	2	0	2	0	4	1	0	1	1	0	13
検査技師	1	3	0	1	2	3	1	1	0	1	0	1	14
助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線技師	0	1	0	2	1	0	0	0	0	1	0	1	6

理学療法士	1	2	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	7
作業療法士	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
言語療法士	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
事務員	1	0	0	1	0	3	0	0	0	1	0	0	6
運転手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボイラー技師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
調理師	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
保健師	1	0	2	0	0	2	0	0	1	0	0	0	6
助産師	2	2	2	1	3	0	1	2	1	0	1	0	15
MSW	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床工学士	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
その他	5	5	5	2	4	0	2	0	3	2	0	4	32
合計	57	54	56	35	55	39	52	36	45	46	28	47	550



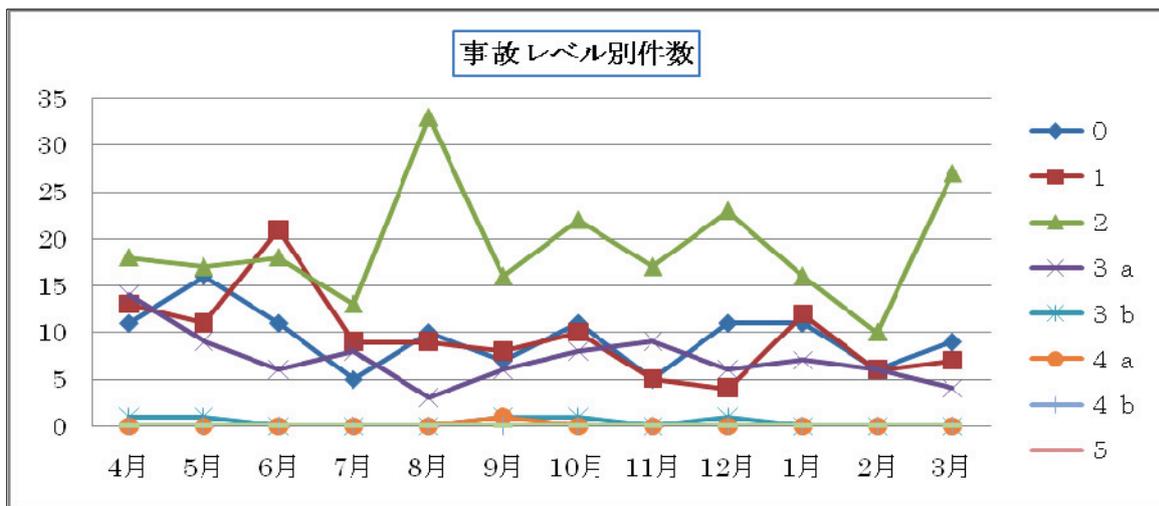
ヒヤリハット概要 月別

概要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬剤	24	10	21	11	19	13	26	13	13	19	12	17	198
輸血	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
治療・処置	7	1	3	0	4	1	0	2	2	2	2	0	24
医療機器等	0	2	0	1	1	0	1	1	0	0	1	2	9
ドレーン・チューブ	9	11	2	7	10	7	4	9	4	5	4	5	77
検査	7	17	7	7	8	5	6	1	4	7	2	9	80
療養上の世話	8	9	14	5	7	9	9	9	8	9	5	8	100
その他	2	4	9	4	6	4	6	1	14	4	2	3	59
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	57	54	56	35	55	39	52	36	45	46	28	47	550



平成23年度レベル分類 月別

事故レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	11	16	11	5	10	7	11	5	11	11	6	9	113
1	13	11	21	9	9	8	10	5	4	12	6	7	115
2	18	17	18	13	33	16	22	17	23	16	10	27	230
3 a	14	9	6	8	3	6	8	9	6	7	6	4	86
3 b	1	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	5
4 a	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
4 b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	57	54	56	35	55	39	52	36	45	46	28	47	550



<文責 木村恵美子>

## 医療情報管理室

平成23年度は病院医療情報システムの安全かつ合理的な運用と電子カルテシステムのセキュリティ向上を行うことを目的とした。

### <電子カルテ>

電子カルテシステム関連として、日々のソフト更新・設定変更に加え、次期電子カルテシステムへのリプレースを踏まえ、Windows 7 端末の導入について、5ヶ年計画で実施することとし、その一年目として70台の端末設定を実施した。

また、小児科の電話予約システムサーバの更新を実施し、内科の新患予約にも対応した。

加えて、セキュリティの向上と業務の効率化を図るため、端末管理ソフトである SKYSEA CLIENT VIEW を導入。許可済みのUSBメモリ等各種ストレージの使用制限及び、各端末の遠隔操作の実施・ログの収集を行った。

例年に引き続き、電子カルテソフトベンダーからのSEの定期訪問事業を実施し、各部署の要望等を取り入れたシステム更新を実施した。

一方、DPC分析ソフトとして、MDV社のEVEを導入し、ベンチマーク等分析を行なった。

### <平成23年度のスタッフ>

藤盛 修成	加藤 健	佐藤セツ子	照井 洋子	高橋 共子
浮嶋 優子	柿崎 正行	照井 圭子	木村 宏樹	佐藤 恵
伊藤 誉幸	千葉 崇仁	高橋 清		

### <医療情報管理室の業務内容>

- ・電子カルテシステムを主とした院内医療情報システムの更新及び保守
- ・院内情報システム機器の更新・修理・新規設置等の作業
- ・新規システム導入に関する企画・立案及び各部署への助言
- ・病診連携システム導入に関する調整
- ・院内職員に対するシステム関連のヘルプデスク作業
- ・診療情報に関する統計的資料の作成及び分析

<文責 柿崎正行>

## 地域医療連携室

平成12年に病診連携室を発足し業務を行ってきたが、平成22年7月より、病診連携室をより発展させ、一層の連携充実を図るため、名称を地域医療連携室と変更し、業務にあたっている。

今年度は、診察2487件、検査651件、合計3138件のご紹介をいただいた。

昨年度と比較し、紹介件数は13件の増加となった。診察の紹介件数は114件の増加となったものの、検査の紹介件数は101件の減少となっている。検査機器等のPRを積極的に行い、紹介件数の増加につなげたい。今後も、皆様に選ばれる病院を目指し、地域医療に貢献できるよう努めていきたい。

また、11月8日には地域医療連携セミナーを開催し、23施設の先生方のご参加をいただいた。放射線科泉純一医師より「MR I 検査の最近の動向－MR I 更新後の使用経験を中心に－」、佐藤美夏子皮膚・排泄ケア認定看護師より「褥瘡の局所治療について」と題してセミナーが開催された。平成17年に始まったこの地域医療連携セミナーも7回目を迎え、年々参加者が増加し、年1回の貴重な情報交換の場として有意義なものとなっている。地域医療連携を円滑に進める上で今後も続けていきたい。

### スタッフ

室長	藤盛 修成
医事課長	浮嶋 優子
医事課	高橋 美幸

### 業務内容

- ・医療機関からの紹介患者の受け入れ
- ・医療機関からの検査予約の受け入れ（電話・FAX）
- ・紹介患者の経過報告
- ・医師異動や外来担当変更時、変更内容について医療機関へ連絡
- ・紹介元医療機関と病院側との諸連絡の取次ぎ
- ・紹介患者実績や検査利用状況などの統計資料を月1回作成
- ・地域医療連携だより「かじか」発行
- ・医療機関訪問・・・8月上旬と12月下旬の年2回、48医療機関訪問  
（丹羽院長、吉岡副院長、藤盛副院長、船岡副院長、江畑副院長）
- ・地域医療連携セミナー・・・11月8日（会場：横手セントラルホテル）  
セミナー・・・院外23人、院内49人 計72人参加  
懇親会・・・院外18人、院内37人 計55人参加

平成23年度 紹介率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
①初診患者数	1204	1520	1475	1365	1615	1412	1472	1386	1383	1276	1563	1489	17160
②救急搬送数	76	84	70	81	88	75	73	86	86	89	77	74	959
③紹介患者数	136	123	154	150	180	146	185	174	158	134	120	152	1812
紹介率(%)	17.6	13.6	15.2	16.9	16.6	15.7	17.5	18.8	17.6	17.5	12.6	15.2	16.1

紹介率 = (②+③) / ① × 100%

(①・・・時間外、休日、深夜受診の6歳未満の小児患者を除く)

平成23年度平均紹介率 = %

平成23年度 紹介内訳

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
診察	191	183	224	185	244	228	236	234	213	183	164	202	2487
CT	17	27	22	21	24	18	22	23	20	27	22	22	265
MRI	24	26	37	28	24	25	47	32	31	26	25	35	358
MCV	3	1	0	2	2	0	4	1	0	1	1	3	18
EEG	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
トレッドミル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ホルター心電図	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
UCG	2	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	2	9
計	237	237	284	237	294	271	310	291	265	237	213	264	3138

平成23年度 紹介内訳(診療科別)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内科	6	11	24	7	10	12	12	15	13	6	13	18	147
消化器内科	74	65	79	65	81	76	93	80	72	71	59	78	893
循環器内科	7	8	17	10	15	13	11	21	13	8	5	15	143
呼吸器内科	8	7	9	6	8	8	2	8	6	2	5	9	78
外科	9	6	14	11	18	19	15	13	32	13	10	13	173
整形外科	32	30	25	31	46	50	48	44	32	31	27	25	421
婦人科	22	16	26	16	22	15	19	19	13	18	14	15	215
小児科	22	26	20	26	26	21	23	21	20	23	21	21	270
泌尿器科	7	3	3	10	12	9	15	11	7	8	5	7	97
眼科	8	6	8	4	5	4	1	2	5	4	5	4	56
心療内科	0	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	6
麻酔科	1	3	0	1	3	0	2	2	0	0	2	1	15
放射線科	41	53	59	49	48	44	69	55	51	53	47	57	624
計	237	237	284	237	294	271	310	291	265	237	213	264	3138

平成23年度 紹介内訳(地域別)

紹介件数

	診察	検査	計
横手市	1748	635	2383
湯沢市・雄勝郡	263	2	265
大仙市・仙北郡	157	14	171
県内	164	0	164
県外	155	0	155
計	2487	651	3138

依頼検査

	CT	MRI	MCV	EEG	UCG	計
横手市	262	345	18	1	9	635
湯沢市・雄勝郡	0	2	0	0	0	2
大仙市・仙北郡	3	11	0	0	0	14
県内	0	0	0	0	0	0
県外	0	0	0	0	0	0
計	265	358	18	1	9	651

<文責 高橋美幸>

## 医師事務支援室

### 概要

平成22年度に業務改善委員会にて、7対1看護配置に向けた業務改善を図るため「外来診療部門における勤務状況調査」を行い、その結果に基づき「病院における勤務医負担軽減計画」策定。計画の一部である医師・医療関係職種及び事務職員等との役割分担を推進することを踏まえ、医師事務作業補助者を増員し効率的な業務運営を実施することが決定された。

これにより平成20年度から、医師事務作業補助者が5名で業務を行っていたところを23年度からは増員を図り12名での対応とし、さらに組織的な運営を行うに当たり医師事務支援室を設置。また、業務を管理・改善するための責任者を配置し、業務の見直しや改善の取り組みを行った。

今後は医師の事務作業の軽減を目標に意見を吸い上げ、事務支援の見直しや改善を行う予定である。

### 構成

室長	藤盛 修成			
室長補佐	浮嶋 優子			
医師事務作業補助者	伊藤 尚子	島田万里子	佐藤 裕香	佐藤ゆかり
	小川由美子	柿崎志穂子	小松田はつみ	加藤 広美
	田中 大輔	藤田ゆかり	三浦由紀子	高橋 美幸

### 業務内容

- 診断書などの文書作成補助
  - ・診断書、入院証明書の記載代行。書類に関する問い合わせ、内容の紹介。
- 診療記録への代行入力
  - ・電子カルテやオーダーリング等の代行入力。
- 医療の質の向上に資する事務作業
  - ・外来患者への検査説明
  - ・外来患者への問診と入力
  - ・入院患者の入院準備・入院説明
- 行政上の対応
  - ・NCD代行入力
  - ・がん登録
  - ・救急医療情報入力

<文責 浮嶋優子>

## 委員会活動



# リスクマネージャー委員会

## 概要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的としている。リスクマネージャー委員会は、医療事故防止を図るための実質的な委員会として、ひやりはっと報告書の評価・分析を行い、具体的対策の検討・実施・評価を行う。

## 委員会の構成員

委員長	吉岡 浩			
委員	和泉千香子	寺田 宏達	斉藤 大成	佐藤セツ子
	佐藤 昌悦	佐々木佳子	木下 文子	藤井 洋子
	高橋千鶴子	高本 和子	木村真貴子	鈴木久美子
	石田 良樹	法華堂 学	高橋 貞広	川越 弦
	平塚多喜雄	天羽 勝義	照井 圭子	菊池 優
	木村恵美子			

## 委員会開催日

平成23年	4月13日	5月10日	6月14日	7月12日	8月9日	9月13日
	10月11日	11月15日	12月13日			
平成24年	1月10日	2月14日	3月13日			

## 主な協議事項

- 4月 ①追加検体の施行忘れ  
②蓄尿忘れ：ワーキンググループにて検討して再度報告
  - 5月 ワーキンググループの検討事例経過報告  
①注射指示の実施間違いについて  
②伝達不足による禁忌薬の処方
  - 6月 ①伝達不足による禁忌薬の処方（ロキソニン禁忌患者にロキソニンを処方した）  
②患者認証誤認より間違った患者に検査施行してしまった事例
  - 7月 ①蓄尿忘れ：ワーキンググループでの検討内容の報告  
②24時間蓄尿の必要な検査の電子カルテ上の入力手順の新設
  - 8月 指示伝達不足による指示変更せず実施直前までに至った事例
  - 9月 インフューザー規格間違いによる過剰投与について
  - 10月 院外処方箋へ禁忌情報の記載を医療安全委員会へ提言する
  - 11月 術後採血指示を術前に行ってしまった事例
  - 12月 麻薬の過剰投与について
  - 1月 FFP自動融解器の購入により運用開始の報告
  - 2月 予防接種の誤接種について、ワーキンググループより報告検討
  - 3月 SBチューブのクランプによる閉塞
- その他
- 1、院内巡回報告
  - 2、院内監査の報告

<文責 木村恵美子>

## 医療事故対策委員会

### 概要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。

大きな医療事故が発生した場合、情報の共有と当面の対応を協議して、病院ならびに患者側・病院職員両者へのダメージコントロールを迅速に行い、社会的損失を最小限に抑えるよう対策を講じる。また、医療事故の分析および再発防止の検討について行い、医療訴訟の対応・紛争解決への対応を行う。

### 構成員

委員長	診療科	丹羽 誠	病院長
	診療科	吉岡 浩	医療安全管理室長
	診療科	藤盛 修成	
	診療科		※主治医
	看護科	木村カズ子	
	事務局	佐藤 正弘	
	医事課	浮嶋 優子	
	医療安全管理室	木村恵美子	医療安全管理者

### 件数

6件：転倒による骨折、健診センターの検査データ記入漏れなど  
書面で報告を行い承認確認をした。

### 対応

- 1、事故発生に対する検証と原因の分析を行った
- 2、受傷早期に整形外科受診後処置をした。
- 3、健診患者へは文章による説明を行い、本年度の健診時期に再検査することで了承を得た。

### 最後に

平成23年度は、幸いにも訴訟等委員会を招集する事例は発生しなかった。

<文責 木村恵美子>

# 医療安全管理委員会

## 目的

医療安全管理委員会は、院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。

目標を達成するために医療安全管理室と連携してリスクマネージャー委員会からの提言を受け委員会を適宜開催する

## 所掌

- (1) 医療事故の防止のための対策の決定
- (2) 医薬品の安全管理に関する対策の決定
- (3) 医療機器に係る安全管理に関する策定の決定
- (4) 安全管理に関するマニュアルの決定

## 委員会の構成

		氏名	備考
診療科	病院長	丹羽 誠	
	副院長	吉岡 浩	医療安全管理室室長
		船岡 正人	
		藤盛 修正	
		江畑公仁男	
薬剤科	科長	石田 良樹	医薬品安全責任者
リハビリテーション科	技師長	小田嶋尚人	
診療放射線科		藤原 理吉	
臨床検査科		佐藤恵美子	
食養科		原田 優子	
看護科	総師長	木村カズ子	
	副総師長	佐藤セツ子	
ME 室	臨床工学士	川越 弦	医療機器安全管理責任者
健康管理センター		柴田 昌洋	書記担当
事務局長		佐藤 正弘	
		木村恵美子	医療安全管理室副室長 医療安全管理責任者

## 委員会開催日

平成23年 5月28日 6月30日 7月27日 8月24日 11月24日

## 協議決定内容

- 1) 平成23年度医療安全委員会規程について

- 2) 手術・検査を予定されている患者の抗凝固薬・抗血小板薬の確認について
- 3) 「説明と同意」確認マニュアルについて
- 4) 血管外漏出に注意が必要な薬剤対処法のマニュアル変更について
- 5) インシデント報告対策検討後の承認決定
  - ① 「診察終了」後の指示変更を行った際に、電子カルテ上にメッセージを表示する
  - ② 24時間蓄養の必要な検査の入力手順の新設。
  - ③ 院外処方箋への禁忌情報の記載を行うことについて

<文責 木村恵美子>

# 院内感染予防対策委員会

## 1. 概要

院内感染対策委員会の目的は、院内感染の積極的な防止、並びに病院から排出される医療廃棄物の適正処理に関して必要な事項を審議することを目的としている。市立横手病院 ICT が実践活動を行い、病院長の諮問機関である院内感染対策委員会へ提言・報告を行っている。

## 2. 構成員

委員長	医師	齋藤 紀先			
委員	医師	丹羽 誠	船岡 正人	和泉千香子	
	事務局	佐藤 正弘	伊藤 建一		
	薬剤師	石田 良樹			
	臨床検査技師	佐々木絹子			
	看護科	木村カズ子	佐藤セツ子	佐藤 昌悦	照井 洋子
		高橋 礼子	下夕村優子	高橋 共子	高橋 佳子
		小田嶋恵美子			
	医療安全管理室	木村恵美子	小川 伸		

## 3. 院内感染対策委員会の開催回数

① 2011年度は、月1回、年間12回の会議を開催した。

## 4. 感染対策に関連した院外の動向

- ① 新型インフルエンザ等感染症の指定がなくなった。
- ② 関東で麻疹の流行が認められた。
- ③ 全国的に手足口病、ヘルパンギーナの流行が認められた。
- ④ 全国チェーン店のファミリーレストランで集団食中毒の発生が報道された。

## 5. 感染対策に関連した市立横手病院の動向や改善点

- ① 吸引カテーテルチューブをシングルユースとした。
- ② 手術用メスを柄の部分まで含めた完全ディスポーザブルとした。
- ③ N95マスクを全部署に設置した。
- ④ 使用頻度の低い部署での舌圧子をディスポーザブルとした。
- ⑤ 使用頻度の高い部署での舌圧子処理を滅菌から高水準消毒での処理に変更した。
- ⑥ ERSMの概念に基づき滅菌物の有効保管期限を1年まで延長した。

<文責 小川 伸>

# 倫理委員会

## 概要

当院における臨床倫理に関する課題について検討し、臨床研究の実施について倫理的妥当性を審議する。外部委員1名を含んでいる。

## 構成員氏名

	役 職	氏 名
委員 長	院 長	丹 羽 誠
副委員 長	副 院 長	藤 盛 修 成
	総看護師長	木 村 カズ子
	リハビリテーション科技師長	小田嶋 尚 人
	薬剤科主任	渡 邊 圭 子
	事務局 長	佐 藤 正 弘
	外部委員・見識を有する者	三 橋 由美子

## 活動記録

平成23年 5月19日

倫理審査申請 1

課題名 慢性肝疾患における非侵襲的弾性検査法を用いた肝線維化評価予測に関する研究

平成24年 3月22日

倫理審査申請 2

課題名 腰部・下肢・上肢痛の治療へのRaczカテーテルの応用

## 主な審議内容

- ・倫理審査申請は、倫理規範に沿ったものとして2件とも承認された。
- ・意識がないなど本人の同意が得られない時で、家族にも連絡が取れない時に侵襲的治療を行う場合、どういう手続きをとればいいのか、倫理的判断を必要とされた場合の対処の仕方をルール化しておく必要があるのではないかという問題が提起された。

<文責 佐藤正弘>

## 栄養管理委員会

栄養管理委員会は、給食関係諸部との連絡を緊密にし、栄養管理業務の円滑な運営と給食の充実・改善・向上を図ることを目的としています。

- 協議事項**
- ①栄養業務の運営に関する事項
  - ②栄養業務の向上に関する事項
  - ③各職域間の円滑な運営に関する事項
  - ④施設・設備の改善に関する事項
  - ⑤その他栄養サービスに関する事項

委員会の構成員は以下に示したとおりであり、平成23年度の主な議題を示しました。

役 職	氏 名	役 職	氏 名
院長	丹羽 誠	薬剤師	小宅 英樹
副院長	船岡 正人	食養科技師長	原田 優子
食養科長	粕谷 孝光	主任	川越 真美
事務局長	佐藤 正弘	主席調理技能士	天羽 勝義
医事課長	浮嶋 優子	嘱託調理師	松井世津子
総師長	木村カズ子	嘱託調理師	佐藤 殉子
2 A病棟師長	木下 文子	嘱託調理師	高橋 麗
3 A病棟師長	藤井 洋子		
3 B病棟師長	高橋千鶴子		
3 C病棟師長	高本 和子		
4 C病棟師長	木村真貴子		

### 平成23年度委員会開催日および主な議題

平成23年 4月27日

- \*平成23年度年間計画書を配布・説明
- \*選択メニュー再開の報告
- \*経管流動食「メイバランス」の容器変更について（震災の影響によるため）

平成23年 7月21日

- \*食札回収について
- \*産婦用おやつの変更について
- \*平成22年度施設基準適時調査における食事関係の指摘事項について
- \*クリパス使用時の食事箋伝票について
- \*災害時の備蓄品について

平成23年10月18日

- \*「加圧式流動食」の採用についての検討（業者来院、スライド説明など）

平成24年 1月18日

- \*「退院患者様用アンケート」の調査結果から問題点抽出、検討

<文責 原田優子>

# NST委員会

## 目的

個々の患者の栄養状態を評価し、最もふさわしい栄養管理を提言することで、個々の患者の治療、回復、退院及び社会復帰に寄与し、もって当院の医療の質の向上を目的とする。

## 構成員

Supervisor	丹羽 誠				
Chairman	粕谷 孝光				
Director	船岡 正人				
Core Staff	江畑公仁男	古関 佳人	木村カズ子	佐々木康子	柴田 瞳
	小田嶋咲子	藤井 洋子	小川千夏子	横井 道子	鳥山十亜良
	佐々木祐美	佐藤由美子	阿部 萌子	奥山かずえ	小田島勝子
	原田 優子	川越 真美	小宅 英樹	佐々木美奈子	百合川深里
	亀谷 良文				

## 役割

1. 適切な栄養評価
2. 栄養管理法の提言
3. 栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見・治療
4. 患者の早期退院・早期社会復帰に努める
5. 栄養管理法に関するコンサルテーション
6. 栄養管理法の啓蒙

## 活動内容

1. 全入院患者に対して栄養評価を行い個人ファイルとして保存する。この中から問題症例を抽出し、個々の症例に最適な栄養療法を立案・提言する。
2. 抽出した症例に対して NST Core Staff による症例検討会及び回診を行い、栄養管理の判定・評価を継続的に行う。
3. 検討会、栄養評価、回診の内容に関しては記録し、保存する。
4. 前記各号に掲げた活動は主治医、NST メンバーからのコンサルテーションにより開始されることがある。更に、このコンサルテーションは24時間体制で行うものとする。
5. 栄養療法に関する情報の収集・提供、各種勉強会や研修会などの開催。
6. その他、栄養療法に関する事柄。

○NST栄養評価、回診、ミーティング（毎週月曜日15：00）

4月4日、11日、18日、25日

5月2日、9日、16日、23日、30日

6月6日、7日、13日、20日、27日

7月4日、11日、25日

8月1日、8日、15日、29日

9月5日、12日、26日

※9月まで毎週月曜日にミーティングを行っていたが、  
10月からNST症例検討会に変更となった

○NST栄養評価、回診（毎週月曜日15：00）

10月3日、17日、24日、31日

11月7日、28日

12月5日、12日、19日、26日

1月5日、6日、11日、16日、23日、30日

2月6日、13日、20日、27日

3月5日、12日、19日、26日

○NST症例検討会（平成23年10月から）

NST 症例検討会	
毎月第2水曜日	17時30分～18時30分
場所	4階会議室
対象患者	1ヶ月間に終了した患者から対象患者を選出

○NST勉強会

第1回 平成23年12月14日

テーマ 「エレンタールによるONS（捕食）の有効性について」

内容：がん患者さんの栄養管理

味の素株式会社：川端正人

第2回 平成24年1月11日

テーマ 「NSTに生かす漢方治療」について

内容：内服困難患者への漢方エキス剤投与  
簡易懸濁法による投与のポイントなど

株式会社ツムラ：佐藤京子

第3回 平成24年3月14日

テーマ 「がんと栄養」について

内容・がん患者ターミナルにおける栄養介入について  
・終末期がん患者の補液・栄養管理について  
・栄養製剤（ラコール）PNIについて

<文責 百合川深里>

## 褥瘡対策委員会

本委員会は、院内の褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図るため、平成14年度より設置された。院内における褥瘡予防体制確立のための活動や、褥瘡発生事例の対策に関する調査や審議を行っている。

### 【構成員氏名】

委員長	医師	加藤 健		
副委員長	医師	武内 郷子		
褥瘡管理者	皮膚・排泄ケア認定看護師	佐藤美夏子		
委員	病棟師長	木下 文子		
	病棟看護師	遠藤ちずる	鈴木 利恵	煙山由紀子
		安藤 宏子	高橋はるみ	
	訪問看護師	佐藤 友紀		
	手術室看護師	岩村 久子		
	透析室看護師	伊藤 優子		
	薬剤師	渡邊 圭子		
	管理栄養士	川越 真美		
	臨床検査技師	工藤真希子		
	理学療法士	高橋 茂実		
	医事課	百合川深里		
	総務課	阿部 光子		
事務局	管材係	菅原 祐司		

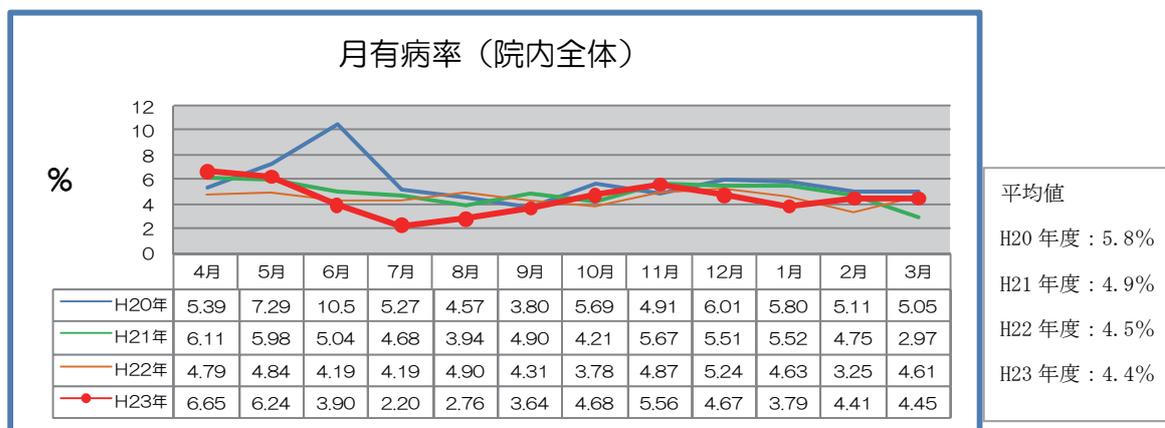
### 【主な活動内容】

- 1) 褥瘡対策委員会開催  
平成23年：4/13、5/11、6/9、7/14、8/11、9/8、10/13、11/10、12/8  
平成24年：1/12、2/9、3/8
- 2) 褥瘡回診（1週間に1回）ならびにハイリスク患者カンファレンスの実施
- 3) 体圧分散寝具等の整備
- 4) 学習会の実施  
新規採用者・プリセプター研修：「創傷ケア・褥瘡ケア実技研修」6/10  
看護科褥瘡対策研修：「オムツの使い方について」6/14. 6/16. 6/29  
看護補助者研修：「褥瘡（床ずれ）のケア～褥瘡予防と体位変換～」10/19  
全職員褥瘡対策研修：「震災時の褥瘡対策・これからの褥瘡対策」12/8

【動向】

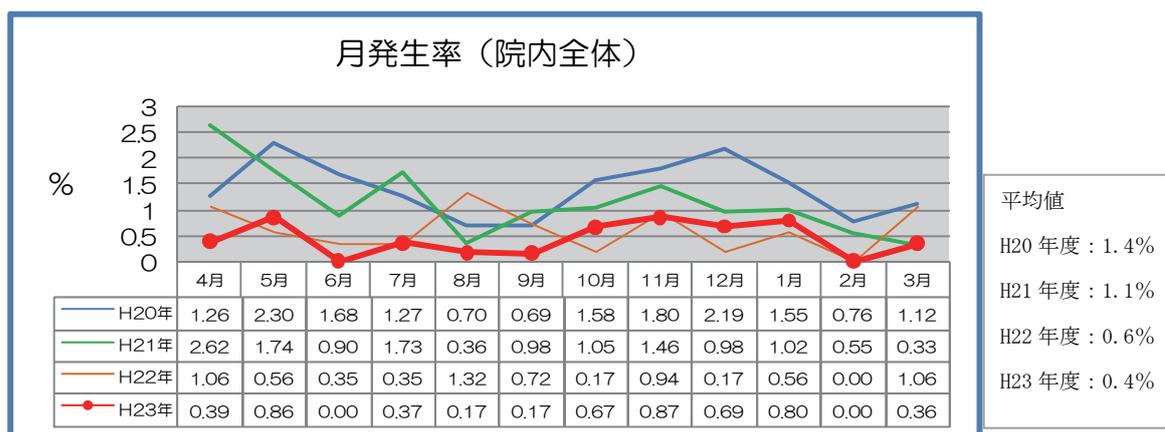
1) 褥瘡有病率の推移

●褥瘡有病率＝調査期間中に褥瘡を保有する患者数÷調査期間の実入院患者数×100



2) 褥瘡発生率の推移

●褥瘡発生率＝調査期間中に褥瘡が発生した患者数÷調査期間の実入院患者数×100



平成23年度は、褥瘡発生率1.0%以下維持を目標に褥瘡対策の推進を図った。院内全体値は1.0%以下となっているが、部署によっては1.0%を超える月がいくつかあった。今後も褥瘡発生予防に重点をおき、褥瘡対策の推進を図っていきたい。

<文責 佐藤美夏子>

## 緩和ケアチーム委員会

### 【設置目的及び経緯】

当院では平成8年からターミナルケア勉強会『虹の会』が有志により行われていたが、当院に  
来られた患者・家族全ての方に当然のこととして高い水準の緩和ケアが提供できるようになるこ  
とを目的として緩和ケア研究会が平成13年に設立された。さらに緩和ケアの保証について病院と  
しての責任を明らかにするため平成14年10月に公的委員会として緩和ケア委員会が認められた。  
その後名称を緩和ケアチーム委員会に変更し現在に至る。

### 【事業検討事項及び事業】

- 1) 症状緩和の方法論の勉強・実践・普及を行いスキルアップを目指す
- 2) 患者・家族のQOL向上のためのあらゆるアプローチ

上記のために ①勉強会及びケースカンファレンス ②緩和ケアチーム(PCT)回診 ③院内勉  
強会 ④緩和ケアマニュアルの整備等を行う。

### 【23年度構成員】

委員長： 丹羽 誠

副委員長：高橋共子

委員： 石田芳樹・佐々木康子・高橋麻理子・佐藤直子・倉田久美子・佐藤秀子・高橋康子・  
鈴木美香・加賀谷優紀・池田弘恵・高橋歌澄・鈴木真紀子・佐々木文子・原田優子・  
鈴木努・石山博幸

事務局： 亀谷良文

### 【委員会開催】

毎月第3火曜日に開催

### 【特記事項】

- ① 緩和ケア回診：毎週月曜日・全病棟オピオイド使用患者及び依頼患者対象
- ② 勉強会の開催：9月15日 オピオイドについての勉強会 参加者33名
- ③ 院外勉強会への参加
  - ・厚労省指針に基づく緩和ケア研修会への参加
  - ・9月9日 県南緩和医療研究会への参加
  - ・秋田県緩和ケア実施研修への参加（外旭川病院ホスピス・仙北組合総合病院）
  - ・3月15日 横手市医師会主催・在宅緩和ケア勉強会の開催 参加者106名
  - ・10月 秋田県緩和ケア研究会での演題発表
  - ・6月18日 「あきた がん ささえ愛」キャンドルナイトへの参加
- ④ 緩和ケアマニュアルの整備
- ⑤ 緩和ケアチーム委員会のポスター作成
- ⑥ 11月6日 病院祭での緩和ケアに関する資料の掲示

<文責 高橋共子>

## 救急センター運営委員会

救急センター運営委員会は、当病院における救急センター運営を討議、検討し、その効率的な推進を図る事を目標に、設置された。(平成14年12月)

本委員会は、救急部門の体制の整備、救急部門の適切な運営の検討を行う。また、当病院の救急部門の地域における役割の明確化、院内救急時の対応マニュアル、救急患者統計についても検討を行っている。

### 救急センター運営委員

委員長	江畑公仁男	
副委員長	藤盛 修成	
委員	小松 明	工藤真希子
	法花堂 学	渡邊 圭子
	木村真貴子	川越 弦
	木村恵美子	和賀美由紀
事務局	木村 宏樹	

### 本年度の活動状況

平成23年 4月14日	救急車統計について検討
平成23年 5月17日	エマージェンシー訓練
平成23年 5月23日	エマージェンシー訓練について検討
平成23年 6月13日	東日本震災における救急診療検討会 (128名参加)
平成23年 9月 7日	救急車統計について検討
平成23年10月19日	救急救命講習会 (19名参加)
平成23年10月28日	救急症例検討会 (83名参加)
平成24年 2月 8日	救急車統計・救急カートについて検討

<文責 木村宏樹>

# 手術室運営委員会

## 概要

- ◎ 手術室業務報告  
(各科月間手術件数・手術時間・麻酔時間・在室時間・手術室スタッフの時間外)
- ◎ 手術室で行っている業務改善報告
- ◎ 外科系医師・麻酔科医師・手術室スタッフ・MEの連携を図る

## <構成メンバー>

委員長	寺田 宏達	手術室室長、麻酔科科長
委員	吉岡 浩	副院長・外科科長・ME室室長
	江畑公仁男	副院長、整形外科科長
	畑澤 淳一	産婦人科科長
	伊藤 卓雄	泌尿器科科長
	木村カズ子	総看護師長
	石橋由紀子	手術室主任
	川越 弦	ME室主査
事務局	佐藤 昌悦	手術室師長

## <H23年度議題内容>

- \*麻酔医 柴田医師(秋大生理学)4月より毎週(木)麻酔維持管理にて来院。
- \*体位固定の際には、ソフトナース(保護シート)を使用しております。
- \*閉鎖式のシリコンフォーレに変更(コスト↓)
- \*手術室内でも節電対策施行(節電区域設置・点灯制限)
- \*メスのディスプレイ化へ
- \*術前の輸液ラインの確保不要(全科に於いて)

手術室運営委員会の中での決定事項、(閉鎖式シリコンフォーレの導入)が病院全体に広がった事はまさに「安心・安全で良質な医療の提供」の第1歩と確信している。

<文責 佐藤昌悦>

## 糖尿病委員会

### 【委員会活動概要】

急増する糖尿病患者様に、糖尿病委員会は病院および地域へ啓蒙活動の推進役として取り組んでいる。

平成23年度は、糖尿病教室の定期開催、委員会メンバーの糖尿病に関する知識の底上げと地域連携に重点を置き、秋田県糖尿病療養指導士が2名誕生。

院外の研修会参加で専門的な糖尿病の知識習得。県南地域での糖尿病治療に関わる医師やスタッフと交流が持てたことが23年度の大きな収穫であった。

また、恒例の糖尿病習慣行事は病院祭と協賛し院外講師を招いて公演を開催した。

### 【構成メンバー】

委員長	奥山 厚				
副委員長	照井 洋子	和賀美由紀			
食養科	原田 優子	川越 真美			
薬剤科	佐々木洋子				
リハビリ科	小田嶋尚人				
健康管理センター	鈴木久美子				
看護科	小田嶋明子	高橋 智美	黒沢真知子	熊澤あゆみ	高橋加美子
	高橋 亮子	高橋正 子			
総務課	佐藤 俊幸				

### 【活動報告】

委員会開催 6回

糖尿病教室開催 10回（6月～4月）

講義担当者：小田嶋医師 管理栄養士 薬剤師 保健師 理学療法士

〈かまくらの会：糖尿病患者会〉

日本糖尿病協会秋田県支部理事会出席（照井）

〈糖尿病週間行事：委員会主催〉

10月13日 病院祭協賛し各コーナーでのDM指導相談、試食。

講師に「笑う会」の秋田市在住、鈴木医師の公演会。

委員会スタッフ・看護科スタッフは会場運営。

一般来院者が多数訪れ、コーナーと公演会は好評のうち終了。

〈研修会運営〉

糖尿病看護ネットワーク世話人会出席（照井）

糖尿病・看護・療養指導を考える試行錯誤の会参加要請（年3回）

<文責 照井洋子>

## 輸血療法委員会

委員長	畑澤 淳一	診療科 (輸血業務責任医師)
	吉岡 浩	副院長・診療科
	船岡 正人	副院長・診療科
	寺田 宏達	診療科
事務局	小宅 英樹	薬剤科
	佐藤恵美子	臨床検査科
	佐々木美奈子	臨床検査科
	木下 文子	看護科・病棟師長
	石橋由紀子	看護科・手術室看護師
	阿部 光子	総務課
	百合川美里	医事課
	木村恵美子	医療安全委員会

### 輸血療法委員会設置の目的

当院における輸血関連業務の安全性の確保および適正使用のための輸血療法委員会が設置されている

#### 第1回

平成22年度使用状況、輸血料算定、輸血委員会収益報告。委員会規定見直し、血液製剤の破損についての検討。異型輸血実施マニュアルの検討。当院で行われた異型輸血の報告。輸血後感染症検査推奨の用紙について、FFP 解凍装置の導入・運用についてを検討。

#### 第2回

平成23年度4・5月使用状況・輸血料算定報告。FFP 解凍装置の購入検討。輸血実施予定日の変更時についての検討。

#### 第3回

血液製剤使用状況報告（血液製剤破損状況含む）。FFP 解凍装置の運用報告。血液製剤の時間外の出庫手順を検討。

#### 第4回 (臨時開催)

FFP 解凍装置の運用・院内伝達について

#### 第5回

血液製剤の使用・廃棄状況報告。感染症検査実施状況報告。平成23年度上半期収益報告。FFP 自動融解機導入後の運用状況報告。血液製剤オーダー時の在庫確認方法についての検討。血液センター遡及調査報告（血液センター職員より）。

#### 第6回

血液製剤使用状況・廃棄状況報告。輸血前・後感染症検査の実施報告。夜間の血液製剤の出庫について検討

#### 第7回

血液製剤使用状況・廃棄状況報告。輸血前・後感染症検査の実施報告。FFP 自動融解機導入後の

運用状況報告

院内での Rh 式血液型-D-の輸血報告。

平成23年度使用状況

		H23(2011)										H24(2012)				合計	平均
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
実施 単位 数	製剤名																
	照射赤血球濃厚液 LR140ml	12	12	12	12	17	11	16	6	10	14	8	11	141	11.8		
	照射赤血球濃厚液 LR280ml	142	102	140	130	134	138	86	168	168	140	154	178	1680	140.0		
	自己血輸血	30	21	18	18	28	43	20	20	38	25	20	14	295	24.6		
	合計 (M)	184	135	170	160	179	192	122	194	216	179	182	203	2116	176.3		
	照射濃厚血小板「日赤」 200ml	100	30	10	50	70	40	50	20	40	70	180	130	790	65.8		
	照射濃厚血小板「日赤」 250ml	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	15	15	45	3.8		
	新鮮凍結血漿 450ml	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	15	20	1.7		
	新鮮凍結血漿-LR 120ml	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0.5		
	新鮮凍結血漿-LR 240ml	36	6	8	16	12	6	26	82	10	32	40	64	338	28.2		
	合計 (F)	36	6	8	21	12	6	26	88	10	32	40	79	364	30.3		
	アルブミン 5%250ml	総数	1	1	1	18	23	7	2	14	0	17	5	24	113	9.4	
単位数		4.2	4.2	4.2	75.0	95.8	29.2	8.3	58.3	0.0	70.8	20.8	100.0	470.8	39.2		
アルブミン 20%50ml	総数	136	104	66	82	67	63	87	167	111	47	167	99	1196.0	99.7		
	単位数	453.3	346.7	220.0	273.3	223.3	210.0	290.0	556.7	370.0	156.7	556.7	330.0	3986.7	332.2		
合計 (A)		457.5	350.8	224.2	348.3	319.2	239.2	298.3	615.0	370.0	227.5	577.5	430.0	4457.5	371.5		
A/M比 (2.0未満)		2.49	2.60	1.32	2.18	1.78	1.25	2.45	3.17	1.71	1.27	3.17	2.12	25.50	2.13		
F/M比 (0.25未満)		0.20	0.04	0.05	0.13	0.07	0.03	0.21	0.45	0.05	0.18	0.22	0.39	2.02	0.17		
自己血 FFP		12	6	4	8	4	7	4	4	6	12	12	0	79	6.6		
自己血 フィブリン糊		12	6	4	8	4	7	4	4	6	12	12	0	79	6.6		
交差試験本数(C)		88	69	101	89	89	83	67	97	94	93	99	104	1073	89.4		
輸血実施本数 (T)		83	63	82	77	84	80	55	94	94	84	85	99	980	81.7		
C/T 比		1.06	1.10	1.23	1.16	1.06	1.04	1.22	1.03	1.00	1.11	1.16	1.05	13.21	1.10		
廃棄 単位 数	自己血輸血 300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	自己血輸血 330	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	自己血輸血 400	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0.3		
	新鮮凍結血漿 450ml	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0.4		
	照射赤血球濃厚液 LR140ml	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0.5		
	照射赤血球濃厚液 LR280ml	12	16	0	10	8	2	8	0	2	4	12	2	76	6.3		
	新鮮凍結血漿-LR 120ml	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	新鮮凍結血漿-LR 240ml	0	0	32	4	0	0	8	0	0	0	0	2	46	3.8		
	照射濃厚血小板「日赤」 200ml	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	10	0.8		

平成23年度 診療科別血液製剤使用状況

診療科	製剤名	本年度使用本数
外科	I r -RCC-LR-1	85
	I r -RCC-LR-2	184
	I r -PC-10	23
	I r -PC-15	3
	I r -PC-20	11
	FFP-5	0
	FFP-LR-1	3
	FFP-LR-2	100
	自己血	2
産婦人科	I r -RCC-LR-1	16
	I r -RCC-LR-2	38
	I r -PC-10	3
	I r -PC-15	0
	I r -PC-20	0
	FFP-5	2
	FFP-LR-1	2
	FFP-LR-2	22
	自己血	74
整形外科	I r -RCC-LR-1	8
	I r -RCC-LR-2	40
	自己血	63
内科	I r -RCC-LR-1	209
	I r -RCC-LR-2	380
	I r -PC-10	35
	I r -PC-15	5
	I r -PC-20	9
	FFP-5	0
	FFP-LR-1	0
	FFP-LR-2	21
泌尿器科	I r -RCC-LR-1	10
	I r -RCC-LR-2	22
	I r -PC-10	0
	I r -PC-20	1
	FFP-5	0
	FFP-LR-1	0
	FFP-LR-2	3
	自己血	11

<文責 小宅英樹>

# 臨床検査適正化委員会

## 概要

当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行なうことを目的とし、平成12年度に設けられた委員会である。年数回開催するものとし、検討事項は以下の通りである。

1. 精度管理に関すること
2. 検査項目に関すること
3. 検査の実施状況に関すること
4. 外部委託に関すること
5. 研究検査に関すること
6. その他臨床検査全般の運用に関する事項

## 構成員

- 委員長 丹羽 誠 (医院長)  
委員 船岡 正人 (副医院長)  
藤盛 修成 (副医院長)  
畑澤 淳一 (検査科科长)  
加藤 健 (外科科長)  
浮嶋 優子 (医事課長)  
木村カズ子 (総看護師長)  
佐藤恵美子 (検査科技師長)  
長瀬 智子 (内部精度管理責任者)

## 委員会開催日及び検討事項

平成23年6月22日 (水)

1. 平成22年度日本医師会コントロールサーベイ結果報告
2. 平成23年度外部委託契約について  
今年度も継続でSRL・BCL・(財)秋田県総合保険事業団とすることに決定。
3. 災害時における検査科の対応について  
3/11・4/7の地震発生時は、血ガスのみで対応した。今後も同様の対応に決定。  
心電図は充電機能により2時間対応可能である。  
藤盛先生より；停電時は血ガスのみで問題なかった。  
丹羽先生より；検査分析器稼働までの時間について、検査科よりアナウンスがほしい。  
丹羽先生より；検査科からの要望等は検査科科长を通じ医局に伝達されている。コミュニケーションを取り業務に取り組むようにしてください。

平成24年2月2日 (木)

1. 平成23年度日臨技コントロールサーベイ結果報告
2. 平成24年外部委託契約について  
検体検査→SRL、病理検査→契約先BCL、業務AKH クオンティフェロン→秋田県総合保

険事業団に継続契約で決定。

3. その他

- ① 佐藤技師長よりトロップT定量化にていて；1月16日（月）より定量法に変更済み。医局には事前に報告済み。
- ② 佐藤技師長より；4月の保険点数改定について質問  
浮嶋医事課長より；各項目は下がるが判断料は上がる傾向にある。まだ詳細ははっきりしていない。3月末に勉強会を開催予定。

<文責 長瀬智子>

## 図書委員会

### [目的]

図書室は病院の理念及び方針に基づき、運営・診療・教育及び研究活動に必要な環境を整備し、その運用によって医療の維持、向上を図ることを目的としている。

### [スタッフ]

委員長	泉 純一（診療科）平成23年4月～
副委員長	谷口 明美（総務課）平成14年9月～
書記	谷口 明美
委員	島田万里子（医師事務支援室）平成19年4月～
委員	阿部千鶴子（総務課）平成20年1月～

### [図書室概要]

面積・・・48.05㎡

座席数・・・4席

設備・機器・・・コピー&Fax機（1台）、コンピューター（2台・1台インターネットに接続・1台院内LANに接続）、プリンター 1台

書架・・・移動式書架

閲覧時間・24時間閲覧可能

所蔵資料・単行書（約900冊）、製本雑誌（約2100冊）、CD-ROM（4枚）  
・和雑誌（58誌）、洋雑誌（20誌）、学会誌（3誌）

配架・・・単行書（NLMC分類順）

・和雑誌（あいうえお順）・洋雑誌（アルファベット順）  
・患者図書（大分類・中分類・小分類順）

サービス・文献データベース；医学中央雑誌Web版

・相互貸借依頼先；秋田大学附属図書館医学部分館・上尾中央総合病院図書室  
国立国会図書館・日本医師会（個人申込み）  
・個人医学図書の購入・支払い・製本と取次ぎ

### [活動]

・委員会開催日；6/21・1/24・3/21の3回

・図書購入予算の確定と管理

年度始めに各科に予算配分をし、各科月毎に購入収支簿を作成後、院内LANで月1回全職員に伝達。

・購入図書の受入れと配架作業；毎月受入れ図書のリスト作成と所定位置への配架。  
院内LANで月1回新着図書の情報提供。

・製本作業

・蔵書点検作業

### [統計]

- ・相互貸借依頼数（文献複写依頼数）

秋田大学附属図書館医学部分館 10件

上尾中央総合病院図書室 8件

日本医師会図書館 38件

- ・医中誌アクセス回数 4256回・検索回数 972回・ログイン回数 301回

同時アクセスオーバー数 38回

### 患者図書サービス

#### [目的]

入院患者さん及び付添いの方々の不安やストレスを少しでも癒していただき、闘病生活の支えや回復への意欲につながることを目的としている。

[概要] 所蔵図書（1297冊）、備品・・・ブックトラック、固定書架（図書室内）

#### [活動]

各病棟ダイルームに蔵書一覧ファイルを設置し、Faxでの貸出しサービスを行っている。。今は主として娯楽書主体の貸出しサービスである。ただ医療現場でのインフォームドコンセントの重要性が増す中、自ら病気や治療について情報を得て学べる一般向けの医学情報誌を提供することを視野におき、患者さんの要望に応じていきたい。

#### [統計]

<患者図書貸出し数>（平成23年4月～平成24年3月）

病棟	貸出数	利用人数	月平均貸出数	月平均利用者数
2 A病棟	54 冊	19 人	4.50 冊	1.58 人
3 A病棟	73 冊	23 人	6.08 冊	1.92
3 B病棟	62 冊	25 人	5.17 冊	2.08
3 C病棟	56 冊	16 人	4.67 冊	1.33
4 C病棟	312 冊	84 人	26.00 冊	7.00
合計	557 冊	167 人		
月平均	46.42 冊	13.92 人		

<文責 谷口明美>

# 臨床研修管理委員会

## 概 要

医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を当院と協力病院及び協力施設で実施するために設置された委員会である。

当院の研修プログラムは内科系重視の内科コース、外科系重視の外科・整形外科コースがあり、それぞれ募集定員2名となっている。

研修プログラムの中の『精神科研修』では、横手興生病院・市立角館総合病院に、『地域保健・医療研修』では、横手保健所・市立大森病院・秋田県赤十字血液センターに協力をいただいている。

また、本荘第一病院・秋田大学医学部附属病院・市立角館総合病院・由利組合総合病院の研修プログラムの協力型臨床研修病院となっている。

## 構成員氏名

委員長	船岡 正人（研修実施責任者）
副委員長	吉岡 浩、藤盛 修成、齋藤 紀先（内科コースプログラム責任者）、 加藤 健（外科・整形外科コースプログラム責任者）
委員	小松 明、畑澤 淳一、根本 敏史、和泉千香子、塩屋 齊、 奥山 厚、武内 郷子、粕谷 孝光、佐藤 正弘、 伊藤 善信（横手保健所長）、 杉田多喜男（横手興生病院長）、 西成 忍（西成医院長、横手市医師会長）、 小野 剛（市立大森病院長）、 佐々木道基（市立角館総合病院精神科長）、 面川 進（秋田県赤十字血液センター）
オブザーバー	長山正四郎、丹羽 誠
事務局	藤木 正文

## 委員会開催年月日及び案件

### ○管理委員会

平成24年3月5日

案件 平成23年度マッチング結果について  
平成24年度研修日程について  
平成24年臨床研修病院合同説明会日程について  
平成24年3月修了予定者の研修評価について

### ○評価・プログラム委員会

平成23年5月11日

案件 平成24年度研修プログラムについて  
平成23年8月29日

案件 平成24年度初期研修医採用面接結果について  
平成24年度初期研修医マッチングについて  
平成23年9月30日

案件 平成23年度マッチング順位付けについて  
平成23年度マッチング中間公表結果について  
平成24年2月20日

案件 2年次研修医の研修評価について  
平成24年度臨床研修日程について

○研修医会議（指導医と研修医との意見交換等）

平成23年4月7日、5月11日、6月2日、7月7日、8月4日、  
9月1日、10月6日、11月10日、12月1日、  
平成24年1月5日、2月8日、3月1日

○平成23年度 臨床研修医

2年次 Aコース 本郷 修平、斎藤 大成  
本荘第一病院からの研修医 瀬尾 東伸

○マッチング日程

平成23年6月23日 参加登録開始  
8月11日 参加登録締切  
9月15日 希望順位登録受付開始  
9月29日 希望順位登録中間公表前締切  
9月30日 中間公表  
10月13日 希望順位登録最終締切  
10月27日 組み合わせ結果発表

○平成24年度採用臨床研修医

内科コース 定員2名 渡邊 健太  
外科・整形外科コース 定員2名 採用なし

○病院説明会参加状況

平成23年6月18日	医学生合同説明会及び意見交換会	(秋田市 県協議会主催)
平成23年7月17日	民間主催の合同説明会	(東京都 県協議会企画)
平成24年2月10日	秋田県臨床研修病院合同説明会	(秋田市 県協議会主催)
平成24年3月17日	岩手県臨床研修病院合同説明会	(盛岡市 岩手県主催)
平成24年3月20日	東北ブロック臨床研修病院合同説明会	(仙台市 東北厚生局主催)
平成24年3月25日	民間主催の合同説明会	(東京都 県協議会企画)

<文責 黒澤雄悦>

## 治験委員会

### 構成員氏名

委員長 吉岡 浩  
委員 船岡 正人 佐藤 正弘 石田 良樹  
外部委員 三橋由美子  
事務局 渡邊 圭子

本委員会は当院で実施される臨床試験について、その目的および手順ならびに倫理の面から当該臨床試験を実施することの妥当性を検討するために設置されている。新GCP基準における条件を満たすために外部委員1名を加えている。

### 委員会開催日及び検討事項

平成24年2月17日

案件1. 『セレニカR錠 セレニカR顆粒特定使用成績調査』

案件2. 『テラビック錠使用成績調査』

以上案件1. から2. まで承認された。

検討事項として丸山ワクチンについて協議し、当院での使用実態を把握するために使用開始時に治験委員回への届出、施行は電子カルテ上へオーダー入力する、書類等は電子カルテへ取り込みする、この3点について医局へご協力のお願いをすることとした。

<文責 渡邊圭子>

## 医療情報管理委員会

電子カルテシステム稼働3年目を迎え、関連する医療情報システムの円滑かつ安全な運用や院内情報システムの総合的運用について協議。

### 構成員

委員長 藤盛 修成  
副委員長 小松 明  
委員 木村カズ子 佐藤セツ子 藤原 理吉 佐藤恵美子  
佐藤 正弘 浮嶋 優子 木村 宏樹 柿崎 正行

### 活動報告

平成23年5月30日（月）

- ① 病診連携システム（SSI-Web）の運用について
- ② 末管理ソフト（Sky Sea ClientView）の導入について
- ③ 院内電子カルテ端末のリプレイスについて

平成23年7月13日（水）

- ① 電子カルテシステム端末リプレイス事業者決定について
- ② USBメモリ等の取扱規定について
- ③ 端末管理ソフト（Sky Sea ClientView）の導入について

平成23年12月7日（水）

- ① 医療情報システム関連予算要求（医療情報管理室要求分）について
- ② サーバメンテナンスについて

今年度より、翌年度の医療情報システム関連予算要求内容について、委員会内での協議を行なうことにより、円滑な予算査定に寄与するよう努めた。

<文責 柿崎正行>

# 電子カルテ委員会

## (目的)

この規程は、電子カルテ及び診療情報の適切な管理について討議・検討し、診療の質の向上を図ることを目的とする。

## (業務)

1. 委員会は次の各号における事項について審議する。
  - ・電子カルテ内の情報の真正性、見読性、保存性の確認に関すること。
  - ・オーダーリングシステムの内容の検討に関すること。
  - ・紙カルテ、フィルム、検査データの保存に関すること。
  - ・その他カルテについての重要事項に関すること。
2. 委員会は前項の審議結果を速やかに院長へ報告するものとする。

## 構成員氏名

委員長	藤盛 修成			
副委員長	加藤 健			
委員	和泉千香子	佐藤セツ子	藤井 洋子	照井 洋子
	赤川恵理子	高橋 共子	佐々木 薫	木村恵美子
	下夕村優子	小田嶋恵美子	草薙美保子	佐々木佳子
	高橋まゆみ	高本 和子	小宅 英樹	浮嶋 優子
	柿崎 正行	照井 圭子	木村 宏樹	佐藤 恵

## 活動報告（検討内容）

平成23年4月13日

- ・看護情報の入力方法について
- ・チームカルテの使用について
- ・オーダー入力権限変更について 他

平成23年8月18日

- ・カルテ記載内容について
- ・チームカルテ運用について
- ・他院医師のカルテ記載について 他

平成23年12月5日

- ・院外処方箋への禁忌情報記載について
- ・オーダー状況画面変更について 他

<文責 木村宏樹>

## D P C 委員会

今年度は、厚労省へのデータ提出、来年度の機能評価係数の対策、データ分析を中心に活動を行った。

データ分析の結果を踏まえ、在院日数短縮に向けて各診療科との症例検討などを行い、次年度への対策を検討した。

今後も、他院とのベンチマークや更に詳細なデータ分析が必要になってくると思われるので委員会で取り組んでいきたい。

### 構成員

委員長	畑澤 淳一				
副委員長	藤盛 修成				
〃	加藤 健				
委員	丹羽 誠	塩屋 斉	佐藤セツ子	藤井 洋子	
	小宅 英樹	郡山 邦夫	浮嶋 優子	佐藤恵美子	
	柿崎 正行	照井 圭子	木村 宏樹	佐藤 恵	

### 活動報告

平成23年12月21日

- ・D P C 症例分析について
- ・コーディングについて 他

平成24年3月26日

- ・平成24年度機能評価係数について
- ・コーディングについて 他

<文責 木村宏樹>

## 地域交流推進委員会

当委員会は平成21年度より、地域住民の健康に関する意識向上と良質な医療を地域住民に提供し、当院に対する理解向上を目的とした地域交流委員会を設置されました。

所期の目的の達成のため、「市立横手病院出前健康講座」を行うこととしており、対象は地域の公民館、いきいきサロン等で、主催者より講演依頼があった場合、当院の職員が地域に出向き、健康や病気の治療・予防に関する内容の講演を行うものとしております。

講座も3年目となり、講演内容の充実に努め、23年度からは診療放射線科からの2講座を新たに加え、28講座を準備して地域住民の方たちに理解しやすい内容となるように努めております。以下、23年度の実施状況は下記のとおりとなっております。

### 委員会名簿

委員長 吉岡 浩（医局）  
 委員 船岡 正人（医局） 木村カズ子（看護科） 石田 良樹（薬剤科）  
 原田 優子（食養科） 小田嶋尚人（リハビリテーション科）  
 藤原 理吉（診療放射線科） 柴田 昌洋（健康管理センター）  
 佐藤 正弘（総務課） 高橋 功（医事課）

### 委員会開催状況

23. 4. 11（月）

- 案件 ・22年度出前健康講座実施状況について  
 ・23年度出前健康講座メニューについて（診療放射線科分 追加）  
 ・地域交流推進委員会の委員について（診療放射線科より選出）  
 ・23年度上半期の分担について  
 ・その他（携帯スクリーンの購入等）

23. 9. 14（水）

- 案件 ・23年度上半期（8月まで）の実施状況について  
 ・23年度上半期（8月まで）の要望及び対応について  
 ・23年度下半期の分担について  
 ・その他（HP、広報紙でのPRの実施等）

### 講演実施状況

月日	地区・事業所名	場所	講座名	講師	参加者
4/13（水）	朝日ヶ丘	朝日ヶ丘児童センター	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	37名
6/8（水）	寺村	寺村会館	脳卒中のリハビリテーションについて	理学療法師 高橋 貞広	26名
6/13（月）	塚堀	塚堀担い手センター	家庭で出来る感染予防	認定看護師 小川 伸	20名
7/3（日）	八王寺三区	八王寺会館	感染性胃腸炎について	認定看護師 小川 伸	30名
7/11（月）	悪戸	悪戸構造改善センター	あなたの身体にあった量の食事を摂取していますか	管理栄養士 川越 真美	19名

7/12 (火)	上境	悠遊館	薬の正しい使い方	薬剤師 石田 良樹	30名
7/19 (火)	立館石	立館石会館	正しい傷の手当てについて	認定看護師 佐藤美夏子	24名
8/3 (水)	八丁地区	松林会館	糖尿病の運動療法	理学療法士 小田嶋尚人	29名
8/17 (水)	中村	中村会館	放射線の健康への影響	放射線技師 藤原 理吉	16名
9/21 (水)	安田原下町	安田原下町町内会館	薬の正しい使い方	薬剤師 石田 良樹	15名
9/27 (火)	下根田	下根田構造改善センター	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	13名
10/3 (月)	南町二区	南町町内会館	放射線の健康への影響	放射線技師 藤原 理吉	30名
10/12 (水)	山内地区	山内生涯学習センター	小児への薬の飲ませ方、使い方	薬剤師 渡邊 圭子	25名
10/19 (水)	境町地区	境町公民館	小児への薬の飲ませ方、使い方	薬剤師 渡邊 圭子	5名
10/27 (月)	旭地区	旭公民館	自分でできる尿失禁の予防	認定看護師 佐藤美夏子	5名
11/24 (木)	十二牲	十二牲会館	誤嚥つてなかに	作業療法士 高橋 洋	13名
11/28 (月)	根田川	根田川集落センター	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	18名
12/6 (火)	三本柳	三本柳町内会館	脳卒中発症後のリハビリ	理学療法士 高橋 貞広	14名
12/7 (水)	金沢地区	金沢公民館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	31名
12/19 (月)	湯沢市	フコク生命湯沢営業所	女性のためのがんセミナー	保健師 鈴木久美子	18名
12/22 (木)	余目	余目会館	インフルエンザについて	認定看護師 小川 伸	9名
1/17 (火)	寺内	寺内会館	あなたの身体にあった量の食事を摂取していますか	管理栄養士 川越 真美	26名
1/27 (金)	睦	杉目会館	放射線の健康への影響	放射線技師 郡山 邦夫	19名
2/16 (木)	荒町・川目	荒町会館	正しい傷の手当てについて	認定看護師 佐藤美夏子	17名
2/28 (火)	三貫堰	三貫堰会館	糖尿病の運動療法	理学療法士 小田嶋尚人	16名
3/14 (水)	田町	田町会館	肥満と胃腸の病気について	医師 藤盛 修成	20名
3/21 (水)	寺内	寺内会館	放射線科検査の説明	放射線技師 法花堂 学	20名
3/26 (月)	野脇	野脇部落会館	薬の正しい使い方	薬剤師 石田 良樹	16名

28ヶ所（いきいきサロン22ヶ所、町内会1ヶ所、公民館4ヶ所、事業所1ヶ所）延べ561名（22年度 17ヶ所 319名）の地域住民の方々に講演を行うことが出来ました。また、小型スクリーンを購入して各会場での講演でのペーパーレス化を行なっております。

今後への改善点としては、①上半期の実施が少なく、これは各団体との調整の遅れが原因であり、速やかな対応で年間を通じての平均的な実施を図ること ②当面、旧横手市の区域での実施としてきたが、横手市全体を視野に入れた実施の検討を引き続き行なうこと（今年度は山内地区で実施）③講座の充実に向け、臨床検査科からも講演を行なえるよう検討することが挙げられており、次年度への課題としております。

<文責 高橋 功>

# 薬事委員会

## ◆概要

薬事委員会は院内の薬剤に関する適正な管理、薬剤業務の改善向上、安全性の確保並びに薬事業務の効率的な運営を図ることを目的とする。検討事項は下記の項目とする。

- ① 院内の薬品管理に関する事項の審議（新規採用医薬品・限定採用医薬品の審議、採用後の使用状況の確認、医薬品の適正使用、その他）
- ② 医療安全や経営面の観点から定期的に採用医薬品を見直す(同種同効品目の比較検討、削減)
- ③ 委員からの提案された事項についての審議
- ④ 副作用事例の収集・報告・伝達・対策

## ◆構成員

	委 員	氏 名
委員長	副院長	藤盛 修成
	副院長	吉岡 浩
	副院長	船岡 正人
	副院長	江畑公仁男
	診療部長	畑澤 淳一
	診療部長	小松 明
	循環器科科長	根本 敏史
	循環器科科長	和泉千香子
	消化器科科長	奥山 厚
	泌尿器科科長	伊藤 卓雄
	外科科長	加藤 健
	外科科長	粕谷 孝光
	産婦人科科長	佐々木満枝
	呼吸器科・アレルギー科科長	齋藤 紀先
	内科科長	塩屋 斉
	消化器科科長	武内 郷子
	放射線科科長	泉 純一
	麻酔科科長	寺田 宏達
	整形外科科長	富岡 立
	薬剤科長	石田 良樹
	看護科主任	高橋 礼子
	医事課長補佐	照井 圭子
	総務課長補佐	阿部 光子
オブザーバー	院長	丹羽 誠

## ◆委員会開催日及び検討事項

	開催日	検討事項
第1回	H23年5月18日	※新規採用申請医薬品・限定採用医薬品について ※ジェネリック薬品の医局アンケートの結果報告と採用検討 2品目を導入（ネラミンマルチV注、ウレミン注） ※医薬品破損状況の報告(年度比較)
第2回	H23年7月20日	※新規採用申請医薬品・限定採用医薬品について ※ジェネリック薬品採用検討、3品目を導入

		(セプトン注、デリアリバン注 200mg・500mg) ※同種同効品の見直し(降圧剤 3 品目中止) ※製品の切り替え(タキテル注 20mg→ワンタキテル注 20mg へ) ※製品の切り替え(キシロイン注シリンジ→塩酸ヒパカイン注シリンジへ) ※製品の切り替え(5%糖注シリンジ→生食注シリンジ・ルアロック) 透析 ※5-FU 注の大容量製品の導入検討
第 3 回	H23 年 9 月 21 日	※新規採用申請医薬品・限定採用医薬品について ※ジェネリック薬品採用検討、1 品目を導入(ジエムサール 200mg) ※院内約束処方の一部変更(ナバ→アセトアミノフェン細粒 50%) ※採用品目の見直し、3 品目中止 (マジコン配合シロップ、ヒオチン DS、ヘルサンチン L)
第 4 回	H23 年 11 月 16 日	※新規採用申請医薬品・限定採用医薬品について ※ジェネリック薬品採用検討、2 品目を導入(ラジカット注、ジエムサール 1g) ※販売中止品への対応の検討(イントラファット注)
第 5 回	H24 年 1 月 18 日	※新規採用申請医薬品・限定採用医薬品について ※ジェネリック薬品採用検討、2 品目を導入(オマラール注、カスター注) ※製品切替えについて(リビテイル Cap100→80mg 錠) ※販売中止品への対応の検討 (ノボリン 50R 注フレックスポン、イレット R 注、イレット N 注)
第 6 回	H24 年 3 月 21 日	※新規採用申請医薬品・限定採用医薬品について ※ジェネリック薬品採用検討、4 品目を導入 (ヘルジピン注 2mg・10mg、オムニパーク 300 注シリンジ 100ml・150ml) ※同種同効品の見直し(降圧剤 2 品目中止) ※採用品目の見直し(ルネロン注、ヒルトン注 1mg 中止)

◆平成23年度採用品目の動向

新規採用医薬品	20品目
限定採用医薬品	109品目 (延べ数)
使用中止医薬品	51品目
ジェネリック医薬品への切替え	注射薬 13品目 内服薬 2品目 外用薬 1品目

◆まとめ

ジェネリック薬品については医局アンケートなどを行うことで、診療科の先生方のご意見も参考にさせていただき、各方面の皆様のご理解とご協力をいただきながら更に導入を進める事ができました。後発品採用比率は10.4%となり、今年度目標としていたラインはある程度達成できたのではないかと思います。来年度は内服薬・外用薬の導入についても取り組む方針ですが、注射薬とは異なり患者さんが直接受け取る薬剤が変更される機会がかなり多くなる事が予想されます。安全に切り替えができるように患者さんに対しても十分な説明を行うとともに、各方面の問題点を見極めながら、慎重に検討していきたいと思っております。

医薬品破損金額については昨年度と比較してかなり減少し、好ましい傾向がみられました。今後の課題としては、破損発生の原因・背景も照会し、対策を検討できる部分は考えていく事も必要と思われました。

〈文責 佐々木洋子〉

# 衛生委員会

## 概要

病院事業職員の健康保持及び増進を図るため、また安全衛生管理を推進するために、平成13年度から設置されている。

## 構成員

委員長	船岡正人
副委員長	藤原理吉（診療放射線科）
委員	丹羽 誠（院長） 粕谷孝光（産業医） 佐藤正弘（事務局） 木村カズ子（看護科） 鈴木久美子（健康管理センター） 小川 伸（感染対策室）
委員（労働組合推薦）	熊谷 剛（リハビリテーション科） 末次エリカ（看護科） 加賀谷優紀（看護科） 高橋茂実（リハビリテーション科） 佐藤裕基（診療放射線科）
書記	亀谷良文（総務課）

## 委員会開催日時及び検討事項等

【開催日時】 毎月最終木曜17:00～17:30

### 【検討事項等】

- 4/28 メンタルヘルスチェックの検討、禁煙外来の実施計画について、勤務体制等について（年休取得状況を調査）検討。
- 5/26 メンタルヘルスチェックの実施内容を検討、禁煙外来の実施計画について、当委員会の業務内容等（年間スケジュール）検討。
- 6/30 メンタルヘルスチェックの報告、クイクセルバッチの回収等について、衛生委員会の年間計画について
- 7/27 禁煙外来及び育児休暇者等の人員確保について、メンタルヘルスチェックの経過状況について
- 8/24 被ばく線量について、採用時の抗体価検査について、禁煙外来のマニュアルの完成についての報告。
- 9/29 メンタルヘルスチェックの結果を報告。健康診断の実施計画について
- 10/27 被ばく線量の半年分の報告。インフルエンザの予防接種の実施について
- 11/24 健康診断の結果の報告、禁煙外来の実施時期について検討
- 12/22 健康診断の2次検診者への通知方法について検討、敷地内禁煙の完全実施について再確認
- 1/26 結核接種者の調査報告について、職員の年休取得率調査の報告
- 2/24 新規中途採用者の健康診断について、禁煙外来の実施内容について
- 3/29 健康診断の2次検診受診率について、禁煙外来の実施内容について

<文責 亀谷良文>

## 患者サービス向上委員会

目的： 選ばれる病院になるために職員一人一人が接遇マナーを身につけることができる。

目標： ①接遇意識を高めることができる。  
②患者の満足を得るために全職員の対応サービスの向上が図れる。

構成員： 委員長 木村カズ子

委員 丹羽 誠 江畑久仁男 佐藤セツ子 細谷 謙 照井 圭子  
佐藤 正弘 佐藤 俊幸

### ○委員会開催日

平成23年11月29日

- ①外来アンケートの内容確認
- ②平成23年度外来アンケートの実施について
- ③平成23年度入院アンケート上半期の集計結果
- ④平成23年度接遇研修会について

### ○患者満足度アンケート調査

- ・入院アンケート調査実施（平成23年4月～平成24年3月）

上半期（平成23年4月～平成23年9月実施）

下半期（平成23年10月～平成24年3月実施）

アンケート結果は院内10箇所の外来待合ホール・病棟ディールームにファイルにし掲示

- ・外来アンケート調査実施（平成23年12月15日～平成23年12月21日）

アンケート結果は院内10箇所の外来待合ホール・病棟ディールームにファイルにて掲示

### ○接遇研修（全職員対象）

日時：平成23年12月15日 17：30～19：00

場所：4階会議室

講師：株式会社エスアールエル 営業人財開発グループ 浅田 均 氏

テーマ：「接遇の基本と実践」 参加者 157名

### <まとめ>

今年度の接遇研修は、①良い印象 ②笑顔・傾聴 ③応対力強化練習（クレーム対応）を目的に研修会を行いました。印象を良くする（笑顔、あいさつ）、言動の3要素（言葉・態度表情・声の調子）、クレーム対応の鉄則など接遇の基本を再認識することができました。患者満足度調査の結果では沢山のご意見・ご要望をいただきました。貴重な意見を活かし、地域の皆様が安心して利用できる病院、利用しやすい病院を目指していきたいと思います。

<文責 木村カズ子>

# 広報委員会

## 【概要】

広報委員会は、当院の医療情報や活動状況について、病院広報誌・病院ホームページを通じて、地域の住民及び医療機関等に広く情報提供することを目的とする。

病院広報誌は、年4回の発行を目標に、患者さん、地域の皆様、秋田県内の各病院、地域医療携室関連の施設などにむけて、当院の活動紹介や医療情報の提供、病気の予防策などを掲載している。平成22年度より横手市内へ回覧板で回覧することになり、平成23年度より横手市内全戸配布となった。

病院ホームページは、平成22年3月24日に市立病院として横手・大森の両病院に統一性を持たせ、リニューアルした。平成23年度よりトップページフラッシュ動画を四季で変化させ当院の様子をお伝えできるようにした。

また、平成24年度より看護師、コメディカルのメンバーを増員し、より皆さんのお役に立てるような最新情報を提供していきたいと考えている。

## 【構成員】

委員長	診療科	船岡 正人
副委員長	総務課	佐藤 俊幸
	総務課	柿崎 正行
	医事課	石山 博幸
	地域医療連携室	高橋 美幸
	総務課	阿部千鶴子

## 【委員会開催】

平成23年6月23日	ホームページシステム改善点について 病院広報誌26号について
平成23年8月9日	ホームページフラッシュ画像について
平成23年9月22日	病院広報誌27号について 委員会要綱一部改正について ホームページフラッシュ画像について
平成23年11月17日	病院広報誌28号について ホームページフラッシュ画像について
平成24年3月15日	病院広報誌29号について ホームページ掲載内容について 委員会要綱一部改正について

## 【病院広報誌の発行】

平成23年5月	第25号発行
平成23年8月	第26号発行
平成23年11月	第27号発行
平成24年1月	第28号発行

<文責 阿部千鶴子>

## 診療記録開示審査委員会

### 概要

「横手市個人情報保護条例」の制定を受けて策定された「市立横手病院における診療情報提供実施要領」及び「診療記録開示事務処理要領」に基づき、院内に設置された。本人もしくは家族からの開示請求手続きによって開催される。

### 構成員氏名

	役 職	氏 名
委 員 長	副 院 長	吉 岡 浩
	院 長	丹 羽 誠
	副 院 長	船 岡 正 人
	副 院 長	藤 盛 修 成
	副 院 長	江 畑 公仁男
	総看護師長	木 村 カズ子
	事務局長	佐 藤 正 弘
	医事課長	浮 嶋 優 子

### 活動記録

平成23年度は、29件の開示請求があり、文書回覧による決裁により開示を行ったが、委員会の開催実績はなかった。

<文責 佐藤正弘>

# 年報編集委員会

## 【目的】

市立横手病院の年報を編集することを目的とする

## 【構成員】

委員長	診療科	小松 明
	リハビリテーション科	高橋 茂実
	診療放射線科	岡根 和義
	薬剤科	渡邊 圭子
	看護科	畠田 麗子
	看護科	赤沼ゆかり
	臨床検査科	小丹まゆみ
	食養科	天羽 勝義
	総務課	藤木 正文
	医事課	百合川深里

## 【委員会開催】

平成23年4月18日

前年度の反省及び今年度の方向性

今年度年報の原稿依頼

平成23年6月20日

提出済み原稿の校正

未提出原稿の督促と期日

平成23年7月25日

提出済み原稿の校正と回覧

未提出原稿の督促と期日

平成23年8月9日

提出済み原稿の最終校正

<文責 百合川深里>

## 個人情報保護委員会

### 【目的】

患者様の個人情報の確実な保護を目的とし、院内の各種情報システムのセキュリティ強化及び各種情報の開示等について、その手法及び各種規程等について検討するとともに、全職員に対して個人情報保護に関する周知を図る。

### 【構成員】

委員長 佐藤 正弘  
委員 丹羽 誠 木村カズ子 佐藤 俊幸 浮嶋 優子 柿崎 正行

### 【業務】

- 電子カルテシステムの稼動に伴い、各種医療情報システムのセキュリティ強化の検討
- 「個人情報保護規程」等各種規程・要領等の改正
- 全職員対象の個人情報保護に関する研修会の開催

### 【委員会開催状況】

平成23年度については、委員会を一度も開催しなかったものの、新入職員研修会、看護科の随時採用者に係るシステム研修の際に個人情報保護に関する研修を実施した。

また、平成23年度に導入した電子カルテ端末制御管理システムについては、USBメモリ等の外部メモリ・ストレージの使用について、許可されたものしか使用不可とし、さらにコピーのログを保存することとしたのに加え、3月にはシステム上から棚卸を実施することにより、USBメモリ等の所在について確認を行なった。

<文責 柿崎正行>

## 看護科の委員会

### 教育委員会

#### 【委員会目的】

専門職業人として、個々の支質や能力を伸ばし、主体的に学習し成長してゆくために継続的に支援することを目的とする。

#### 【構成メンバー】

委員長	木村真貴子				
副委員長	石橋由紀子				
委員	永須 直美	中村勇美子	鈴木 智都	山田 沙織	高橋まゆみ
	太田奈緒美	斎藤みどり	高橋 恵子	高田真紀子	桐原 峰子
	草薨美保子	佐藤加代子			

#### 【平成23年度委員会目標】

1. 新人教育確立のために教育プログラムの見直しをはかる

#### 【活動内容】

##### <新人研修・新人教育>

##### ○基本技術と基礎知識（4月）

「インスリン、麻薬の取り扱いについて」

「輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱いについて」

「胃瘻について」

「十二誘導心電図モニター装着と取り扱いについて」

「輸血確認準備について」

##### ○心電図研修会・日本光電（6月）

##### ○新人評価 3回（7月、12月、3月）

##### ○糖尿病教室見学

##### ○次年度プリセプター研修（3月）

##### <継続教育>

##### ○伝達講習 7/14

「看護必要度について」 下夕村優子、佐藤 秀子

出席者52名

##### ○5、10年目以降の研修 11/17 グループワーク

対象16名中8名参加、欠席者はレポート提出

「当院インシデントレポートのKYT」

- 11月・12月 ☆2年目研修 研究・ケーススタディ発表 師長主任会で発表
- 「転落防止に対する付き添いの保護者への啓発の必要性」 4 C 深沢 美里
- 「器械だし看護について 幽門側胃切除術患者の1例を通して」  
手術室 柿崎 琢磨
- 「脳梗塞患者と家族への関わり」 3 A 佐藤 郁美
- 「正中創からの浸出液のあるストーマ造設患者のパウチ交換と浸出液への対応」  
3 B 高橋まき子
- 「寝たきり患者の口腔内乾燥と舌苔改善への効果的な口腔ケア」  
2 A 佐々木 綾
- 「化学療法を受ける患者への日常生活での感染予防に対する関わり」  
2 A 吉水 桃子

○卒後3年目（当院就職後含む） 手術室見学及び挿管、抜管介助 2名

#### 【平成23度の反省】

今年度の目標として新人教育プログラムの見直しを掲げた理由は、昨年1年を通して新人育成が難しかったためである。看護大学の急増やカリキュラム編成に伴う実習の未経験により、新卒新人の独り立ちに時間を要した。これらの社会的背景を考慮した新人育成カリキュラムを作り上げていかなければならない。さらにそのためには全体を支える中堅看護師のレベルアップも必要となってくる。看護教育委員会だけでなく、看護科や病院一丸となって新人職員を育てる環境を整えることが今後の課題である。

<文責 木村真貴子>

# 看護研究委員会

## 【構成メンバー】

委員長 高本 和子  
副委員長 高橋 正子  
委員 佐藤 鋼子 小田島ひとみ 吉川ちあき 佐藤 睦子 佐藤 郁美  
塚本 梢 岩見香名子 高橋亜由美 照井かおる 古関亜矢子  
佐々木美智子 高橋 朋子

## 【平成23年度委員会目標】

- 1、委員会メンバーは各部署の看護研究に対して支援し、研究班と共に研究技法の向上に努める。
- 2、看護研究で得た新しい知見を病院の看護ケアの改善・向上に貢献する。

## 【研究発表】

座長 佐藤美夏子 石橋由紀子  
演題1、「手術室看護師の震災に対する意識調査と今後の課題  
手術室 谷口 順子  
演題2、「フローチャートを用いた転倒・転落予防への意識改善」  
2 A病棟 柴田 瞳  
演題3、「エンジェルケアに関する病棟看護師の意識調査」  
3 A病棟 武藤 夏子  
演題4、「術後ドレーン自己抜去予防への取り組み」  
～ドレーン収納型ベストの作成～  
3 B 佐々木孝子  
演題5、「腹水穿刺時にWebカメラを用いた取り組み」  
3 C 高橋亜由美

## 【講評】秋田県立衛生看護学院

研修班副主幹兼班長 齋藤みすず先生  
参加人数 看護科 58名  
コメディカル 2名  
医師 2名

## 【統括】

今年度も秋田県立衛生看護学院の齋藤先生より研究計画の時点より指導を頂き、その後各部署の委員は研究班へ支援を行い論文作成に取り組みました。

まだまだ力不足はありますが、徐々にレベルアップできる様に今後も継続した活動と自己研鑽を重ねていきたいと思っております。

<文責 高本和子>

## 計画記録委員会

### 【委員会目的】

1. カルテ開示に向け、看護記録の質の向上を図る。
2. 看護計画に基づいた看護ケアを提供するため評価・修正し、看護の質の向上を図る。  
患者参加型の看護計画を立案し実践する。

### 【構成メンバー】

佐藤セツ子	木下 文子	高橋千鶴子	高本 和子	木村真貴子
藤井 洋子	照井 洋子	高橋 礼子	下夕村優子	高橋 正子
高橋 共子	高橋麻理子	森本 和子	高橋まゆみ	高橋 亮子
武藤 夏子	熊澤あゆみ	高橋 華澄	稲川 雅美	高橋 康子
高橋 大樹	赤川恵理子	藤谷 栄	松川かおり	池田 弘恵

### 【目標及び活動計画】

目 標 : さらなる記録の質の向上（簡潔・明瞭）を図る。

活動計画 : (1) 患者情報シートの見直し・・・5月～7月  
(2) 看護情報の見直し ……8月～10月  
(3) 経過観察表の見直し ……11月～3月

### 【活動内容】

#### (1) 患者情報シートの見直しについて

- ・各部署からの問題点・改善点を出し合い、8月より新シートを使用した。渡す対象は予約入院のみで、入院予約担当事務が必要な項目をアナムネ入力し、必ず病棟の担当看護師が確認、必要なら追加修正し最終入力を行うこととした。
- ・使用1ヶ月後に一時評価を行ったが、予約担当事務が入力に時間を要するため入院サポートがスムーズにいかないこともあり、身長・体重・アルコール・喫煙歴のみを入力することとなった。

#### (2) 看護情報の見直しについて

- ・タグの使用頻度を考慮し、看護情報の並べ替えは随時行った。
- ・医師事務作業補助者の導入により、9月より医師処置の代行入力が可能となったため、代行入力項目を検討し実施した。

#### (3) 経過観察表の見直しについて

- ・経過表の簡易記録移行のための、ルール決めをおこなった。
- ・内容については、次年度引き続きの検討事項とした。

#### (その他)

- ・透析記録は5月より電子カルテに申し送り入力開始
- ・11月～F L初回挿入または抜去後の再挿入理由について、看護情報より選択して入力
- ・11月～心カテーテル検査・アンギオチェックリストが患者の文書管理よりだせるようにした。
- ・12月～ペースメーカー植え込み・ジェネレーター交換のチェックリストも文書管理より出力できるようにした。

<文責 藤井洋子>

## 師長主任会議

業務、看護科の諸問題を取り入れ意見交換の場をしている。

目的 1. 看護科における諸問題を討議し、看護科運営の円滑を図る。

内容 1. 業務手順に関すること  
2. 看護科の諸問題を討議し、決議する

構成 22名（総看護師長 1名 副総看護師長 1名 看護師長 8名 看護主任12名）

会議 月初め 1回

内容 4月 宮古での震災体験について  
5月 看護科の雇用形態について  
6月 ①中止になった点滴薬剤の対応について  
②入院基本料 7対1 について  
7月 看護体制について  
8月 ①DPCについて  
②院内掲示板マニュアルについて  
9月 ①蓄尿検査の手順について  
②エンジェルケアについて  
10月 医療安全に関する勉強会  
11月 教育委員会主催：2年目看護師ケーススタディ 2名発表  
12月 教育委員会主催：2年目看護師ケーススタディ 4名発表  
H24・2月 ①看護科ポケットマニュアルについて  
②新採用職員（看護師）看護技術研修について  
3月 看護科の各マニュアルについて

<まとめ>

前年度から 7対1 看護配置に向けて取り組んだ。業務改善については病院全体で取り組み、看護師以外のコメディカルも含めて人員確保できたことは非常に大きい。

<文責 木村カズ子>

## 師長会

- 目的
1. 看護科における諸問題を協議し、看護科運営の円滑をはかる
  2. 病院運営に関する諸問題について看護科の意見を反映する

- 内容
1. 看護科の諸問題を協議し決議する
  2. 予算、決算、人事、各委員会に関すること
  3. 病院経営への提案及び答弁
  4. リーダー教育
  5. 部署会議の報告

構成 10名（総看護師長1名 副総看護師長1名 看護師長8名）

会議 月1回

### <まとめ>

部署長はスケジュールを組み計画的に個々にあわせて面接を年2～3回実施おり、面接を通してスタッフの要望、意見、想いを把握している。平成23年度は増改築工事終了し、人員配置も含め各部署ようやく落ちついた。師長会だけでは解決できない問題は病院全体として取り組んでいく方向としている。各部署定例会、検討事項などはあらかじめ資料を配布し検討し、師長会で最終決定している。

<文責 木村カズ子>

## 看護補助者会

構成 45名（看護補助者24名 業務員15名） 平成24年3月末

看護補助者そのもののレベルアップと組織人としての自覚に向け、年間研修スケジュールを計画し看護補助者研修を実施した。看護補助者が看護のチームの一員として仕事をするには教育が重要。実技も取り入れ、患者移送移乗（リハビリ）・ポジショニング（皮膚・排泄ケア認定看護師）・標準予防策（感染管理認定看護師）など実施。非常に学習意欲があり、研修効果が得られたと実感している。受講者の意見、感想も踏まえて次年度につなげていきたい。

### 平成23年度看護補助者研修

	開催月	内 容	担 当
1	4/25	看護補助者業務について	総看護師長 木村カズ子
2	5/16	移送移乗（実技含む） 介助方法について	理学療法士 高橋 貞広
3	6/17	各種検査の正式略語について	副総看護師長 佐藤セツ子
4	6/14・ 16・29	おむつ交換について（実技含む）	皮膚排泄認定看護師 佐藤美夏子
5	6/22	喀痰検査と採取方法	検査科技師長 佐藤恵美子
6	7/29	医療安全と感染対策	秋田大学医療安全管理部准教授 伊藤 亘
7	9/6	洗浄・消毒・滅菌	感染管理認定看護師 小川 伸
8	10/19	褥瘡予防のケア （体圧分散・ずれ予防）	皮膚排泄認定看護師 佐藤美夏子
9	11/18	感染管理合同研修会 感染管理プログラム	坂総合病院 感染管理班 残間由美子
10	12/15	接遇研修会 接遇の基本と実践	S R L 浅田 均
11	H24 3/9	医療安全研修会 災害時の患者搬送（実技含む）	キャピイーインターナショナル 櫻井 一敏

＜文責 木村カズ子＞



## 學術研究業績



## 院内 <医局勉強会>

平成23年4月～平成24年3月

平成23年4月	心房細動・・・・・・・・・・・・・・・・	根本 敏史 (循環器内科)
平成23年4月	医療者は知っておきたい多剤耐性菌・・・・・・・・	齋藤 紀先 (呼吸器内科)
平成23年5月	消化器がん リスクファクターを中心に・・・・・・・・	奥山 厚 (消化器内科)
平成23年5月	NSAIDsとアセトアミノフェン・・・・・・・・	谷川 裕子 (薬 剤 科)
平成23年6月	危機的大量出血への対応・・・・・・・・	寺田 宏達 (麻 酔 科)
平成23年7月	脛骨天蓋骨折に対するイリザロフ創外固定の試み・・	富岡 立 (整 形 外 科)
平成23年7月	「地域で看取る」 病院の立場から・・・・・・・・	丹羽 誠 (外 科)
平成23年9月	ヘリコクターピロリについて・・・・・・・・	木下 幸寿 (消化器内科)
平成23年9月	PPI服用時点の検討・・・・・・・・	武石 知希 (薬 剤 科)
平成23年10月	褥瘡の状態評価と慢性期褥瘡の局所治療について・・	加藤 健 (外 科)
平成23年10月	急性膵炎の初期治療における注意事項・・・・・・・・	船岡 正人 (消化器内科)
平成23年10月	早期胃癌に対する内視鏡治療・・・・・・・・	渡部 昇 (消化器内科)
平成23年11月	経口補水療法・・・・・・・・	小宅 英樹 (薬 剤 科)
平成23年12月	大腿頸部、転子部骨折・・・・・・・・	佐々木 研 (整 形 外 科)
平成23年12月	高血圧 JSH2009ガイドラインについて・・・・・・・・	和泉千香子 (循環器内科)
平成24年1月	急性膵炎について・・・・・・・・	泉 純一 (放 射 線 科)
平成24年1月	発熱、発疹で来院した2症例・・・・・・・・	高木 遥子 (循環器内科)
平成24年2月	高齢者の終末期の医療およびケア・・・・・・・・	藤盛 修成 (消化器内科)
平成24年2月	禁煙治療における薬物療法・・・・・・・・	佐々木洋子 (薬 剤 科)
平成24年3月	誤嚥性肺炎・・・・・・・・	粕谷 孝光 (外 科)

平成 23 年 学術発表

No.	月 日	学 会 名	開催地	演 題	発 表 者	
1	10月20日	JDDW2011 (日本消化器関連学会)	福岡市	当院人間ドックにおける経口経鼻内視鏡の胃癌 発見精度比較	医局	荒田 英
2	5月9日	第70回 日本医学放射線学会総会	WEB	虫垂または虫垂開口部近傍盲腸腫瘍のCT所見の 検討	医局	泉 純一
3	1月	日本消化器外科学会雑誌 第44巻 第1号		直腸 gastrointestinal stromal tumor 局 所再発に対し 経直腸的ラジオ波焼灼療法が有 効であった1例	医局	加藤 健
	4月	日本外科系連合会誌 第36巻2号		経肛門の切除を施行した肛門外脱出S状結腸癌 腸重積の1例		
4	2月5日	第190回 日本消化器病学会 東北支部例会	仙台市	胆石イレウスの2例	医局	木下 幸寿
5	11月25日	第39回日本頭痛学会総会	大宮市	子痛発作を来たし緊急帝王切開術を要した可逆 性脳血管攣縮症候群と考えられた一例	医局	塩屋 斉
6	9月11日	日本超音波医学会 東北地方会 第42回 学術集会	横手市	造影超音波モードでの固定MI値の有用性	医局	長沼 裕子
7	6月	死の臨床 vol.34 No.1		地域で看取る・地域の病院の立場から	医局	丹羽 誠
8	8月26日	第52回 日本人間ドック学会	大阪市	当院健康管理センターにおける血清ALP単独高値 例の検討	医局	船岡 正人
9	10月23日	第82回 日本消化器内視鏡学会	福岡市	当院における早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下 層剥離術 (ESD) SM浸潤例の検討	医局	渡部 昇
10	9月10日	第71回 日本心身医学会東北地方会	盛岡市	気管支喘息および咳喘息・アトピー咳嗽患者に おける各種心理テストの比較検討	医局	齋藤 紀先
	9月18日	日本交流分析学会第36回大会	東京都	術後慢性症状を訴える肺癌患者に対する抑う つ・不安の評価と心身医学的治療後の経過につ いて		
	11月26日	第16回 日本心療内科学会	東京都	気管支喘息および咳喘息・アトピー咳嗽患者に おけるSDS、STAI、SGE、CAIを用いた心身医学的 評価の試み		
	11月26日	第16回 日本心療内科学会	東京都	術後慢性症状を訴える肺癌患者に対する抑う つ・不安の評価と交流分析的評価の試み(第2報)		
	12月10日	第2回 北東北心身医療研究会	盛岡市	術後慢性症状を訴える肺癌患者に対する心身医 学的評価の試み		
11	10月19日	第50回 全国自治体病院学会	東京都	針刺し・切創防止の取り組み	医療安全管理室	小川 伸
12	10月20日	第50回 全国自治体病院学会	東京都	当院看護師への行動制限に関する実態調査	看護科	高橋 亮子 他
13	9月15日	第27回 診療放射線技師総合学術大会	青森市	放射線科における緊急時対応の取り組み	診療放射線科	齋藤 千尋
	10月19日	全国自治体病院学会 第50回記念大会	東京都	放射線科における緊急時対応の取り組み		
14	2010年	医学検査 VOL.59 NO.12 2010		当院小児科上咽頭培養の細菌学的検討	臨床検査科	佐々木絹子
15	10月15日	第1回 東北放射線医療技術学術大会	盛岡市	高濃度粉末バリウム製剤の比較	診療放射線科	佐藤 裕基
16	9月18日	第27回 診療放射線技師総合学術大会	青森市	医療被ばく低減施設認定を受診して	診療放射線科	藤原 理吉
	9月	第27回 診療放射線技師総合学術大会 日本放射線攻守安全学会 学術大会 日本放射線公衆安全学会誌		市民生活におけるNORM (Natural Occurring Radioactive Materials) の検討		
17	10月15日	第1回 東北放射線医療技術学術大会	盛岡市	CT内臓脂肪測定におけるノイズ加算画像を用 いたシミュレーション	診療放射線科	法花堂 学
18	9月17日	日本放射線技術学会 総合学術大会	青森市	医療被ばく低減施設認定について	診療放射線科	村上 千恵
19	6月19日	第56回 日本透析医学会	横浜市	熱湯クエン酸消毒におけるAo値の測定	ME室	川越 弦
20	5月28日	日本超音波医学会 第84回学術集会	東京都	Dual Doppler を用いた門脈波形の検討	臨床検査科	大嶋 聡子
	10月19日	全国自治体病院学会 第50回 記念大会	東京都	Dual Doppler を用いた門脈波形の検討		
21	9月11日	日本超音波医学会 東北地方会 第42回 学術集会	横手市	肝内シャントのDual Dopplerを用いた観察	臨床検査科	小丹まゆみ

## 同好会活動



## 野球部

昨年度中止となった唯一の公式戦である県南病院野球大会に標準を定め、練習や大森病院との交流戦を行った。その他にも部員通しで連絡を密に取ったり、懇親会も開催したりと指揮を高めた。

大会は天候にも恵まれ、予定通り開催された。1回戦（対協和病院）は、初回から打線が爆発し、優位に試合を運ぶことができた。試合を通して狙い通り打ち勝って勝利をつかみ取った。続く、代表決定戦（対J A秋田厚生連 仙北組合総合病院）は、先制点は奪えたものの、相手チームの4番の特大ホームランなどで逆転された。しかし、長打を含む連打で再逆転に成功。わずか1点差ではあったが、なんとか守りきり全県大会出場の切符を手にした。

全県大会では1回戦（対中通総合病院）で中央地区との差を見せつけられ、完封負けを喫した。調整不足も否めなかったが、全県大会出場が今年度の目標であったため、勝利にこだわらなかった要素があったのかもしれない。来年度からは全県大会の勝利を目標に切磋琢磨していきたい。

### ○ 主な活動内容

日付	内容	場所	結果
6月18日	練習	大鳥公園	
6月29日	練習	大鳥公園	
7月2日	交流試合 市立大森病院	スタジアム大雄	7 - 6 ○
7月16日	県南病院野球大会 協和病院	市営球場	12 - 6 ○
	J A秋田厚生連 仙北組合総合病院	市営球場	7 - 6 ○
8月28日	練習試合 86's（平成高校OB）	市営球場	1 - 10 ×
10月29日	全県病院野球大会 中通総合病院	弁天球場・雀館球場	0 - 9 ×

<文責 熊谷 剛>

## バレーボール部

平成23年3月11日に東日本大震災があったこともあり、定期的な練習は行えなかった。しかし、9月に行われる「全県病院対抗バレーボール大会」へ参加をめざし、8月には週一回の練習を行った。

練習の成果があり、「全県病院対抗バレーボール大会」予選リーグは2勝することができた。惜しくも同じブロックに2勝したチームが2チームだったため、得失点差で1点及ばず予選敗退してしまった。大変残念だったが、充実した1日だった。

来年こそは決勝トーナメントに進出・対外試合を行うことを目標に練習を行っていきたい。

### 第32回「全県病院対抗バレーボール大会」結果報告

日 時 9月10日（土） 午前9時開会

場 所 県営トレーニングセンター

参加病院数 15チーム

市立横手病院はAブロックで試合を行った。（4チーム：各施設2試合で勝率の多いチームが決勝トーナメントへ進出）

#### 結 果（Aブロック）

- |    |          |                  |
|----|----------|------------------|
| 1位 | 平鹿総合病院   | 2－0（決勝トーナメントへ）   |
| 2位 | 市立横手病院   | 2－0（得失点差1点のため2位） |
| 3位 | 雄勝中央病院   | 0－2              |
| 4位 | 医療療育センター | 0－2（得失点差で4位）     |

優勝：中通総合病院

<文責 木村恵美子>

## 職員等互助会



## 職員等互助会

### 概 要

職員等互助会は、当院に勤務する職員及び嘱託職員並びにパート職員（会員）の相互共済を図り、福利増進に寄与することを目的としている。職員歓送迎会、盆踊り大会参加、研修旅行、大忘年会など各種行事の主催・運営、祝い金・見舞金・弔慰金の給付、院内同好会活動への補助を行っている。今後もこれらの福利厚生事業などを通じ、会員の親睦と交流を深め、所期の目的を達成するため活動をしていく予定である。

### 役員氏名

会長	藤盛 修成
副会長	郡山 邦夫
幹事	佐藤 俊幸、平塚多喜雄、原田 優子、高本 和子、 丹 厚子、後藤美佐子
監事	木村カズ子、浮嶋 優子
事務	藤木 正文

### 23年度に実施した主な病院行事等

- 平成23年4月15日 職員歓送迎会 横手セントラルホテル 参加者132名  
実行委員長 伊藤 卓雄  
実行委員 齊藤 千尋、古関 佳人、高橋みきこ、工藤真希子、天羽 勝義  
佐々木 綾、佐藤 直子、熊澤あゆみ、小野寺摂子、佐藤 秀子  
佐藤 鋼子、小田嶋ゆう子、亀谷 良文、高橋真知子、柴田 昌洋
- 平成23年8月15日 市民盆踊り大会 横手市役所前 おまつり広場 参加者72名  
実行委員長 加藤 健  
実行委員 村上 千恵、鈴木 務、渡邊 圭子、加賀谷美智子、藤原 由香  
畑澤 雪絵、武藤 夏子、高橋まき子、高橋 歌澄、武田フミエ  
小田嶋千津子、村上 玲子、藤木 正文、伊藤有希子、青池 満雄  
奥山沙耶香
- 平成23年9月24日・10月13、15、20、22日  
研修旅行 仙台、平泉、男鹿 参加者98名  
実行委員長 齋藤 紀先  
実行委員 佐藤 裕基、高橋 貞広、大山 丹子、小丹まゆみ、松井世津子  
柴田 瞳、佐々木泰広、加賀谷優紀、鈴木真紀子、高橋 康子  
渋谷 美紀、小田嶋明子、佐藤 俊幸、谷口 明美、佐々木和貴子  
藤倉 美穂
- 平成23年12月16日 大忘年会 横手セントラル 参加者191名

実行委員長 荒田 英

実行委員 岡根 和義、石川 順基、高橋 紀子、村上さとみ、富永美保子  
佐々木 綾、岩澤 希、鈴木健太郎、阿部 萌子、高橋はるみ  
宇佐美由美子、村上 玲子、柿崎 正行、阿部千鶴子、石塚 紫  
伊藤真理子

○平成23年12月23日 白衣のクリスマスコンサート

実行委員長 本郷 修平

実行委員 郡山 邦夫、渋谷 美紀、谷川 裕子、平塚多喜雄、天羽 勝義  
池田 弘恵、藤原 周子、伊藤 笑子、高橋亜由美、佐藤 晃子  
佐々木佳子、佐々木美紀子、菊池 優、高橋由紀子、藤田ゆかり  
菊地 智子

○平成24年3月23日 送別会

実行委員長 吉岡麻依子

実行委員 高橋 洋、佐々木泰広、和賀 幸子、梅川 素子、北小路由紀  
奥山かずえ、煙山由紀子、佐藤瑠衣子、松浦 喜美、小松 信宏  
佐々木美紀子、細谷 謙、鈴木 智都、谷川香奈子、柿崎 更正

○サークル補助等 3件

○慶弔給付 結婚祝金 8件、弔慰金 12件、退職報償金 10件、入院見舞金 2件

<文責 藤木正文>

## 編集後記

未曾有の大惨事がまだまだ世に影を落としていた平成23年4月、長きにわたる長山体制に別れを告げ、丹羽新体制へと世代交代が成された。引き続き職員一丸となって前に進まなければならない。

被災地3県に比し、秋田県は被害が少なかった、と言えるが、この3県へのバックアップはこれからも恒常的に続けなければならない。かなりの時間を要しても、この3県の医療環境が、そして人々の暮らしが“いつもどおり”になることを願っている。

<文責 小松 明>



**一日院長・総看護師長任命式**  
 一日院長 高橋 とわくん  
 一日総看護師長 三浦ななみちゃん  
 かわいらしい二人に会場からも大きな拍手!

# 病院祭

11月6日(日)開催

ふれあいに感謝  
 地域とともに  
 122年



**オープニング**  
 院長丹羽誠よりご挨拶

## クリニック漫談

南々亭骨太さん(すずきクリニック院長)をお迎えし、笑うことは健康になると笑いの大切さをユーモアを交え、お話ししていただきました。



## 院長講演

医者にかかる10箇条「あなたが命の主人公・からだの責任者」のテーマで、患者さんが自分の望む医療を選択し、治療を受けてもらうためには、自分が命の主人公で、からだの責任者であり、患者さんと医療従事者相互のコミュニケーションが大切だということをお話いたしました。



## 明照保育園マーチング

あいにくのお天気で待合ホールでのマーチングになってしまいましたが元気いっぱいの演奏と行進で病院祭をスタートすることができました。

## ほっくん・やきっぴ

北都銀行マスコットキャラクターのほっくんと横手焼きそばマスコットキャラクターのやきっぴが遊びに来てくれました。どこへ行っても大人気でした。



## ソプラノコンサート

ソプラノ 佐々木貴久子さん  
 ピアノ 柿崎真理子さん  
 歌の翼に、小さい秋みつけた、「こもり」よりアデーレのアリアなど美しい歌声を披露していただきました。



## 城南高校よさこい音頭

城南高校YOSAKOI同好会の皆さんにより、息の合った迫力のある踊りを披露していただきました。

## バザー

病院職員に呼びかけ品物を集めバザーを行い大盛況でした。バザーでの収益金49,310円は、東日本大震災お見舞い金として役立てていただけるよう秋田魁新報社横手支局にお渡ししております。



## 模擬手術

横手高校・城南高校・清陵高校の皆さんにより、実際に手術で使用している器具を使い模擬手術の対戦をしました。



## 弦楽四重奏

バイオリン 大和香名子さん  
 菊地祥子さん  
 ピオラ 斉藤響子さん  
 チェロ 三浦邦明さん

待合ホールでのコンサートの他、病棟デイルームでも演奏していただき、入院患者さんにも楽しんでいただけました。



## 閉会式

横手市病院事業管理者 長山正四郎よりご挨拶





### 感染予防キッズセミナー

感染管理担当を中心に手の洗い残しが一目でわかる手洗いチェッカーを使用した手洗いの指導や、感染予防クイズを掲示し子供たちが楽しみながら感染予防ができるコーナーを設けました。



### 介護の技伝えます

皮膚排泄ケア担当を中心に床上での介護体験や介護に関するまめ知識のパネル展示、当院の取り組みなどを紹介し介護の技を身に付けてもらえるコーナーを設けました。



### 診療放射線科

マンモグラフィーの公開とデモンストレーションでは実際に疑似体験をしていただきマンモグラフィーについて理解していただけた。その他、医療画像の紹介、新しい胸部X線画像の紹介、医療画像3D処理によるデモンストレーション、医療被ばく相談を行いました。



### 検査科

業務紹介、採血管・顕微鏡の展示、肺機能・肺年齢測定を行いました。子供たちはミクロの世界に興味津々でした。



### 薬剤科

病院薬剤師の仕事紹介、お薬相談コーナー、新しいインフルエンザ治療薬の紹介などをDVDやパネル展示を利用して紹介しました。



### 消化器センター

内視鏡検査室を開放し、小腸検査のカプセル内視鏡の説明や大腸検査の検査食の試食、実際使用している検査器具の展示をしました。



### 糖尿病委員会

生活習慣健康相談、血圧測定・血糖測定、インスリン針の模擬穿刺体験、食品サンプル展示、糖尿病・糖尿病の薬に関するパンフレット展示、健康においしく食べる味の工夫の指導を行いました。



### 健康管理センター

乳がんの自己検診、呼気一酸化炭素濃度測定、人間ドックの紹介をしました。乳がん触診モデルを設置し、乳がん自己検診に役立てていただけたよう呼びかけました。

たくさんの方にご来場いただき、心より感謝申し上げます。今後も職員一同、一丸となって努力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

その他の病院祭の様子は病院ホームページでもご覧いただけます。  
市立横手病院ホームページ  
<http://www.yokote-mhp.jp/>



### 看護師体験

看護科主催の看護師体験コーナーを設置しました。看護師に変身の他、血圧・血流測定、聴診器の使い方、包帯の巻き方を体験していただきました。中でも血流測定は大人気でした。

### ME室

ME室を開放し、病院で使用されている医療機器の紹介、AED(自動体外式除細動器)を展示し、実際に触れてもらいました。



### 回復のトビラ

～リハビリテーション科へようこそ～

リハビリ業務紹介、らくらく体操、ビデオ、ポスター、サンプル展示を行いました。



中でもらくらく体操は参加していただいた方々から「よかった!」の好評の声をいただきました。

### 超神ネイガーショー・握手会



正義の味方ネイガー一達がかけてくれました。ショーを見た子供たちは大興奮!診察を邪魔する悪役との戦いではあちらこちらから「ネイガーがんばれ～」の声が聞かれ応援してくれました。